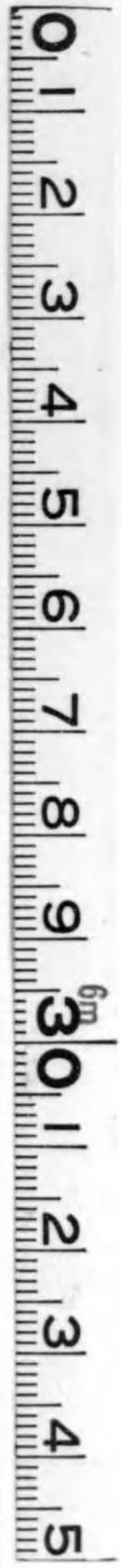


14.21
207



始

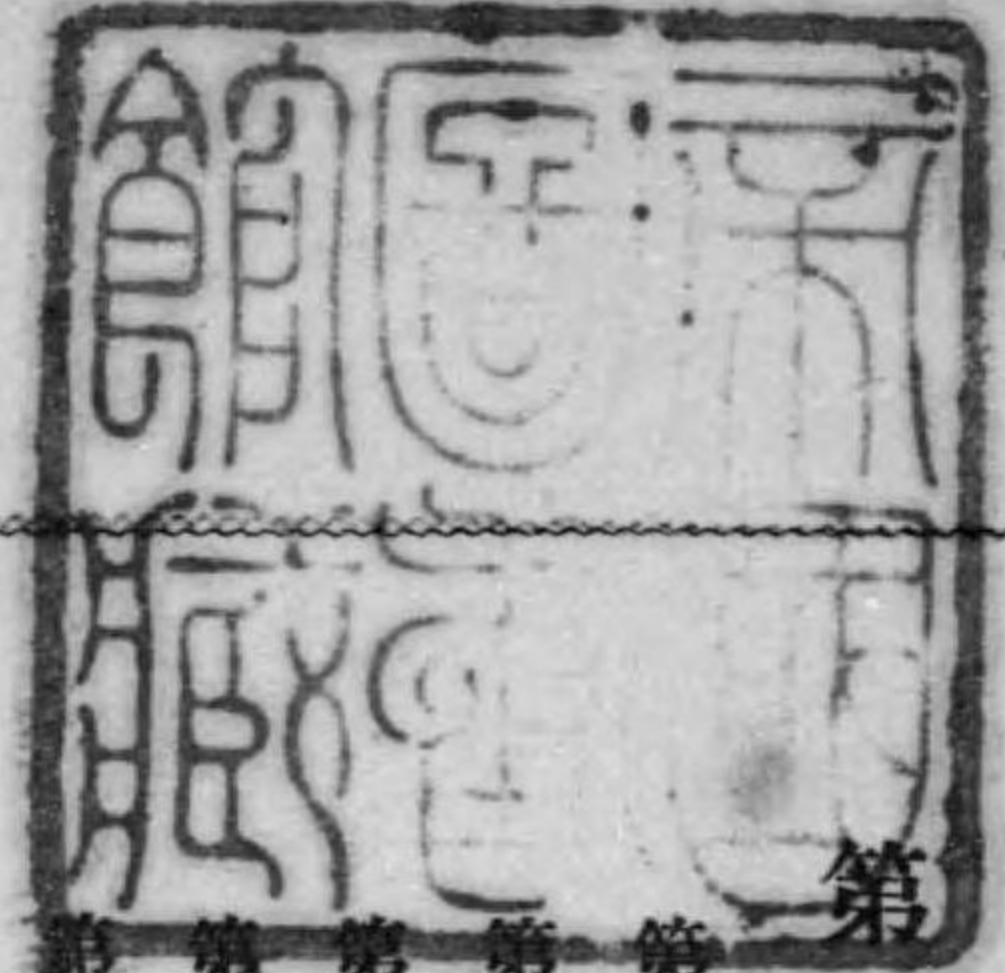


殖產局出版第一二六號

臺灣第九產業年報
(大正二年)

臺灣總督府殖產局

14₂₁-297



(F)

臺灣第九產業年報

目次

第一編	農業	101
第一章	總論	101
第二章	氣候	102
第三章	農業人口	103
第四章	耕地	104
第五章	農產	105
第一節	稻	105
第二節	甘藷	106
第三節	大麥及小麥	107
第四節	豆類	108
第五節	粟及黍	109

寄贈本

5. 5. 16 寄贈

目次

第六節	甘蔗	六一
第七節	茶	六九
第八節	煙草	七三
第九節	落花生、胡麻及菜種	七六
第十節	木藍及山藍	七九
第十一節	苧麻及黃麻	八二
第十二節	蘭草及鳳梨纖維	八四
第十三節	柑橘	八五
第十四節	龍眼	九〇
第十五節	鳳梨	九四
第十六節	苧蕉	九七
第十七節	柿、李及桃	九九
第十八節	蠶業	一〇一
第六章	畜產	一一
第一節	牛	一一四

目次

第二節	豚	一一五
第三節	山羊	一二三
第四節	家禽	一二四
第五節	牛乳	一二五
第七章	獸疫及病蟲害	一二六
第一節	獸疫	一二六
第二節	農作物ノ病蟲害	一二四
第八章	農會	一二五
第一節	農會ノ沿革	一二六
第二節	農會ノ經費	一二三
第三節	農場ノ經營	一二四
第四節	米作改良	一二六
第五節	麥作改良	一二六
第六節	蔗作改良	一二六
第七節	茶園改良	一二七



目次

第八節	園藝改良	二六二
第九節	養蠶獎勵	二六三
第十節	畜産改良	二六三
第十一節	肥料共同購買	二六六
第十二節	其他ノ事業	二六六
第二編 林業		
第一章	總論	二六八
第二章	林野ノ利用	二六九
第一節	豫約開墾	二七〇
第二節	年期貸付	二七〇
第三章	林産物賣拂	二七〇
第四章	造林事業	二七三
第一節	官營造林	二七三
第二節	民營造林	二七五

第三編 鑛業

第一章	總論	二八一
第二章	各論	二八一
第一節	鑛區	二八一
第二節	稼業鑛區	二八三
第三節	鑛況	二八四

第四編 水産業

第一章	總論	二八五
第二章	漁業	二八七
第一節	本島人漁業	二八七
第二節	内地人漁業	二八八
第三章	製造品	二九〇
第四章	養殖業	二九二

第五編 工業

目次	生產額.....三五二
第五章	水產會社.....三五五
第六章	總論.....二六七
第七章	製糖業.....二七〇
第八章	穀摺及精米業.....二八六
第九章	製茶業.....二九九
第十章	酒造業及酒精製造業.....三〇八
第十一章	製油業.....三一三
	製麵業.....三一四
	糖菓製造業.....三一九
	澱粉製造業.....三二二
	織物業.....三三四
	製紙業.....三三六

目次	金銀紙製造業.....三三八
第十二章	蓮草紙製造業.....三三九
第十三章	製帽業.....三四一
第十四章	製蓆業.....三四三
第十五章	窯業.....三四五
第十六章	鐵工業.....三四八
第十七章	木工業.....三四〇
第十八章	竹器製造業.....三四二
第十九章	石灰製造業.....三四四
第二十章	製靴業.....三四六
第二十一章	製藍業.....三四七
第二十二章	染色業.....三四八
第二十三章	製冰業.....三五〇
第二十四章	石鹼製造業.....三五二
第二十五章	石盤瓦製造業.....三五二

第六編 商業

第一章	總論	三五五
第二章	砂糖	三七一
第三章	米	三七五
第四章	茶	三六〇
第五章	酒類	三六四
第六章	麥粉	三六五
第七章	乾魚及鹹魚	三六七
第八章	紙	三六八
第九章	禮拜紙	三九〇
第十章	本島製夏帽子	三九一
第十一章	綿布	三九三
第十二章	油糟	三九五
第十三章	石油	三九七

第七編 移民

第十四章	石炭	三九九
第十五章	木材	四〇〇
第十六章	金物材料及同製品	四〇一
第十七章	セメント	四〇三

第一章	總論	四〇五
第二章	移民戶口	四〇六
第三章	衛生狀況	四一〇
第四章	教育及宗教	四一四
第五章	農況	四一五
第六章	經濟狀態	四一八

目次終

第一編 農業

第一章 總論

大正二年末調査ニヨレハ農業總人口ハ二百十九萬九千四百六十八人ニシテ臺灣總人口ノ六割四分三厘ヲ占メ内自作者三割二分自作兼小作者二割五分、小作者四割三分ニ當ル之ヲ三年前ニ於ケル農業人口ニ比スルハ約十萬人ノ増加ナリ之ヲ農家戸數トシテ見ルトキハ四十萬一千三百六十三戸ナリ而シテ農耕地ノ田面積三十四萬八千八百八十甲畑面積三十六萬四千三百八十三甲計七十一萬二千四百六十三甲ニシテ臺灣總面積ニ對シ一割九分二厘行政區域内面積ニ對シ三割六分一厘ニ當ル今前記農業人口ヲ以テ農耕地ト對照スルニ一人ニ付三分二厘(一甲ニ付三人一分)一農家ニ付一甲七分三厘(一甲ニ付〇五六百)ニ相當ス土地ノ利用高ニ付調査スルニ前記耕地ヲ九十四萬三千六百十甲ニ使用スルヲ以テ一甲ノ耕地ハ年内ニ於テ一甲三分三厘トシテ利用セラレツ、アル割合ナリ從テ農業者及農家ノ延耕作面積ハ前記ノ十三割三分ナリ

本年ハ氣候順調ナリシヲ以テ一般作物ノ生産好調ヲ呈シ米作ノ如キハ近年稀ナル豊作ニテ實ニ玄米五百餘萬石ヲ生産シ甘蔗ノ發育又良好ナリキ然ルニ本期生産シタル砂糖ハ前年末ヨリ製糖シタルモノナルヲ以テ其産額比較的少ナク爲メニ農産物生産總價額ハ寧ロ前年ニ比シ減少ヲ呈シタリ然レトモ來期ニ於テ砂糖ノ生産見ルヘキモノアルヘシ今年中農産畜産ノ總生産價額ヲ計算スルニ一億一

(1)

千四百八十七萬八千九百九十四圓ニシテ其ノ類別ハ左ノ如シ

類別	價額 (圓)
普通(食用)農產物	七五、一三四、三六六
特用(工藝用)農產物	二六、二六一、四五四
園藝(果實)農產物	二、〇〇〇、四〇六
畜產	八、七四三
魚產	一一、四七三、二二五

現今主要ナル農業改良事業ハ米種改良、綠肥ノ合理的栽培ノ獎勵、甘蔗栽培法ノ改良、茶園施肥獎勵、柑橘栽培ノ獎勵、養蠶業ノ獎勵、牛豚ノ改良等ニシテ獸疫及病蟲害ノ防除及各種ノ農業機關及各廳農會ノ活動ニヨリテ逐次生産ノ増加スルノ秋ニアリ

主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告

本年ニ於ケル一般農生産物ノ狀況ヲ通觀スレニ各農作物ノ生育昨年ニ比スレハ良好ナリ就中多少減收ノモノナキニ非スト雖モ平年作テ下ラサル狀態ナリシヲ以テ各般産業亦終始順調ニ經過シタリ

田園面積ニ對スル農業者數肥料界ノ狀態等八年々多少ノ弛張ヲ見ルモ著シキ現象ヲ認メス一般ニ田園生産力ノ盛衰ハ肥料消費ノ狀況農業人口ノ多寡ニ左右セラル、コト多キモ廳下現在ノ趨勢ハ幸ニ農業生産力ノ涵養ニ對シ益好果ヲ齎シツ、ア

宜蘭廳報告

大小幾多ノ溪流耕地ノ間ヲ貫流シテ灌溉至便ナル廳下ハ一朝暴風雨ニ際會セハ忽チ河水氾濫シテ年々農作物ノ被害甚ナカラサルヲ常トスルモ本年ハ其災厄極メテ輕微ニシテ米作ノ如キ作物良好前年稀有ノ水害ヲ被リタル地方アリシニ拘ハラス總收量ニ於テ平年作ニ上リシヲ見ル其ノ他ノ農作物亦作物柄概シテ良好ナリシハ前年ノ困厄ヲ緩和シ得テ一般喜色アリシカ前年米價奔騰ノ餘響ヲ受ケテ地價奔騰セルモノアリシト蓋ニ林本源租館ノ定積銀及租谷ヲ増加セルト水害地方ノ安全地域ニ小作ヲ競ヘルトハ本年改約期ニ際セル墾耕地ノ倉廩ナル一部業主ヲ驅リテ小作料ノ増騰ヲ招致セムシルニ至レ

臺中廳報告

本年ハ氣候ノ關係上豆類ヲ除キ其他ノ農作物ハ一般ニ豐作ナリ殊ニ米作甘蔗甘藷ノ如キ主要農產物ハ著シキ增收ニシテ其原因ハ氣候概シテ順調ナリシト廳及農會ニ於テ諸種ノ事業ヲ經營シ専ラ之レカ改良發達ヲ圖リツ、アルハ勿論甘藷ニ對シテハ各製糖會社ニ於テモ獎勵ノ方法其宜シキ得ツ、アルヲ以テ斯ノ如キ好結果ヲ來シタルモノト謂フヲ得ヘシ

南投廳報告

米作ハ前年來ノ米價騰貴ニ伴ヒ一般ニ之レカ作物ヲ歡迎シタルニ依リ從ツテ他作物作付ヲ避ケルノ傾キアリシ恰モ第一期作播秧時ニ於ケル降雨潤澤ナリシト作付面積ノ増加トニ依リ近年稀ナル豐收ヲ得タリシモ第二期作ニ於テハ播秧時ニ當リ降雨ノ少カリシ爲メ豫定作付ヲ爲スコト能ハスシテ前年同期ニ比シ作付ノ減少ヲ呈シタルト一面害蟲發生セシトニ依リ總收量ノ減少ヲ來タシタリシハ遺憾トス、然レトモ米作ニ關シテハ明治四十四年以來廳農會ニ於テ之レカ改良ニ苦心シ品質ノ改良收量ノ多額ヲ圖リツ、アルヲ以テ近ク本作ノ伸張期シテ俟ツヘキモノアリ

甘蔗作ハ年ト共ニ漸次進歩ノ傾向ヲ有シ從來唯徒ラニ面積ノ擴張ヲ好ミテ其耕作內容方法ニ意ヲ用フルモノ尠カリシカ本期ニ至リテハ經濟的方面ニ意ヲ注キ水田耕作ヲ棄テ、多ク山地方面ニ之レカ栽培ヲ爲スモノ多キヲ見ルニ至リタルハ確カニ甘蔗耕作ノ一進歩ト謂ハサルヘカラス

第一編 農業 第一章 總論

張シタルト共ニ其ノ收量ノ増加及品質ノ優良ナリトシタリ本作ノ農業經濟上ノ價值ハ既ニ耕作區域一般ノ認ムル所トナリ將來有望作物トナリタリ黃麻ハ臺中縣下臺灣製麻株式會社ノ事業擴張ニ伴ヒ當管内ニ之レカ作付ヲ獎勵シタルヲ以テ本期作付面積ヲ増加シ從テ收量ヲ増シタリト雖モ製麻會社ハ印度種子ヲ輸入シ之ヲ配付シテ栽培セシメタルニヨリ其收量在來種ニ比シ遙カニ減少シタリ是レ印度種ノ果シテ風土並ニ耕作法ノ適合セサルヲ將タ原種子不長ニ基ク現象ナルヲ疑問ナルモ其收穫品質ノ在來種ニ比シ好良ナルハ恐ラク原種子不長ニ基因スヘク將來之レカ改良ハ最モ急務タルヲ信ス

蠶業ハ大正元年度ヨリ之レカ獎勵ニ著手シ桑園設置及蠶兒飼育ヲ獎勵セリ其當初ニ於テハ桑樹ノ枯死病蠶ノ發生等種々ノ浮沈ヲ免レサリシモ本期ニ至リテハ稍々其面曰テ改メ桑園面積ノ擴張ヲ見ルニ至ルト蠶兒飼育者ノ増加トニヨリ從テ其收穫量ヲ増加シ本島有志ハ蠶室ヲ新築スル等益々之レカ進步ノ傾向アルハ喜フヘキ現象ナリトス

嘉義廳報告

前二箇年引續キ稀有ノ暴風雨ニ遭遇シ農作物ノ被害甚シク隨テ農家ノ經濟狀態不長ニ陥リシカ本年ハ七月ノ豪雨アリタル外殆ント毎年襲來シタル暴風雨モナク氣候概シテ順調ナリシカ爲メ一般農作物ハ次表ニ示スカ如ク稀有ノ豐作ヲ示シ爲メニ農家ノ經濟狀態漸次良好ニ向ヘリ

作物名	收		高	
	大正元年	大正二年	比較	增割分
米	二六四、四三四 石	三九六、一八七 石	〇・四九	
甘蔗	五三二、六二九〇 一 斤	一、三三五、六五五 七四六 斤	一・八七	
甘藷	二八一、四八四六 九 斤	三五〇、五四七 九六八 斤	〇・二四	

第一編 農業 第一章 總論

臺南廳報告

本年ニ於ケル重要農作物ノ豐凶狀態ヲ記述スルニ當リ氣象ノ概況ヲ記サンニ本年ノ天候ハ七月ノ中旬ニ於ケル稀未々豫期ノ目的ヲ達スルニ至ラスト雖モ將來益之ニ力ヲ致サントス

優良ナル種苗ノ供給ヲ潤澤ナラシムルハ廳下農事改良ノ急務ニ屬スルヲ以テ主トシテ農會ヲシテ之ヲ實施セシメツ、アリ

ニモ拘ラス來期ノ收穫ハ十億八百五十五萬斤ノ豫想ニシテ前期ニ比シ十割餘ノ增收トス

甘蔗作ハ總督府ノ獎勵方針ニ基キ主トシテ其獎勵趣旨ヲ一般庶農ニ徹底セシムルニ努メ製糖會社ノ蔗作獎勵方法亦年ト共ニ進歩シ督府模範蔗園施設ト相俟テ漸次體質ナル發達ニ傾キツ、アリ本年ハ氣候概ネ良好ナリシヲ以テ蔗苗ノ不長ナリシニ應シ肥料購買ヲ行ハシメツ、アルカ本年ニ於ケル米作用肥料ノ購買高ハ二萬三千四百四十九圓此人員三百五十一名ニシテ前年ニ比シ購買高五割強人員五割六分強ノ増加ナリトス

米ト甘蔗トハ廳下ニ於ケル重要作物ナルヲ以テ之レカ改良發達ニハ最モ力ヲ注キツ、アル所ナルカ米作改良ニ就テハ總督府ノ產米改良方針ニ基キ米種改良事業ニ主力ヲ注キ一面肥料ノ獎勵ニ努メツ、アリ米種ノ改良ハ農會ヲシテ施行ノ任ニ當ラシメ已ニ第二期作ノ全部及中間作ノ一部ハ廳下全體ノ米作者ニ配付スヘキ籽種ノ育成ヲ終リタルカ此籽種ヨリ得タル支米ヲ審査スルニ改良ノ成績顯著ナルモノアリ大正三年第二期以後ニ於ケル廳下產米ノ品位ハ一躍向上スヘキヲ疑ハス又施肥ノ獎勵ハ綠肥糞田ノ設置ニ依リ綠肥作物ノ普及並ニ之ニ磷酸肥料ノ施用ヲ獎勵スルニ努メ一面農會ヲシテ農民ノ依頼ニ應シ肥料購買ヲ行ハシメツ、アルカ本年ニ於ケル米作用肥料ノ購買高ハ二萬三千四百四十九圓此人員三百五十一名ニシテ前年ニ比シ購買高五割強人員五割六分強ノ増加ナリトス

落花生 麥類 豆類 黃麻

落花生	一九、九四五 石	四二、八二五 石	一・一四
麥類	二四、五五九 石	三四、八六五 石	〇・四一
豆類	一五、七五九 石	三三、三四七 石	〇・四八
黃麻	三、七二二 石	八、二四六 石	一・二二
其他	六七六、一四八 斤	一、一〇、一三六 斤	〇・四九

第一編 農業 第一章 總論

有ノ豪雨ヲ除クノ外他ノ各月トモ頗ル靜穩ニシテ降雨ノ分配亦適當ナリキ即チ年内ノ降雨日數百〇五日ニシテ降雨總量一千九百七十九耗三ナリ之ヲ平年ニ比スレハ降雨日數ニ於テ三日少ク雨量ニ於テ三百〇一耗七多シ平均氣溫二十二度九ニシテ平年ニ比シ零度二分ノ低冷ナリトスサレハ一般農作物ノ狀況ハ概シテ佳良ナリシカ七月ニ於テ半箇月以上ニ亘ル霖雨アリ降雨量六百九十一耗ノ多量ヲ示シ殊ニ十九日ヨリ二十一日ニ至ル三日間ハ稀有ノ豪雨ニ屬シ其量五百二十一耗四ヲ示シタリ爲メニ低濕ノ田圃及大河流域ノ沿岸地方ノ農作物ハ浸水流失土砂埋没等ノ被害アリ其ノ減收見込額ヲ掲記スレハ左ノ如シ

被害作物名	被害甲數	被害歩合	見被 込害 數減 量收	見同 積金 額上
甘蔗	131,100	0.08	34,848,000	97,574,000
第二期水稻	30,300	0.09	11,540,300	27,447,300
陸稻	11,000	2.69	26,227,500	26,227,500
木藍	700	0.20	16,800	16,800
落花生	113	1.77	26,013	1,300,000
胡麻	11,300	0.50	57,500	3,450,000
黃麻	360	1.80	29,160	3,499,200
苧麻	170	0.45	18,225	1,275,750
苧類	200	0.55	8,800	1,100,000
田菁	250	2.10	36,750	2,940,000
豆類	650	1.51	58,900	4,123,300
計	111,000	0.06	131,000	369,000
計	1,110,000		1,110,000	4,647,950

前表ノ如ク實ニ四十萬六千圓以上ノ見込損害額ヲ示セリ之ヲ前々年ノ暴風被害額百三十四萬圓及前年ノ暴風被害額百九十二萬二千圓ニ比ストキハ甚ダシキ巨額ノ損害ト云フヘカラサルモ前二箇年連續被害ノ餘波ヲ承ク農民及製糖業者ニハ不尠苦痛ヲ感セシメタリ

阿緬廳報告

廳下農産額ハ九百萬圓内外ニ上リ米ノ六百萬圓甘蔗ノ百萬圓甘藷ノ八十萬圓ハ其主要ナルモノニシテ農法年ト共ニ集約ニ赴キ益々産額ヲ増加セントスル傾向ヲ示シ新築及灌溉設備ノ完成ハ水田面積ノ増加ヲ招致シ米種ノ改良ハ金肥ノ施用著シキニ至レリ一面ニ於テ棉花ノ試作桑樹栽培等漸次其歩ヲ進メ其他澱粉護織纖維等ノ特用作物ノ植栽好望ナラントシ會社工場ノ一二新設ヲ見レハ農業發達ノ機運ヲ促進スルニ裨益スル所尠ナカラズ

臺東廳報告

廳下ニ於ケル農業ハ蕃人其主位ヲ占メ農耕粗笨幼稚ノ域ヲ脱セザリシカ廳農會ヲ督勵シ指導獎勵ノ結果稍發達ノ機運ニ向ヒ自家用生産ヲ主トセシ蕃人モ四圍ノ刺戟及生活ノ向上ニ伴ヒ漸次社會的生產ニ留意スルト同時ニ米、粟、甘藷ノ如キ日常食料ハ漸次米食ニ變スルノ機運ニ向ヒ殊ニ甘蔗作ノ如キハ急激ナル發達ヲ呈シ無肥料ヲ以テ足レリトセシ田畑モ漸次逐テ施肥ヲ行ヒ年々集約的農業ニ移リツ、アリ

第二章 氣候

第一節 氣象概況

臺北測候所ノ報告ニ據レハ次ノ如シ

第一、總說 大正二年中本島ノ天候上重ナル事項ヲ摘記セハ一月末ニハ既往稀ナル高壓ヲ呈シ寒冷著シク四月ニ入り高温平年ヲ過キ五月中旬ニハ降雨多量ニシテ溪河汎濫セシ所アリ次テ盛夏ノ狀態

ニ轉スルト同時ニ俄然暑氣酷烈トナリ六月上旬殊ニ北部地方ニ於テ領臺以來稀ニ見ル所ノ高温ニ遭
 過シ七月中旬ニハ中央山脈ノ西側ニ稀有ノ豪雨ヲ來タシ多大ノ災害ヲ被ラシメシモノアリ八月中旬
 ニ至リテハ南方遙カノ海上ヲ西進セシ低氣壓ノ影響ヲ受ケ南部西沿岸ニ高潮ヲ起シ數百ノ浸水家屋
 ヲ出セシ所アリ爾後季節風流行スルト共ニ南部地方ハ降雨極メテ寡少トナリ以テ年ヲ終レリ要スル
 ニ強暴ナル暴風ノ襲來ヲ免レタルハ何ヨリノ幸トス

第二、氣壓 平均氣壓ハ恒春ノ七五九耗四乃至基隆ノ七六〇耗八ノ間ニアリテ之ヲ平年ニ比スルニ
 臺東ヲ除クノ外何レモ高ク然シ其差ハ〇耗三或ハ〇耗六ニ過キス而シテ年中最高極十二月三十日基
 隆ニ於ケル七七七耗二又最低極ハ七月十九日花蓮港ニ於ケル七三一耗八トス
 即チ左ノ如シ

測候所	基隆	臺北	臺中	臺南	臺東	恒春	澎湖島	花蓮港(燈臺)
平均氣壓	七〇八	七〇六	七五九	七五九	七五九	七五九	七五九	七五九
平年トノ差	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)

備考 表中氣壓ハ重力及海面ノ更正ヲ施シタルモノトス

第三、氣温 平均氣温ハ臺北並ニ基隆ノ二一度七(華氏七一度一)乃至恒春ノ二四度三(華氏七五
 度七)ノ間ニアリテ之ヲ平年ニ比スルニ各地多少ノ増減アルモ其差〇度二(華氏〇度四)ヲ出テス

最高ノ極ハ六月十六日臺東ニ於テ三七度七(華氏九九度九)ニ昇リ最低ノ極ハ十二月五日臺北ニ於
 テ六度三(華氏四三度三)ニ降レリ右臺東ニ於ケル最高極ニ亞ク最高度ハ六月四日臺北ニ於ケル三
 七度一(華氏九八度八)及ヒ同日基隆ニ於ケル三五度九(華氏九六度六)ニシテ共ニ兩所ニ於テハ
 未曾有ノ高度トス

測候所	基隆	臺北	臺中	臺南	臺東	恒春	澎湖島	花蓮港(燈臺)
平均氣温	三二七	三二七	三三〇	三三九	三三〇	三三三	三三三	三三三
平年トノ差	(+)	(+)	(-)	(-)	(+)	(-)	(+)	(+)
最高氣温	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
右月日	六月四日	六月四日	五月二十七日	五月九日	六月六日	五月九日	八月二十九日	五月一日
最低氣温	八三	六三	七〇	七六	一一	一三〇	一〇〇	九五
右月日	一月二十五日	三月五日	一月一日	一月一日	三月十一日	二月十五日	一月二十六日	七月十一日

本年中結霜、降霰、降雹、降雪及結氷アリシ所左ノ如シ

降霜 丹大社 一月八日、二十二日、二十七日、二月一日ヨリ三日ニ至ル及ヒ六日、七日、十四
 日、十九日、三月二日、四日、十月二十四日ヨリ二十七日ニ至ル及ヒ二十九日十

蚊仔只 一月十五日、十九日、二十二日、二十七日、二十八日、三十日、二月十四日

櫻ヶ峯 二月三日及ヒ五日ヨリ七日ニ至ル、三月四日、十月二十八日、十一月十九日、

二十一日、二十四日、十二月四日、五日
 阿里山 十二月四日ヨリ七日ニ至ル及ヒ二十七日、三十一日
 洗水山 三月二日
 達邦社及萬大 十二月三十一日
 李嶼山 十二月五日、六日
 降霰 櫻ヶ峯 一月十七日、三月二日
 李嶼山 三月二十五日
 大窩山及洗水山 三月二十六日
 降雹 阿里山、埔里社、櫻ヶ峯、達邦社、二月二十三日
 阿縵及クワルス 四月十六日
 大窩山 三月二十四日、二十五日
 阿里山 四月二十一日
 達邦社 四月二十二日
 丹大社 四月二十四日
 降雪 梵々山 一月二十五日、二十六日、三十日、二月十一日、十二月三十一日

測候所	基隆	臺北	臺中	臺南	臺東	恒春	澎湖島	花蓮港(燈臺)
平均濕度	(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	
平均トノ差	八	八	八	七	七	七	八	
最少濕度	四	三	三	三	三	三	三	
右月日	十月三日	六月四日	十二月六日	十月九日	四月六日	十月三日	三月三日	十月三日

第四、濕度 平均濕度ハ恒春ノ七七%乃至基隆ノ八四%ノ間ニアリテ平年ト甚タシキ差違ヲ見ス最
 乾ノ極ハ六月四日臺北ニ於ケル二九%ニシテ臺北稀有ノ寡濕ヲ呈セリ

大窩山 一月二十六日、三月二十四日
 櫻ヶ峯 一月二十九日、二月十一日、三月二十五日、二十六日、十二月二十七日、二十八日
 油羅山 一月二十五日、二月十一日
 李嶼山 一月二十五日、二十六日、二十九日、十二月三十日
 結氷 櫻ヶ峯 一月十八日、十九日及ヒ二十五日ヨリ二十七日ニ至ル、十月十六日、二十三日、十一月十九日、十二月四日、五日
 梵々山、大窩山 一月二十六日
 丹大社 一月十九日
 阿里山 十二月四日ヨリ七日ニ至ル及ヒ三十一日

第五、風 平均風向ハ花蓮港ノ西偏北風ヲ除テハ北乃至東ノ間ヲ占メ風速度ハ多少増減アルモ其差違少シ最強風速度ハ狂猛ナル暴風襲來ナキ爲メ九月三日澎湖島ニ於テ二九米七(一時間六六哩四)ヲ示セシニ過キス

湖候所	基隆	臺北	臺中	臺南	臺東	恒春	澎湖島	花蓮港(燈臺)
方向	東北東	東	北	北	北	北北東	北北東	北北西
速度	五.六	四.六	三.一	五.〇	四.四	七.〇	九.九	四.四
平均トノ差	(+)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)
最	二〇.五	〇.二	〇.三	八.〇	〇.五	〇.八	〇.三	—
右月日	七月六日	七月十日	二月三日	三月十日	九月九日	六月六日	六月三日	七月十日

第六、雨 全年ノ雨量最多ハ火烧寮ノ七四八八耗最少ハ漁翁島ノ七三八耗トス而シテ澎湖列島ヲ除テハ何レモ千耗ヲ超過セリ之ヲ平年ニ比スルニ東部沿岸並ニ澎湖列島ヲ除テハ概シテ多量ナリ今臺灣各地ニ於ケル雨量及降雨日數ヲ記スレハ左ノ如シ

觀測所	雨量		降雨日數	
	本年	平年トノ差	本年	平年トノ差
金包里	三,七二.一	(+)	三一九四	(+)
窩基角	一,七三.二	(-)	一九一	(+)
彭佳嶼	一,五〇八.三	(-)	一九六	(+)

觀測所	雨量		降雨日數	
	本年	平年トノ差	本年	平年トノ差
淡頭水	二,〇三三.〇	(-)	一六七	(+)
雙峻	二,二四七.七	(-)	一一一	(-)
基隆	三,一八三.二	(+)	二三四	(+)
社頭	三,八二.八	(+)	二三四	(+)
鼻頭	二,四〇.九	(+)	一八三	(-)
火燒寮	五,七二.一	(+)	一七九	(-)
臺北	七,四八七.八	(+)	—	(-)
頂埔	二,一〇六.二	(-)	一五五	(-)
石底	三,八一六.八	(-)	一六六	(-)
石碇	三,六三.一	(+)	一七二	(-)
屈尺	三,三七三.七	(+)	二七〇	(+)
坪蘭	五,五一九.五	(+)	一五二	(-)
宜送	一,八一.五	(-)	一七八	(-)
天沙	三,五二九.九	(+)	一八九	(-)
白岬	一,三五一.九	(-)	三三三	(+)
三角	二,三四七.五	(+)	一四二	(-)
八結	二,九七五.六	(+)	一八二	(-)
安平	二,一八五.二	(+)	一七九	(+)

雁	鳳	打	深	龜	臺	南	大	礁	前	後	鹽	公	達	嘉	阿	竹	生	土
爾	山	狗	水	洞	南	庄	降	岬	埔	埔	港	田	社	義	山	崎	樹	庫
一、八六七七	二、一八〇二	一、八四九八	二、二一〇三	二、一四二七	一、九七九三	二、八七八八	二、二八六九	二、一七三七	二、一〇四七	三、〇〇一四	一、二六六五	三、五九五〇	三、二八八〇	二、四〇〇二	三、五九六〇	三、二二〇六	三、八八九〇	一、二六四八
(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(-)	(-)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)
一、二九九八	五、二三五	三、五〇〇	七、四〇四	二、二七八	二、九六〇	三、四八八	六、二五二	一、六〇〇	一、三三〇	三、三七一	一、一一二	五、〇六五	五、〇五〇	四、六七七	六、九七	八、一八九	一、三〇六	一、六〇
一二五	一九五	一〇〇	六八	九九	一〇五	一二五	一一九	一一〇	一一四	九九	八九	一二六	一三三	一一三	一一一	一一五	一一二	七六
(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(-)
三	〇	二	二	三	三	四	〇	七	一	七	一	二	二	二	六	〇	六	四

林	小	牛	集	埔	北	蘆	臺	水	後	罩	大	苗	南	內	樹	新	大	咸
內	天	輓	街	社	溪	塘	中	蔡	庄	蘭	湖	栗	庄	山	林	竹	口	礪
二、五三八一	二、九三五五	二、六二一四	二、一〇一六	二、六三〇二	二、六四六四	二、一〇二七	二、三五六五	三、一〇九四	二、〇三九〇	二、七八〇四	三、六〇九八	二、一〇四〇	二、四九二二	二、五七二二	二、二二一八	一、一六五一	一、四四一八	一、八八五四
(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)	(-)
四、八三二	二、六二四	六、二九二	二、二九七	四、三九九	五、一八五	一、〇七〇	五、八七二	七、四一一	三、四四一	七、四一四	一、五八六三	三、三一九	七、四〇三	七、八五八	二、六〇〇	二、二三四	二、一五	二、三九四
一四八	一九六	一四一	一〇一	一五六	一四三	一一一	一二七	一四九	一一三	一一四	二二九	二二五	二二六	一六八	二二四	二〇三	九八	一一二
(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(-)	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)
三五	四四	三	三	四	〇	三	〇	三	三	三	六	八	二	一	八	五	三	一七

第二節 暴風雨ノ農業被害高

大正二年中ニハ三回ノ暴風雨アリシモ重ナルモノハ中南部及東部ニ於ケル七月ノ豪雨ニ因ル氷害

備考 日照時數百分率ハ晝間時數ニ對スルモノトス

測候所	基隆	臺北	臺中	臺南	臺東	恆春	澎湖島	花蓮港(燈臺)
日照時數	1791.2	1216.6	2247.7	2244.4	2244.4	2244.4	2244.4	2244.4
右百分率	40	37	55	63	64	64	64	64
平年トノ差	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)

第七、日照時數 全年ノ總日照時數ハ臺南最多ニシテ六三〇(二七六六時間)最少ハ臺北ノ三七〇(二六二七時間)トス之ヲ平年ニ比スルニ基隆ハ六〇ノ多數ナルモ其他ハ四〇以下ノ増減トス

×臺南廳管内

紅頭嶼	二九二七八	(-)	一一四六一	(+)	二三四	(+)	一
花蓮港	一五二九三	(-)	二五七七七	(+)	一七九	(-)	三〇
吳全城	一七一一八	(-)	二八二	(-)	二七一	(-)	八
拔仔庄	二四一三三	(-)	一〇六四	(-)	一七一	(-)	一七
璞石閣	一六二七一	(-)	一六九九	(-)	二〇	(-)	〇
澎湖島	八九八五	(-)	一一一一	(+)	一〇九	(+)	一六
漁翁島	七三三三	(-)	一一三二	(+)	八六	(+)	五

甲濃仙	三〇〇四〇	(-)	一九四六	(+)	一一二	(+)	七
荖威濃	二六〇八九	(+)	二九三二	(+)	一六四	(+)	二
新荖威	三六九五九	(+)	五四二四	(+)	一四七	(+)	二五
荖威	二九五九七	(+)	六八一七	(-)	八五	(-)	六
阿緞山	二八九六六	(+)	七四八五	(+)	一三四	(+)	三九
赤山	二六九七七	(+)	二九四〇	(-)	一三三	(-)	三
東港	三六二九五	(+)	一七三二〇	(+)	一〇五	(+)	〇
內仔頭	三三八八八	(+)	一九六三	(+)	二六	(+)	二
枋山	二二七七〇	(+)	三八一五	(+)	九二	(+)	一七
牡丹	三一一〇四	(+)	五二〇	(+)	一六〇	(+)	一〇
恒春	二二四五五	(-)	六三八一	(-)	一三五	(-)	三
龜仔角	二二八五四	(+)	一〇一五	(-)	一五一	(-)	四
成廣	一三三八六	(-)	四一八七	(+)	一六一	(+)	三
新開	二〇二二二	(-)	六五九四	(+)	一三〇	(+)	三
臺東	一四〇六〇	(-)	三九三三	(-)	一五六	(-)	一
巴望	一六八三三	(-)	六五六七	(-)	一一七	(-)	〇
火燒島	一〇九七二	(-)	一六四一四	(+)	二二三	(+)	五

ニシテ其他中局部ニ限ラレ北部ニ於テハ被害ノ程度僅少ナリキ

第一回 豪雨 自七月十八日 至七月二十日 中南部及東部一帯ニ水害アリ

第二回 暴風雨 自七月二十八日 至七月二十九日 臺東廳管内一帯ニ被害アリ

第三回 暴風雨 自九月三日 至九月十八日 同

第一回ノ暴風雨ハ低氣壓ノ中心遠ク東南部ノ海上ヲ通過セシヲ以テ重ニ中南部ニ豪雨アリ幸ニシテ北部(新竹廳以北)ニハ其被害少ナク南部ニ於テ多少ノ損害ヲ見タリ農作物中被害ノ重ナルモノハ稻作ノ五十四萬八千六百十五圓、甘蔗作ノ三十七萬一千七十八圓、落花生ノ四萬八百圓ニシテ大豆、胡麻、甘藷等又多少ノ損害アリ其總被害減收見込價額百三十四萬六千六百九十三圓ヲ算シ此他田畑ノ損害、家畜家禽類ノ損害少ナカラサリキ

第二回ハ七月二十八、九日臺東廳管内ニ暴風雨アリ巴聖衛支廳下ハ特ニ損害ノ大ナルモノアリシカ被害農作物ノ重ナルモノハ稻、甘蔗、甘藷、落花生、豆、粟、里芋、苜蓿等ニシテ損害高九百六十六圓ノ外田畑三十五甲八分ノ流失アリ

第三回ハ九月三日再ヒ東部海岸就中臺東廳管内ニ暴風雨アリ陸稻及甘蔗ハ其害ヲ被リ九千二百二十圓ノ損害ヲ計上ス

今年年中ノ總被害高ヲ見ルニ田畑ノ流失、浸水、砂入、荒廢等總計三萬一千六十一町家畜及家禽ノ

被害六千三百十四此見積價額一萬二千八百八十八圓之ニ農作物ノ被害減收見込價額百三十五萬四千四百十六圓ヲ加フルトキハ百三十六萬四千七百四圓ノ被害トナル
第一、田畑ノ被害 警察本署ノ調査ニ係ル第一回ノ豪雨(自七月十八日 至七月二十日)ニ對スル廳別田畑被害面積左ノ如シ

廳名	被害種別		流失	浸水	砂入	荒廢
	流	失				
臺北	一町	一八五町				
宜蘭	三〇〇	八六五				
桃園	五三	六				
新竹	四九〇	一五七				
臺中	四九〇	二九七				
南投	三三五	一五三				
嘉義	三五七	一八〇				
臺南	三五七	二一八				
阿緞	一、二六六	二六、二九				
合計	一、二六六	三三、三三				

尙ホ第二回暴風雨(自七月二十八日 至七月二十九日)ニ於テ臺東廳ノ報告ニヨレハ田畑ノ流失セシモノ三十五甲八分(約

三十五町)ヲ計上ス

第二、家畜及家禽ノ被害 暴風雨ノ爲メ溺死若クハ行衛不明トナリシ家畜及家禽類ニシテ其類別ヲ詳細ニ知ル能ハサレトモ總數六千三百十四ヲ算ス
 今此内六百三十一(總數ノ十分ノ一)ヲ羊、豚トシテ一頭十圓ト見積リ六千三百十圓殘餘ノ五千六百八十三ヲ家禽類トシテ一羽ヲ七十錢ト見積ルトキハ三千九百七十八圓合計一萬二千八百八十八圓トナル
 第三、農作物ノ被害 農作物ノ被害總面積ハ十一萬三千七百二十一甲ニシテ其多クハ水害ニ屬シ減收見積價額百三十五萬四千四百十六圓之ヲ前年ノ被害高一千二百四十七萬餘圓ニ比スレハ約十分ノ一ニ當ル而シテ被害ノ主ナルモノハ米ノ五萬三千三百二十六石價額五十五萬五千五百二十六圓甘蔗ノ一億三千三百四十五萬斤價額三十七萬一千六百八十五圓等ニシテ左ニ各廳ノ農作物被害詳報ニ基キ作物別トシテ記セン但シ被害減收見込價額ハ各作物ノ減收見込高ニ卸相場ヲ乘シタルモノナリ

農作物種類別被害減收見込數量及價額

農作物名	被害甲數	被害減收見込數量	被害減收見込價額	主ナル被害地方廳名
水陸稻	三九七九五	二二二、二六五	二四四、九二二	臺中、南投、嘉義、臺南、阿緞、臺東
陸稻	一五、二六六	三、〇六一	三、〇六四	南投、嘉義、臺南、阿緞、臺東
小粟	五五、〇六一	五五、三二六	五五五、五二六	臺東
計	五	一五	八三	

第三章 農業人口

大正二年末調査ニ據レハ二百十九萬九千四百六十八人ニシテ全島人口(生蕃人ヲ除ク)ノ約六割

合田柑芎木苧黃胡大豆落里甘甘	計菁橘蕉藍麻麻豆類生芋諸蔗	被害甲數	被害減收見込數量	被害減收見込價額	主ナル被害地方廳名
甘藷		三四、七七六	一三三、四五一	三七一、六八五	臺中、南投、嘉義、臺南、阿緞、臺東
芋		三九〇六	一三七、二〇、六六一	八、三二五	臺中、南投、嘉義、臺南、臺東
落豆		五	五六二五	三四	臺東
里生		七、二五一	九、〇六六	四〇、八〇一	臺中、南投、嘉義、臺南、阿緞、臺東
大豆		一一、二一五	三、三〇八	二六、四六九	臺中、嘉義、臺南、阿緞、臺東
胡麻		二、七〇六	一、四四一	一四、一八六	嘉義
黃麻		四、三二五	七、六〇六	八三、六六二	臺中、嘉義、臺南、阿緞、臺東
苧藍		五〇五	七六、九七五	四、六一九	嘉義、臺南
木蕉		二二七	一七、二六二	三、九七〇	嘉義、臺南、阿緞
芎藍		八二二	九三、九三〇	三、七五七	嘉義、臺南
柑橘		二六二	六五、四六一	一九、六三八	臺中、南投、臺南、臺東
菁菁		一〇	九八、〇〇〇	四、九〇〇	臺中
計		一、六五四	一一、三五三	一一、七六一	臺南、阿緞
合計		一一、七二二	一、三五、四四一	一、三五、四四一	

第一編 農業 第三章 農業人口

四分三厘ニ當ル之ヲ明治四十三年末調査ニ係ル農業人口ニ比シ三箇年間ニ増加セシモノ十一萬二千五百十三人(約五分)ナリ而シテ農業者ノ大部ハ本島人ナレトモ内地人ハ近年移民ノ増加ニヨリ二千四百六十六人ヲ算スルニ至レリ

農業者中其四割二分ハ小作者ニシテ自作者ハ三割二分ヲ占メ自作兼小作者ハ其二割六分ニ相當シ内專業者七割兼業者三割ヲ占ム而ノテ其從業者トハ其數殆ント相半ハス即チ左ノ如シ

種別	從業者		兼業者		計	
	男	女	男	女	男	女
自作者	14,336	9,800	22,036	11,999	34,072	24,005
自作兼業者	6,782	4,759	11,541	5,957	17,498	10,716
小作者	22,118	14,559	36,679	17,956	54,635	34,721
兼業者	7,771	5,490	13,261	6,947	20,208	12,668
合計	46,709	30,608	77,318	39,908	117,226	77,383

今地方別農業者ヲ記スレハ次ノ如シ

自作農業者

廳別	從業者		兼業者		計		同上百分比		同上男女別	
	男	女	男	女	男	女	從業者	兼業者	男	女
臺北	11,397	7,104	18,501	9,453	27,954	14,156	50.8	23,800	11,397	7,104
宜蘭	4,872	3,211	8,083	4,162	12,245	6,013	49.1	6,013	4,872	3,211
桃園	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
新竹	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
臺中	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
南投	7,771	5,490	13,261	6,947	20,208	10,208	50.5	10,208	7,771	5,490
嘉義	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
臺南	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
阿緞	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
臺東	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
花蓮	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
澎湖	11,541	7,210	18,751	9,420	28,171	14,631	51.9	14,631	11,541	7,210
總計	117,226	77,383	194,609	100,000	294,609	157,383	53.4	157,383	117,226	77,383

備考 ×印ヲ冠セルモノハ内地人農業者ナリ

第一編 農業 第三章 農業人口

第一編 農業 第三章 農業人口
自作兼小作農業者

廳別	專業從業者	兼業從業者	兼業從業者	合計	從業者	同百分比	同百分比	
							從業者	男
臺北	1,513,334	2,226,684	5,990,010	11,730,028	3,003,014	25.6%	3,003,014	2,077,933
宜蘭	69,899	77,030	1,014,434	1,161,363	1,094,733	94.3%	1,094,733	98,630
桃園	10,314	10,314	10,314	20,628	10,314	50.0%	10,314	10,314
新竹	10,314	10,314	10,314	20,628	10,314	50.0%	10,314	10,314
臺南	2,703,550	3,018,535	1,517,747	7,239,832	2,829,832	39.1%	2,829,832	1,517,747
嘉義	4,100,670	3,455,900	2,033,600	9,590,170	3,583,100	37.4%	3,583,100	2,033,600
阿緞	10,400,000	10,400,000	6,000,000	26,800,000	16,400,000	61.2%	16,400,000	6,000,000
臺東	2,700,000	2,700,000	1,000,000	6,400,000	3,700,000	57.8%	3,700,000	1,000,000
花蓮	3,000,000	3,000,000	1,000,000	7,000,000	4,000,000	57.1%	4,000,000	1,000,000
澎湖	3,000,000	3,000,000	1,000,000	7,000,000	4,000,000	57.1%	4,000,000	1,000,000
總計	19,678,123	22,820,550	11,177,123	53,675,796	20,820,550	38.8%	20,820,550	11,177,123
明治四十三年	1,671,111	2,055,550	7,077,010	10,803,671	3,153,671	29.2%	3,153,671	2,055,550

小作農業者

第一編 農業 第三章 農業人口

尙ホ大正二年未ニ於テハ農業戶數ノ調査ヲ缺クモ之ヲ明治四十二年ヨリ既往五箇年一農家平均人口ヲ以テ推算シ最近數年間ニ比較スレハ次表ノ如シ

年次	農業人口	自作者戶數	小作者戶數	合計	平均農家
總計	3,326,124	1,315,544	4,641,668	3,326,124	2.5
臺北	3,003,014	1,315,544	4,318,558	3,003,014	2.5
宜蘭	69,899	100	1,014,434	69,899	2.5
桃園	10,314	100	10,314	10,314	2.5
新竹	10,314	100	10,314	10,314	2.5
臺南	2,703,550	1,000,000	3,703,550	2,703,550	2.5
嘉義	4,100,670	1,000,000	5,100,670	4,100,670	2.5
阿緞	10,400,000	1,000,000	11,400,000	10,400,000	2.5
臺東	2,700,000	1,000,000	3,700,000	2,700,000	2.5
花蓮	3,000,000	1,000,000	4,000,000	3,000,000	2.5
澎湖	3,000,000	1,000,000	4,000,000	3,000,000	2.5
明治四十三年	1,671,111	1,315,544	2,986,655	1,671,111	2.5

大正二年	二一九九四六八	二一九八六三	一六八九二八	四〇一五三三	五四八
明治四十三年	二〇六九五五	二八三八三	一六二八八八	三八〇八三二	五四八
明治四十二年	一九七三七〇五	一六一〇五	二〇一三七七	三六四三三二	五四八
明治四十一年	二〇四四四九七	一五九六三三	二〇一三七七	三六四三三二	五五二
明治四十年	二〇三〇二六四	一五八一〇七	二〇一三七七	三六四三三二	五五二
明治三十九年	一九七八九〇三	一五四五九二	二〇一三七七	三六四三三二	五五二
明治三十八年	一九六一五五九	一五五六四三	二〇一三七七	三六四三三二	五五二

第四章 耕地

第一節 耕地面積

臺灣ノ總面積ハ二千三百三十三方里之ヲ甲數ニ換算スルトキハ三百七十萬八千七百五十八甲トナル而シテ此内ヨリ蕃地面積百七十三萬六千四百六十一甲ヲ減スルトキハ行政區域内ノ面積ハ百九十七萬二千二百九十七甲ニ過キス大正二年末ノ調査ニ據レハ田面積三十四萬八千七百九十九甲九厘畑面積三十六萬四千三百八十三甲一分五厘合計七十一萬二千四百六十三甲一分四厘ニシテ總面積ノ一割九分行政區域内面積ノ三割六分ニ相當ス而シテ耕地面積ハ年々増加ノ趨勢ニシテ前年ニ比シ一千一百八十一甲四分七厘ノ増加ナリ

田畑面積ノ比例ハ水利ノ便否ニヨリ各地著シク異リ臺中南投臺東ニ於テハ前年ニ比シ灌漑面積ノ割

合ヲ増加シ澎湖ニアリテハ全ク此便ヲ缺ク而シテ全島ヲ通計スルトキハ殆ント相半ハセルヲ見ル今應別トシテ耕地ノ種類別面積ヲ記スレハ即チ左ノ如シ

應別	田	畑	合計	同上田畑百分比	
				田	畑
臺北	三三、八五二・五九	二二、一〇四・〇一	五六、九五六・六〇	六〇	四〇
宜蘭	一八、七四九・九九	六、九〇三・一一	二五、六五三・一〇	七三	二七
桃園	三三、四八八・六五	二八、一五二・二四	六一、六四〇・八九	五四	四六
新竹	三二、六三三・三三	二二、八〇七・五四	五五、四四一・八七	五七	四三
臺中	七、七五六・五二	三六、二六四・三二	四四、〇二〇・八四	六六	三四
嘉義	一一、〇九二・六五	一〇、三三三・三〇	二一、四二五・九五	五〇	五〇
臺南	六三、六三三・二六	一〇、九七〇・九一	七四、六〇四・一七	三六	六四
臺東	四五、三〇一・二四	六九、〇〇八・八八	一一四、三一〇・一一	四〇	六〇
澎湖	三二、六二七・一八	三六、五八三・七三	六九、二一〇・九一	四六	五四
花蓮	二、五六〇・〇六	七、三六八・三三	九、九二八・四三	二六	七四
澎湖	四、三八一・五二	六、六六四・六七	一一、〇四六・一九	四〇	六〇
總計	三四八、〇七九・九九	三六四、三三三・一五	七一二、四一三・一四	四九	五一
大正元年	三四六、三七四・〇五	三六四、九〇七・六二	七一、二八一・六七	四九	五一

第一編 農業 第四章 耕地

明治四十四年	三四五、三一五・一八	三六三、一八三・五四	七〇八、四九八・七二	四九	五一
明治四十三年	三四二、六七九・六六	三五二、三二五・六六	六九五、〇〇五・三二	四九	五一
明治四十二年	三二七、七八〇・三四	三四四、六九七・九四	六八二、四七八・二八	四八	五一
明治四十一年	三三三、一八一・〇七三	三二七、五九二・三一	六七〇、四〇四・〇四	五〇	五〇

第二節 農業者ニ對スル耕地面積

耕地面積ト農業者數トヲ對照スルニ農家一戸ニ對スル耕地面積ハ全島平均ニ於テ一甲七分八厘ニシテ從業者ニ對シテハ澎湖ハ僅ニ二分六厘ナルニ反シ宜蘭及花蓮港應ハ其三倍ニシテ七分七厘以上ヲ使用シ總平均六分五厘又農業人口一人ニ對スル右耕地面積ハ澎湖ニアリテハ僅々一分三厘ニシテ花蓮港ノ約三分ノ一ニ過キス而シテ全島平均ニ於テハ僅ニ一人ニ付三分三厘ヲ算ス今農業人口ニ對スル耕地面積ノ應別ヲ示セハ次ノ如シ

應別	從業者一人ニ對スル耕地面積		農業人口一人ニ對スル耕地面積	
	田	畑	田	畑
臺北	甲分厘 〇・三五	甲分厘 〇・二四	甲分厘 〇・五九	甲分厘 〇・一四
宜蘭	〇・五六	〇・二二	〇・七七	〇・一七
桃園	〇・五〇	〇・四二	〇・九二	〇・二六
新竹	〇・二五	〇・一九	〇・四四	〇・一三
總計	〇・三三	〇・三四	〇・六六	〇・一七

第三節 灌溉

耕地ノ灌溉ハ獨リ米作ノミナラス各種農作物栽培上本島ニ於ケル重要ナル事項ニシテ領臺以前既ニ之カ普及ニ關シテハ大ニ見ルヘキモノアリ就中臺南應曹公圳ノ如キハ其構築ノ方法等頗ル有名ナルモノニシテ溪水ノ便アル地方ニテハ圳路ヲ開鑿シテ灌溉シ其便ナキ地方ニアリテハ埤ヲ築設シ雨水ヲ溝ヘ置キテ之ヲ利用シ此等埤圳ニ要スル費用ハ水租トシテ徵收シツヽアリ領臺後督府ニアリテハ之カ灌溉設備ニ關シ特ニ機關ヲ設ケ調査スル處アリ荒廢セルモノハ改修ヲナサシメ又大ナル作業

應別	從業者一人ニ對スル耕地面積		農業人口一人ニ對スル耕地面積	
	田	畑	田	畑
臺北	〇・三九	〇・一九	〇・五八	〇・一九
臺南	〇・三三	〇・二九	〇・六二	〇・一三
嘉義	〇・二六	〇・四六	〇・七一	〇・一五
臺南	〇・二七	〇・四一	〇・六八	〇・一三
阿緞	〇・三一	〇・三六	〇・六七	〇・一六
臺東	〇・一七	〇・四九	〇・六六	〇・〇九
花蓮	〇・三五	〇・五二	〇・七八	〇・一七
澎湖	〇・三三	〇・二六	〇・二六	〇・一七
總計	〇・三三	〇・三三	〇・六五	〇・一六
明治四十三年	〇・三三	〇・三四	〇・六六	〇・一七

第四節 役牛ニ對スル耕地面積

全黃水牛頭數ニ對スル耕地面積ハ一甲六分六厘ニシテ内從業頭數ニ對スル一頭ノ耕地面積ハ約二甲五分ニ相當ス應別トシテ表記スレハ左ノ如シ

應別	耕牛總頭數	總頭數ト耕地面積		從業牛頭數	從業牛頭數ト耕地面積	
		對一頭耕地面積	對一甲頭數		對一頭耕地面積	對一甲從業牛頭數
臺北	二二,六四三	一・五九	〇・四	一五,〇九五	三・七七九	
宜蘭	九,三七五	二・七四	〇・四	六,二五〇	四・一〇	
桃園	二五,五九九	二・四一	〇・四	一七,〇四八	三・六一	
新竹	二七,九三三	一・九八	〇・五	一八,六二三	二・九八	
臺中	五四,五〇一	一・九八	〇・五	三六,三三四	二・九七	
嘉義	一九,六六一	一・二四	〇・九	一三,一〇七	一・七一	
臺南	八八,四〇一	一・九五	〇・五	五八,九三四	二・九二	
阿緞	七二,五五七	一・六〇	〇・六	四七,七〇五	二・四〇	
臺東	七五,六五五	〇・九〇	一・一	五〇,四三〇	一・三五	
花蓮	一七,四五六	〇・五七	一・八	一一,六五七	〇・八五	
澎湖	一一,一一五	〇・九一	一・一	八,〇七七	一・三七	
澎湖	三,三七四	一・九一	〇・五	二,二四九	二・九〇	
澎湖	四二八,二四五	一・六六	〇・六	二八五,四九七	二・五〇	

第五章 農產

大正二年ニ於ケル農產物總生産價額一億二百八十四萬四千九百六十九圓ニシテ農業總生産價額ノ約九割ニ相當ス今種類別、栽培面積、生産高、生産價額ヲ表記スレハ次ノ如シ

普通(食用)農產物

種別	栽培面積	生産高	生産價額	大正元年同上
米(玄米)	五〇九,六四四・七	五,二六三・七	六五三〇九,七九	五六六五二,五五四
甘藷	一一〇,四三〇・三	一,三七〇,九七〇,〇〇三	七五四〇,三三五	七八五二,三七〇
大豆	二四,一八七	一五,九九九	六六,二三六	五三,一一七
小麥	六,六六一・三〇	三八〇九四	三五二,六〇八	三二一,八七三

備考 一、耕牛總頭數ハ耕作ニ使用スル水牛黃牛及雜種牛ノ年末現在頭數ノ總合計ナリ

二、從業牛頭數トハ耕牛總頭數ノ内三分ノ一ハ幼牛(農耕用トシテ使役)ト見積リ之ヲ控除シタル殘餘ナリ

大正元年	明治四十四年	明治四十三年	明治四十二年	明治四十一年
四四六,五二六	四七八,二九〇	四八〇,一八六	四五九,六四九	四一五,一三九
一・五九	一・四八	一・四五	一・四八	一・六一
〇・六	〇・七	〇・七	〇・七	〇・六
二九七,六八四	三一八,八六〇	三二〇,一一四	三〇八,四三三	二七六,七五九
二・三九	二・一一	二・一七	二・一一	二・四二
〇・四	〇・四	〇・五	〇・五	〇・四

種別	栽培面積	生產高	生產價額	大正元年同上
雪柑	七七三〇	三六〇、五六二	一六、四九五	二五、三六九
椪柑	五三三二〇	三、三一、四九〇	三三、五五三	一四五、一四八
桶柑	二一、四〇	九八七、四二二	六、二、三三六	四四、五〇三
雜柑	八、一三〇	三二六、六一三	二〇、六一九	一一、九四三
文旦	五八二〇	三九〇〇、一七	二四、二四七	一三、七七二
龍眼	一一五二〇	九九五、九〇三	五九、一七	三九、二八〇
鳳梨	一九、七五〇	七、五五、九八六	二四七、三二八	五二〇、七八一
香蕉	九〇、一一〇	七、二〇、二五八	三四九、〇四八	三〇八、五九七
計	一、六三、五七〇	二二、四三、七三三	八九三、二三〇	三八三、六五九
	六三、七〇	一、一八、八五〇	三五、九五二	一八、二〇七
	一、三九、四〇〇	一、四〇、七九〇	四六、七五九	四四、四七九
	四、二八〇	三五、四、四五五	一〇、七二二	八、七二二
			二、〇〇〇、四〇六	一、五六五、四四九

種別	栽培面積	生產高	生產價額	大正元年同上
鳳梨	一三、二六二	一、二七、三五	四、四二九	七、〇〇三
梨			二六、二六、四五四	四五、四三、〇四四
纖維				

種別	栽培面積	生產高	生產價額	大正元年同上
大豆	一八、五〇五	七〇、八八五	八〇五、九六二	一、一三九、五五三
其他ノ豆類	一六、六一〇	六六、五四〇	六七四、〇五〇	二六九、一七八
黍	四九、三九一	四八、五一〇	三〇九、〇〇九	五二、一八二
粟	三、四四七	一四、二六五	七七、八八七	六六、四四〇、八三七
計			七五、一三四、三六六	

種別	栽培面積	生產高	生產價額	大正元年同上
砂糖	六七、三七、六四	一、九、四九、二四四	一七、四三八、七八四	三七〇、五三、〇六二
茶	三六、九四、三九五	四、九、五一、四三八	一、五〇三、三〇〇	一、七二〇、四二六
煙草	三五、一、二七	二、二、五、六、二四四	四、五二八、七二二	四、六七八、四〇五
落花	一九、四、四、四九	七、二、五、三三八	一、一三〇、九七	一〇五、一、九一
胡麻	一〇、九、五、三、三三	二、九、九、四、四	一、二、七、一、二七六	七、六三、一四〇
菜種	一、二、一、六、三、七	二、七、〇、一〇	四、五、三、九、三六	三、〇一、七〇六
木藍及山藍	一、六、一、八、四、六	三、六、六、六	三、五、〇、八、四	一、二、一、四、一
苧麻	一、七、〇、五、七、六	二、七、五、三、四、七五	一、四、三、一、九四	一、九六、〇、六一
苧麻	二、五、七、四、〇、二	一、四、一、八、八、四、五	三、三、三、三、五、五	三、五〇、一〇、〇
黃草	四、七、一、一、三	四、六、二、一、五、三、八	三、二、九、五、一、六	二〇、六、六、四、四
蘭草		一、〇、三、三、〇、七	四、五、八、一、九	四、一、九、八〇
泥藍				

繭	桑畑面積	收繭高	生産價額	大正元年 同上
	三六四・五八	二六四・四八一	八七・四三	二五・二八

備考 甘蔗ノ生産高八一、五三〇、五一八、〇三二斤ニシテ一、〇〇〇斤ノ價ヲ三圓トシテ計算スレハ價額四、五九一、五五四、〇九六圓トナル

本表ハ統計トシテ報告シタルモノ、ミニ付計算シタルモノナリ故ニ本表以外ノ農作物及蔬菜等ノ生産アルモノトス今主要農産物ニ付其大要ヲ記述ス

第一節 稻

本島農業生産ノ首腦ヲ占ムル米穀ハ近年價額ノ著シク騰貴セルト播種及插秧當時降雨潤澤ナリシ等ノ爲メ前年ニ比シ作付面積一萬三千五百五十五甲ヲ増加シ加フルニ發育中二、三地方ニ於テハ旱魃若クハ過濕ノ爲メ旱害又ハ病蟲害ヲ蒙リタリシモ一般ニ灌水豊富生育極メテ佳良ニシテ實收高五百十二萬六千三百七十七石實ニ未曾有ニ屬ス之ヲ前年ノ實收高ニ比スレハ百七萬九千七百六石ノ增收ニシテ明治三十二年ノ實收高ニ比シ二倍半ニ相當ス獨リ總收量ノ増加ノミナラス甲當收量ニ於テ亦未曾有ニシテ平年ニ於テハ八石乃至九石ヲ上下スレトモ十石臺トナリ第一期作ニアリテハ十一石一斗九升ニシテ總平均ニ於テ十石六斗トナル

斯クノ如キヲ以テ本島米ノ内地移出數量亦未曾有ニシテ玄米百十四萬一千六十六石、精米二萬一千四百七十八石、粃七百三十三石、此價額二千五百六十九萬三千六百四十一圓ニ達セリ將來農會ニ於ケル米種改良事業完成スル曉ニハ本島ノ米作ハ生産高品質共ニ大ニ見ルヘキモノアルヘシ今明治四十年以降ノ作付面積收獲高及平均一甲收獲高ヲ表記スレハ次ノ如シ

年次	作付面積			收穫高			平均一甲收穫高		
	水	陸	計	水	陸	計	水	陸	平均
明治四十年	四四一、〇七七	四五、一九八	四八六、二七五	四、一〇、三三三	三〇、一八三	四、五一、二四四	九、五五	六、六八	九、二八
明治四十一年	四四八、七七三	四九、〇三四	四九三、八〇七	四、三、七六九	三〇、八九五	四、六五、六二八	九、六九	六、八六	九、四三
明治四十二年	四五七、七五八	三七、〇五〇	四九四、八〇八	四、三、九八一	二二、一五九	四、六二、九九〇	九、六一	六、二五	九、三六
明治四十三年	四三七、一九七	三三、二二九	四七〇、四二六	三、九、四〇〇	二二、三、四五三	四、一、八七、四七三	九、〇七	七、〇三	八、九〇
明治四十四年	四五一、一一七	四一、五一〇	四九三、六二七	四、二、五三、七五九	二二、三、八五〇	四、〇、四九、六〇九	九、四一	五、七二	九、一〇
大正元年	四五一、五八八	四四、五八〇	四九六、一六八	三、八、一〇、七九七	二二、五、八一、四	四、〇、四六、六一一	八、四四	五、二九	八、二五
大正二年	四六二、〇六一	四七、五八二	五〇九、六四三	四、八、一六、五二七	三〇、九、七九〇	五、一、二六、三二七	一〇、四二	六、五一	一〇、〇六

第一、第一期作中北部ニアリテハ前年ノ暴風雨ニテ水田流失等ノ爲メ其ノ作付面積ヲ減セシモ嘉義廳以南ノ地方ニアリテハ近年米價騰貴ノ結果ト插秧當時降雨潤澤ナリシ等ノ爲メ作付増加セシヲ以テ全島ヲ通シテ前年ニ比シ約七千甲ヲ増加シ總作付面積二十三萬一千四百四十二甲七分七厘ニ達シ

且ツ發育期中一般ニ天候順調灌水充分病蟲害ノ被害僅少ナリシヲ以テ生育極メテ優良一甲平均並ニ
 總收穫ハ未曾有ノ豐作ニシテ玄米二百五十八萬九千二百石ヲ收穫シタリ之ヲ前年本期實收高ニ比スレ
 ハ四十九萬二千四百八十三石約二割三分最近五箇年平均本期實收高ニ比スレハ三十三萬四千七十三
 石約一割五分ノ增收ナリ即チ左ノ如シ

應別	作付面積			收穫高			平均一甲收穫高	
	水	陸	計	水	陸	計	水	陸
臺北	三〇、四一四、四五		三〇、四一四、四五	四〇九、九一七		四〇九、九一七	一三、四八	
宜蘭	一八、三二七、〇六		一八、三二七、〇六	二二一、三〇六		二二一、三〇六	一一、五三	
桃園	三一、四五五、七八		三一、四五五、七八	二五四、〇九九		二五四、〇九九	八、〇八	
新竹	二八、五五七、五〇		二八、五五七、五〇	三三一、四八三		三三一、四八三	一一、六一	
臺中	五七、九七七、七九		五七、九七七、七九	七二七、二二五		七二七、二二五	一一、五四	
嘉義	六、七八三、八八		六、七八三、八八	八、四八六		八、四八六	一一、五四	
臺南	八、九三三、五六		八、九三三、五六	一四、五〇五		一四、五〇五	七、三一	
阿緞	七、四七九、七六		七、四七九、七六	一九、三三三		一九、三三三	八、〇七	
臺東	二、三九六、〇四		二、三九六、〇四	三、七五五		三、七五五	一一、〇〇	
花蓮港	四、四一三、三二		四、四一三、三二	八、六八一		八、六八一	九、三一	
澎湖								
總計	二二六、九八三、六三		二二六、九八三、六三	一〇九、〇〇九、二五八、九〇二		一〇九、〇〇九、二五八、九〇二	一一、四三	七、五三

第二、第二期作 播種及插秧當時ニ於テ適量ノ降雨アリテ用水潤澤トナリシノミナラス前年ニ於ケ
 ル洪水被害田ノ復舊セシ爲メ中南部一、二地方ニ於テ甘蔗ノ作付其他ノ理由ニヨリ作付ヲ減少セシ
 外大體ニ於テ作付ヲ増加セシヲ以テ全島ヲ通シ前年本期作ニ比シ六千三百六十餘甲ノ作付ヲ増加シ
 總作付面積二十七萬八千二百甲二分ニ達シ加フルニ發育期中一般ニ天候順調灌水豊富病蟲ノ被害亦
 僅少ナリシヲ以テ生育旺盛ヲ極メ爲メ未曾有ノ豐作ヲ示シ玄米二百五十三萬七千三百十五石ヲ收
 穫シタリ之ヲ前年本期實收高ニ比スレハ五十八萬七千二百二十三石約三割最近五箇年平均本期實收
 高ニ比シ三十九萬七百四十七石約一割八分ノ增收ナリ即チ左ノ如シ

應別	作付面積			收穫高			平均一甲收穫高	
	水	陸	計	水	陸	計	水	陸
大正元年	二二、三八七、七六一		二二、三八七、七六一	六七、四二〇、二〇九、六五一		六七、四二〇、二〇九、六五一	九、四九	六、四七
明治四十四年	二二、四七二、七二六		二二、四七二、七二六	五九、四六三、二四〇、九七二		五九、四六三、二四〇、九七二	一一、二二	六、〇〇
明治四十四年	二〇、八九五、二四三		二〇、八九五、二四三	五六、六七八、二〇八、一七四		五六、六七八、二〇八、一七四	九、八二	五、三八
明治四十四年	二二、八八九、一〇〇		二二、八八九、一〇〇	七一、三八〇、二二九、一六四		七一、三八〇、二二九、一六四	一〇、六〇	五、四四
明治四十四年	二二、六七四、〇〇八		二二、六七四、〇〇八	九二、四七九、二二六、八二〇		九二、四七九、二二六、八二〇	一〇、〇四	五、五一
總計	一四、四五九、一四		一四、四五九、一四	一〇九、〇〇九、二五八、九〇二		一〇九、〇〇九、二五八、九〇二	一一、四三	七、五三

第一編 農業 第五章 農産

總計	澎湖	花蓮港	臺東	阿緞	臺南	嘉義	南投	臺中	新竹	桃園	宜蘭	臺北
二四、〇七、七二八	七、七〇〇	三、二七一	二、八二六・六九	三、一七〇・一七九	二、四七三・八〇五	九、三八八・二五	五、五四二・一六九	三、七〇〇・三三三	二、八三〇・四三八	一、七、二五〇・一四	二、六、七二四・一六	七、三〇一
三三、一、三三〇・二	一、七、七〇〇	五、二六二・〇	六、一五九・九五	一、二七〇・一七九	一、二七三・五三〇	八、九五五	二、七〇・四二	三、二一七・〇	一、四、一〇〇	五、二九〇	二、六、七九七・一七	七、三〇一
二、七、八二〇・二〇	八、九四〇・〇〇	八、三三八・九一	三、四、三六六・六四	四、三、九九五・六八	三、七、四七三・三五	九、四七三・七〇	五、五、六九二・一一	二、三、〇三三・〇三	二、八、三二一・八五八	一、七、三〇三・〇四	二、六、六六九	三、二、六六九
二、三、三六五・三四	五、九六三	二、八六六	二、五、五三三・四九	二、五、〇三三・四三	一、八、九七七・七	九、七、三六四	六、五、〇七六・二	一、七、七、九〇九	二、二、三、九〇六	一、五、五、八二六	三、二、六六九	三、二、六六九
二、〇、〇、七八一・二五	一、一九三	三、三、三五八	三、七、三三三・八	八、一、九三三	七、二、八一五	六、〇八	一、六、二六	九、六、三	三、四	二、七、六	六、三、七	六、三、七
二、五、五、七三・一五	七、一五六	六、二二四	二、九、二六八・七	三、三、二七六	二、六、二、三九二	九、七、九七二	六、五、二、三八八	一、七、八、八七二	二、二、三、九四〇	一、五、六、一〇二	三、二、七、三〇六	三、二、七、三〇六
九、五、三三	八、三三	九、一七	九、〇、〇五	八、〇、〇	七、六、六	一、〇、三、七	一、一、七、四	七、八、四	七、九、一	九、〇、三	二、二、二、二	二、二、二、二
六、〇、六	六、七、四	六、三、八	六、〇、六	六、四、五	五、七、二	六、七、九	六、〇、一	二、九、八	二、三、九	五、三、三	八、七、二	八、七、二
九、一、二	八、〇、〇	七、四、二	八、五、一	七、五、五	七、〇、〇	一、〇、三、四	一、一、七、一	七、七、七	九、〇、二	九、〇、二	一、二、一、一	一、二、一、一

尙ホ左ニ參考トシテ同年中ニ於ケル應別暴風雨被害減收見込數量及價額ヲ表記ス

第一編 農業 第五章 農産

應別	被害減收見込數量 (支米)		被害減收見積價額
	第一期作	第二期作	
臺中	二、三、九九	四、七、一	二、六、三、八九
南投	四、七、一	一、六、七、〇	四、七、五、八
嘉義	一、五、四、三	二、八、六、八	一、六、七、〇
臺南	二、八、六、八	五、五、三、五	二、八、九、二
阿緞	五、五、三、五	八、〇、五	五、九、九、一
臺東	一、三、〇	六、七、五	八、一、七、七
計	五、二、六、五一	六、七、五	五、五、五、二六
大正元年	一、二、六、八六〇	三、六、七、七四五	一、七、一、七、七七八
明治四十四年	一、八、八、七三五	一、八、八、七三五	一、八、八、七、五三〇

第三、綠肥栽培ノ獎勵 臺灣ニ於ケル綠肥作物ノ種類ハ從來第一期作ニ於テハ大菜、豌豆、大豆、田菁第二期作ニアリテハ重ニ田菁ヲ栽培シ來リシカ近年苜蓿ヲ栽培シテ其成績見ルヘキモノアリ第一期作用トシテ播種セラル綠肥ノ栽培ハ農業ノ進歩ト共ニ漸次増加スヘキモノニシテ本島ニ於テモ年々増加ノ趨勢ニアリ

今水稻作ニ對スル水田綠肥作物栽培面積ヲ表記スレハ次ノ如シ

應別	大正二年		計	同上百分比
	對第一期水稻作	對第二期水稻作		
臺北	三、〇六七・一六	三、〇六七・一六	三、〇六七・一六	一〇〇
宜蘭	四、一三七	四、一三七	四、一三七	一〇〇
桃園	四、五二〇・〇八	四、五二〇・〇八	四、五二〇・〇八	一〇〇
新竹	一、五三八六・四五	一、五三八六・四五	一、五三八六・四五	一〇〇
臺中	二、四、四六三・三四	二、四、四六三・三四	二、四、四六三・三四	一〇〇
嘉義	二、三、九二七	二、九四〇・〇五	二、五三三・三二	八八
臺南	三、四、八四二・二一	三、八九三・七三	七、三七七・九四	四七
阿緞	三、三、六八〇	一、八四六・四六	二、一八三・二六	一五
臺東	一、二、九五五・五六	一、二、三三六・七五	二、五九二・三一	五一
花蓮	五〇、一〇	五〇、一〇	五〇、一〇	一〇〇
總計	六七、九七七・五四	一八、七九八・六六	八六、七七六・二〇	七八
大正元年	六三、八九六・六四	一八、七三七・五五	八二、六三四・一九	七七
明治四十四年	六六、七五五・四五	一九、〇六五・五六	八五、八二一・〇一	七八

此綠肥栽培ノ慣習ヲ一層ニ普及獎勵シ且ツ其使用法ヲ誘導スル目的ヲ以テ明治四十二年度以來督府ニ於テ之カ獎勵ヲ續行シ各地ニ綠肥模範田ヲ設ケ農業者ヲシテ擔當セシメ綠肥ノ種子、過燐酸石灰等ヲ補助シ收穫物ハ擔當者ノ所得トシ綠肥作物ト共ニ過燐酸石灰ノ施用ヲ獎勵シツ、アリ今最近五年間ノ補助金ヲ記スレハ左ノ如シ

年 度	綠肥模範田費
明治四十一年度	一三、〇〇〇 円
明治四十二年度	一三、〇〇〇 円
明治四十三年度	一五、四〇〇 円
明治四十四年度	一九、四九〇 円
大正元年度	一五、五三六 円
大正二年度	一九、四九〇 円

栽培ノ結果普通田ニ比シ過燐酸石灰ヲ施用シタルモノ、利益左ノ如シ

年 度	設置數	面積	模範田		普通田		模範田對普通田一甲當收量比較増(△減)	
			總收量	一甲當收量	總收量	一甲當收量		
明治四十一年度	五一七	一、七五七・七六	二、八〇五・三三	三、一九四	一、五八四・七九七	一、八〇四	一、六一〇・三	一、九四一
明治四十二年度	五九〇	一、九〇七・七五	七、四八八・六七	三、九一三	三、七八七・二六六	一九八五	一、七五七・〇	二、二八四
明治四十三年度	六九七	二、二四二・五〇	八、九〇、一九七	三、九六五	四、一五九・四五七	一八、五二七	一、四九四・九	三、五七八
明治四十四年度	八九五	三、三三四・九九	一、三八八、〇四二	四、一二七	五、三〇〇、六五九	一五、五八一	一、三二四・七	二、四三四
大正元年度	八五四	三、三三一・六〇	一、〇三三、三二六	三、一六	五、九二四、〇九七	一七八六五	一、五〇四・五	二、四一四
大正二年度	七五四	三、二六五・三	九、七九七・九六	三、三〇七	四、九〇七、三〇六	一五、六八五	一、三三七・七	二、三〇八

前表ニ基キ過磷酸石灰ヲ施用シタル綠肥模範田一甲ノ利益ヲ計算スルニ次ノ如シ

年 度	普通作ニ比シ増收 支米高	同上價額	施用セシ過磷酸石灰ノ代價	差引益金	備 考
明治四十一年度	一、九四一	一、五九九四	一、二二六二	三、七〇二	一石八圓二十四錢(明治四十二年九月中臺北、基隆、打狗相場平均)
明治四十二年度	二、二八四	二、一八五八	七、八二〇	一、〇三八	一石九圓五十七錢(四十三年九月中同前)
明治四十三年度	三、五七八	四、六二九六	五、七二〇	四、〇五七六	一石十二圓九十三錢五厘(四十四年九月中同前)
明治四十四年度	二、四三四	三、五、六六一	五、九八二	二、九、六七九	一石十四圓九十錢八厘(大正元年九月中同前)
大正元年度	二、四一四	二、九〇四七	四、九八〇	二、四、〇六七	一石十二圓三錢三厘(大正二年九月中同前)
大正二年度	二、三〇八	三、四三一九	五、五〇〇	二、八、一九一	一石十圓四十八錢七厘(大正三年九月中同前)

斯クノ如ク模範田ノ成績良好ナルカ故ニ一般農家ニ於テモ模範田ニ倣ヒテ綠肥ヲ栽培シ過磷酸石灰ヲ使用スルモノ續出スルニ至レリ

綠肥ハ水稻作ヲ以テ主ナルモノトナスモ甘蔗其他ノ作物ノ綠肥ニ供スルモノ近年増加シ來レリ參考トシテ大正二年中ノ綠肥作物栽培面積ヲ左ニ表記セシ

應 別	田		畑		田畑計
	單 播	混 播	單 播	混 播	
計	單 播	混 播	單 播	混 播	計
田畑計					

本表綠肥作物ノ種類別トシテ記スレハ次ノ如シ

綠肥ノ種類別	田		畑		計	總面積ニ對スル千分比例
	綠 肥 栽 培 面 積	計	綠 肥 栽 培 面 積	計		
臺 北	二、一九七六六	八、六九五〇	三、〇六七一六	一、二二、二四	一、九八〇	一、四、一〇四
宜 蘭	四、一三七	四、一三七	四、一三七	四、一三七	四、一三七	四、一三七
桃 園	四、五三三八八	四、五三三八八	四、五三三八八	四、五三三八八	四、五三三八八	四、五三三八八
新 竹	一、五、一八〇七〇	一、〇五、七五	一、五、一八〇七〇	一、〇五、七五	一、〇五、七五	一、〇五、七五
臺 中	八、八二七七八	一、六、一五七七三	一、五、三、八六四五	四、三、七、六八	一、〇八、六三	一、〇、四、一七二
南 投	二、三、二、三三	六、三、〇、〇五	二、三、二、三三	二、五、八、六〇	二、五、八、六〇	二、五、八、六〇
嘉 義	六、八、一、三九三	七、二、四、四七	七、五、三、八、四〇	三、七、九、二、五四	四、一、六、五、四	四、二、〇、九、〇八
臺 南	二、一、七、七、二九	三、三、二、四〇	二、一、七、七、二九	二、九、二、一、六八	二、六、三、七、九	三、一、八、五、四七
阿 緞	二、二、六、六、〇、三三	二、六、七、二、〇八	二、五、三、三、三、三一	三、九、七、五、二、一	二、七、八、二、五	四、二、五、三、四六
臺 東	四、六、一、一〇	四、〇、〇〇	五、〇、一、一〇	五、四、八、〇	五、四、八、〇	五、五、五、九〇
花 蓮	二、七、一、一〇	六、七、一、〇〇	九、四、二、二〇	一、二、九、一、四九	一、〇、八、七、〇一	一、四、〇、六、八、五〇
總 計	六、五、六、六、七、四六	二、一、三、三、六、九八	八、七、〇、〇、四、四四	一、二、九、一、四九	一、〇、八、七、〇一	一、〇、一、〇、七、二、九四
大 正 元 年	六、三、一、五、九、五九	二、一、八、四、六、六七	八、五、〇、〇、六、二六	一、四、三、八、七、七五	一、一、一、五、〇、〇六	一、五、五、〇、二、八一
明 治 四 十 四 年	五、九、三、五、七、四五	二、一、二、四、九、六四	八、〇、六、〇、七、〇九	一、三、四、四、四、八三	一、六、一、〇、五、五九	一、五、〇、五、五、四二
明 治 四 十 三 年	六、〇、二、七、九、九二	一、八、九、二、一、三六	七、九、二、〇、一、一八	一、四、九、七、九、〇四	一、二、三、二、六、二	一、六、二、一、一、六六

第一編 農業 第五章 農産

前年ノ十一石三斗七升ニ對シ一斗六升ヲ増シ十一石五斗三升ヲ計スルニ至レリ
第二期作 天候概シテ適順ニシテ平年以上ノ作柄ナリシモ二結、清水溝、浮州、利澤簡、羅東ノ各堡中一部分ハ前年ノ水害ヲ受ケ辛クシテ作付ナシタル箇所アリテ其收量モ僅々甲當三石ニ過キサレモノアリテ一部ニ甚シキ不作アリシ爲メ總收量ハ遂ニ平年作ノ一割三分減ナリシモ前年ニ比スレハ百七十八甲收量五萬四千七百六十石ヲ増加セリ

新竹廳報告 第一期作ハ累年暴風雨ノ爲メ流失埋没セシ水田ノ復舊セサルモノ多キ爲メ作付面積ハ前年同期ニ比シ四厘六毛弱最近五箇年平均ニ比シ三毛強ヲ増加シ收穫高ハ挿秧後降雨天候共ニ適順ニシテ且病蟲ノ被害少カリシニヨリ前年同期ニ比シ六割四分一厘二毛最近五箇年平均ニ比シ二割七厘四毛ヲ増加セリ

第二期作ハ挿秧期ニ於テ降雨潤澤ナリシト洪水被害田ノ復舊ニヨリ作付面積ハ前年同期ニ比シ三分三厘最近五箇年平均ニ比シテ四分五厘ヲ増シ收穫高ハ成育期中氣候適順病蟲害風水害殆ント絶無ナリシニヨリ前年同期ニ比シ三割四分一厘最近五箇年平均ニ比シ一割四分一厘ヲ増シタリ

臺中廳報告 本期ハ最近五箇年平均ニ比シ作付面積九千四百四十三甲七分三厘ヲ増加シ加フルニ氣候順調ニシテ天災及病蟲ノ被害少ク生育盛ニ成熟極メテ真好ナリシノヨリナス品種ノ改良セラレタル結果收穫高モ亦五箇年平均ニ比シ二十六萬六千百石ヲ増加シ近年稀有ノ豐作ナリキ

大正二年末ニ於テ設置シタル綠肥模範田ハ二百十四箇所面積九千三百九十九畝ニシテ綠肥ノ作況ハ播種後降雨少ク旱害ヲ蒙リ生育稍ヤ不長ニシテ前年ノ綠肥作實收量ニ比較スルトキハ一甲歩當リ千九百九十貫ノ減收ヲ來セリ然レトモ大正二年春季ニ於テ之ヲ收穫シタル成績ニ依レハ比較田ニ於テハ一甲歩當リ平均二千六百一貫目内外ニ過キサレモ模範田ニ於テハ平均三千六百三十四貫餘ニシテ即チ四割一分強ノ增收ヲ示セリ更ニ又稻作ノ收量ニ於テハ挿秧後降雨適度ニシテ天候比較的

第一編 農業 第五章 農産

順調ナリシト病蟲ノ被害少ナカリシヲ以テ生育極メテ真好ニシテ比較田ハ一甲歩當リ平均額三十七石五斗五合模範田ニ於テハ平均四十二石四斗五升八合ニシテ即チ一割三分餘ノ增收ヲ示セリ斯クノ如クナルヲ以テ一般米作者ハ綠肥ニ過燐酸石灰ヲ施用スルノ極メテ有利ナルヲ認メ近時模範田ニ倣ヒ該肥料ヲ施用スルモノ續出セルノ狀況ヲ呈スルニ至レリ

南投廳報告 第一期作 作付當時降雨潤澤ナリシヲ以テ陸稻作ニ於テ約八十甲ヲ増加シタリ而シテ栽培期中降雨適順ナルト病蟲害ノ發生少ナカリシ結果作柄佳良ニシテ前年ノ甲當收量九石二斗一升ニ比シ一石七斗三升ノ增收ニシテ甲當十石九斗四升ヲ收メ得タリ

第二期作 前年本期ニ比シ作付面積九百九十七甲八分收量四千二百六十一石ヲ減セリ本期ハ一地方ニ於テ螟蟲ノ被害アリタルモ一般ニ天候順調ニシテ風水害ノ鮮カリシニヨリ作柄良好ニシテ甲當ニ於テ前期ニ比シ六斗三升ノ増加ニシテ十石五斗一升ヲ收穫シタリ

綠肥模範田ハ明治四十一年以來廳下各地ニ毎年引續キ設置シ綠肥作物ニ對シ過燐酸石灰ヲ施用シ其ノ肥效チ一般農民ニ周知セシメ以テ一般農家ニ之レガ普及ナリ米作改良ニ資シ以テ其ノ增收ヲ圖ラントスルニ在リ本年ノ綠肥模範田設置箇所ハ三十九箇所ニシテ其面積十五甲三分九厘同比較田十一甲四分六厘其ノ綠肥作物ノ一甲當收量模範田ニアリテハ一萬八千斤ニシテ比較田ニアリテハ一萬四千斤ヲ得タリ以テ模範田ノ效果ヲ顯揚シ施肥觀念及綠肥作物ノ獎勵ニ資シタリ

嘉義廳報告 稻作ハ一部灌溉ノ便アル地ヲ除キ其大部分ハ所謂看天田又ハ陸稻ニシテ之レカ豐凶ハ一ニ天候ノ如何ニ左右セラレ、コト甚大ナリ本年ハ天候極メテ順調ニシテ且二三埤圳モ完了シタル結果作付及收量共最近數年間稀ナル増加ヲ呈セリ即チ左ノ如シ

年	次	作	付	面	積	玄	米	收	穫	高
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第一編 農業 第五章 農産

年次	設置箇所数	總面積	模範田	比較田	増減	模範田	比較田	増減	模範田	比較田	増減
明治四十二年	六一	一五	二四八三	一六六八	八一五	三六	三一	五	二六八	二六八	〇
明治四十三年	九二	二七	三二二八	二二八四	九三四	二六	二二	四	二七九	二七四	五
明治四十四年	九〇	二七	四二二六	二二八一	一三四五	三三	二五	八	二八三	二七六	七
大正元年	一六〇	四八	三二九九	二二一九	一〇四九	二八	二二	六	二七九	二七八	一
大正二年	一六〇	四八	二四一八	一九四六	四七二	三二	二五	六	二七九	二七八	一
平均	一一二	三三	三三〇二	二二七九	九二三	三二	二七	四	二七八	二七五	三

第一期作 前年本期ニ比シ作付面積五千八百四十二甲即チ五割四分四厘ノ増加ニシテ収量ニ於テ七萬九百九十四石即チ二倍以上ニ達シ近來未嘗有ノ増收ヲ示セリ

第二期作 此ノ内中間作ニ屬スルモノハ其生育初期ニ於テ浸水ノ害ヲ受ケ引續キ浮塵子及一點螟蟲等ノ發生少ナカラズ被害ノ稍大ナル地方アリシモ之カ驅除豫防ニ勉メシト其後ノ天候概シテ順調ナリシ爲メ前年ニ比シ作付面積ニ於テハ一千九百四十七甲ヲ減シタルモ收穫ニ於テハ却テ六萬七百五十九石實ニ三割ノ増收ヲ見タリ

年次	設置箇所数	總面積	模範田	比較田	増減	模範田	比較田	増減	模範田	比較田	増減
明治四十一年	六一	一五	二四八三	一六六八	八一五	三六	三一	五	二六八	二六八	〇
明治四十二年	九二	二七	三二二八	二二八四	九三四	二六	二二	四	二七九	二七四	五
明治四十三年	九〇	二七	四二二六	二二八一	一三四五	三三	二五	八	二八三	二七六	七
明治四十四年	一六〇	四八	三二九九	二二一九	一〇四九	二八	二二	六	二七九	二七八	一
大正元年	一六〇	四八	二四一八	一九四六	四七二	三二	二五	六	二七九	二七八	一
平均	一一二	三三	三三〇二	二二七九	九二三	三二	二七	四	二七八	二七五	三

本表ノ如ク綠肥ニ對スル磷酸肥料ノ效果ハ益々實地ニ於テ證明セラレタルヲ以テ農業者亦其有利ナルヲ自覺シ綠肥作物作付面積漸次増加シ綠肥ニ施用スル磷酸肥料ハ本年ハ七千五百五十五畝ニシテ前年ニ比シ四倍半強ニ達シ漸次増加ノ傾向アリ

臺南廳報告

本年ノ作付面積ハ前年ニ比シ二千五百二十八甲餘畝量ニ於テ一萬六千六百十三石ヲ増シ之ヲ前四箇年平均ニ比スレハ六千二百二分八厘畝收量ニ於テ三萬三千六百三十一石ヲ増セリ即チ本年ハ兩期作共異例ノ作付増加ナリ是レ播種及插秧當時ニ於テ降雨潤澤ナリシニ由ルト雖モ亦以テ米價ノ高値ヲ持續セル結果ニ因ラスンハアラサルナリ而シテ第一期作ノ生育期中ハ天候概ネ順調ニシテ極メテ無難ノ作柄ヲ得タルモ第二期作生育中七月中旬ノ豪雨アリ加フルニ害蟲浮塵子及螟蟲ノ發生夥シク生育ヲ阻碍セラレタルモノ不熟爲メニ一甲當兩期作平均收量前年ノ八石一斗三升九合ニ比シ七升三合前四箇年平均八石三斗九升五合ニ比シ三斗二升九合ノ減收ヲ示セリ

阿緬廳報告

第一期作 苗代播種後天候概ネ順調ニシテ稚苗ノ生育頗ル良好ナリキ本田移植後一番除草ヲ終リ二番除草前後即チ三月中旬ニ入りテ氣温頓ニ下降シ冷氣甚シク生育ヲ阻碍セラレタルモ四月上旬ヨリ更ニ生育ヲ恢復シ四月下旬及五月上旬ニ於テ屢々疾風驟リ開花若クハ結實ヲ妨ク五月中旬ヨリ霖雨旬日ニ亘リ陰鬱ノ天候打續キタル爲メ稻熱病ヲ誘發シ各地方ニ其被害ヲ見タリ而シテ直轄社皮方面ハ殊ニ被害著シクシテ五割内外ニ達ス同地方ハ獨リ天候ノミニニ因ルニアラスシテ臺灣製糖阿緬工場ヨリ放下セル糖蜜ヲ含有スル灌水モ亦該病ノ誘因タリシ而シテ本期ハ近年灌漑設備ノ完成ト一面米種改良後ニ於ケル聲譽及米價ノ昂騰ハ稻作ノ最モ好望タルヲ感セシメ荷モ水利ノ便アル地ハ競テ植付ヲナスノ状態ナレハ前年同期ニ比シ一千二百八甲五厘ノ作付増加ヲ見タリ

第二期作 苗代播種當時ヨリ豪雨頻繁ニシテ殊ニ七月十七日ヨリ二十一日ニ至ル大降雨ハ其量七百十餘耗ヲ算シ浸水ノ爲

第一編 農業 第五章 農産

第一編 農業 第五章 農産

メ稚苗ノ腐朽セルモノ又ハ本田移植苗ノ活着ナ妨ケラレ八月ニ入りテモ霖雨歇マシテ生育ヲ阻碍シタルノミナラス蒸熱ヲ含メル天候ハ害蟲發生ヲ助長シ八月下旬ヨリ浮塵子及螟蟲各地ニ續發シ殊ニ螟蟲ハ其勢頗ル猖獗ナ極メ東港蕃薯方面ニ於ケル激甚ナル箇所ハ五割乃至八割墮下ヲ通シ二割内外ノ被害ニシテ出穂成熟期ニ於ケル白穂ノ現出ハ慘憺タルモノナリキ本期作付面積ハ前年本期ニ比シ第一期作付同一理由ニアリ一千四百四十六甲九分二厘ヲ増加シタレトモ雨量過多、害蟲ノ發生等ニヨリ却テ九千八百五十八石ノ減收ヲ免レサリキ

陸稻 五月以來降雨頻繁ニシテ播種後生育佳ナリシモ七月下旬ニ於テ浮塵子發生シ被害慘狀ナ極メタリ本期作付カ前年本期ニ比シ四分二厘一毛ヲ減シタルハ主トシテ輪作ノ關係ニシテ前記害蟲ノ發生ト作付面積減少ノ爲メ前年本期ニ比シ六千七百十二石ノ減收ナリ

綠肥模範田 ノ綠肥作物ハ暴風雨ノ爲メ種子ノ劣惡ナリシト播下後降雨ナキコト約二箇月ニ亘リタルトニ依リ前年ニ比シ生育狀況甚タ不良ナ呈シ模範田一甲當收量二千七百六十二貫、比較一甲當二千四百一十一貫ヲ示シ稻作モ亦綠肥收量ノ少ナカリシト四月下旬出穂開花期ニ際シ降雨驟リ西南ノ疾風之ニ加リ結實ニ影ナカラサル影響ヲ及ホシタルト成熟期ニ稻熱病各地ニ發生シタル等ノ爲メ秋收ニ於テ前年ニ比シ遂ニ約二割ノ減少ヲ來シ模範田一甲當三十石九斗比較田一甲當二十八石二斗ノ收量ナリシ然レトモ綠肥作物ニ燒肥ノ施用八年々増加ノ趨勢ニアリ年次施肥量ヲ示セハ次ノ如シ

年次	施用數量	年次	施用數量
明治四十一年	一五、二〇〇	明治四十四年	三二、五、一二七
明治四十二年	七五、二〇〇	大正元年	四八、五、九〇〇
明治四十三年	二二四、一〇〇		

臺東廳報告

第一期作 播種及播秧當時ハ例年ト等シク旱天打續キタルモ各地方共水利ノ便大ニ開ケ灌溉水充分加フルニ苗代當時ヨリ播秧前後ニ於ケル氣溫例年ニ比シ高溫ナリシ爲メ發育旺盛佳良ノ收穫ヲ得タリ

第二期作 八月十六日及九月三日ヨリ九月十日ニ亘ル暴風豪雨ハ共ニ多大ナル被害ヲ蒙リ加フルニ卑南附近ノ如キ灌水ノミヲ以テ灌溉ニ充ツル地方ハ七月二十六日ノ降雨増水ノ爲メ卑南水圳取入口ハ砂土ヲ以テ閉塞サレ以後灌水ヲナスコト能ハサル爲メ八月上旬ニ至リ既ニ旱魃ノ兆ヲ呈シ殊ニ成廣灣地方ノ如キハ旱害暴風ノ爲メ其收穫皆無ト云フモ大過ナキ状態ニテ一般ニ收穫減少セリ

陸稻 播種時期不定ニシテ四月上旬ヨリ六月下旬ニ亘リ播種スル事例年ニ異ナラサルモ五月以前ニ播種セシモノハ稍旱害ヲ受ケ發芽不揃トナリ或ハ全ク發芽セサルモノ等アリ五月以降ニ播種セシモノハ適當ノ雨露ヲ得生育良好ナリシモ種籾前後ニ於ケル暴風雨ノ爲メ甚シク被害ヲ蒙リ共ニ收穫不良ニ終レリ

綠肥模範田 大正二年度ニ於テ設置箇所二十七面積十甲七分ニシテ播種後天候適順ナリシヲ以テ良好ノ發育ヲ遂ケツトアリ既往ノ成績ニ微スルニ其成績良好ニシテ農家モ綠肥ノ偉大ナル效果ヲ自悟シ進ンテ施肥必要ノ念ヲ惹起スルニ至レリ

花蓮港廳報告

第一期作 第二期作共作柄良好ニシテ平年ニ比シ水稻第一期作ハ一割二分第二期作ハ三分六厘ノ增收ナリ又陸稻第一期作ハ降雨及氣溫順調ナリシ爲メ比年稀ナル豐作ニシテ三割以上ノ增收ヲ見タリ

第二期作ハ生育佳ナリシモ蟲害ノ爲メ豫期ノ收量ヲ見ル能ハス僅ニ三分四厘ノ增收ニ過キサリキ

第二節 甘藷

前年來引續ケル米價騰貴ト内地ニ於ケル切干薯ノ需用ノ増加ハ一般ニ甘藷作付面積ヲ増加シ昨年

末ノ植付ニ屬スルモノ及ヒ本年ニ入りテ植付タルモノ共ニ發育良好其ノ秋季ニ於テ收穫シタルモノハ幾分夏季ノ豪雨ノ害ト澎湖島ニ於テハ虫害ヲ受ケシモ一甲平均收量ニ於テ明治四十三年以來ノ最豐作ニシテ地方ニヨリテハ五割以上ノ豊收ヲ得タリ之ヲ前年ニ比スレハ作付面積ニ於テ六千七百八十六甲八分八厘收量ニ於テ二億四千九百二十萬三千百十斤約二割ノ増加ナリ即チ左ノ如シ

應別	作付面積	收穫高	平均一甲收穫高	暴風雨被害高	
				減收見込數量	減收見積價額
臺北	一〇、八九九、八八八	七六、二四三、一五	六、九九三		
宜蘭	三、八三六、四三三	一八、三五九、五八〇	四、七八六		
桃園	六、三二一、四九三	六一、五二七、五三三	九、七四三		
新竹	一四、三三六、三三九	一一、九三三、一五五	九、〇三三		
臺中	一四、六八六、四〇〇	一八、七九七、五八一	一二、七九九	三、九三六、四九二	二、三、六一九
嘉義	三、八二二、三三八	四〇、八七九、六〇〇	一〇、六九二	四、一三九、三三五	二、四、八四四
臺南	二六、一三七、〇〇四	三五、〇五七、九六八	一三、四一一	九、一〇四、一一一	五、四、六二五
阿緞	二、三、八九一、八九	三三、六六九、三、六五二	一四、〇九二	二、六〇〇、一三	一、五、六〇
臺東	一、七二七、四二二	一一、九四四、一、三一一	一、四四七		
澎湖	一、二〇二、六〇〇	一三、一九四、五五五	七、五九五	六、一〇〇	三、七
花蓮	一、二二六、九五	一八、一八一、六〇〇	一五、一九三		
澎湖	一、二二六、九五	八、六七〇、八五五	三、八二七		
總計	一、一〇〇、四三〇、〇三三	一、一七〇、九七〇、七〇〇	一、一、三八四	一、三、七二〇、六六一	八、二、三三五

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

總計	大正元年	明治四十四年	明治四十三年	明治四十二年	明治四十一年
一、一〇〇、四三〇、〇三三	一、一三六、四三三、一五	一、一、二、一、七、六、六、八、九、二	一、〇、八、一、九、六、〇、〇	一、〇、五、三、七、二、九、五	一、〇、九、六、〇、七、四、五
一、一七〇、九七〇、七〇〇	一、一、二、一、七、六、六、八、九、二	一、一、二、九、八、八、三、〇、七、二	一、〇、七、〇、五、五、三、九、九、五	一、一、三、一、〇、三、六、四、一、〇、九	一、四、六、七、八、一、五、〇、九
一、一、三八四	九、八七一	一〇、四四二	一〇、一六〇	一、九〇五	一、一、二、一、七、五
一、三、七二〇、六六一	一、四、三、五、八、八、八、四、六	四、一、〇、七、六、五、一、二			
八、二、三三五	八、六、一、五、三三	一、六、四、三〇五			

臺北應報告 甘藷作付ハ前年來頓ニ面積及收量ヲ増シタリ蓋シ貧農ハ低價食料タル本作物ニヨリ僅ニ前二三年間ニ於ケル米作大減收ノ苦痛ニ耐フルノ途ニ出テタレハナリ本年ハ米作ノ豐收ニ伴ヒ面積縮少ノ觀アリシモ事實ハ之ニ反シ一千甲餘ノ面積ヲ増シタリ是レ前年來ノ隋勢ノ然ラシムル所ナルヘシト雖米穀移出力旺盛ノ一反映ト見做スコトナ得ヘシ

宜蘭應報告 荒廢シタル田地ヲ利用シタル等ニヨリテ前年ニ比シ二十一甲八分六厘ノ作付面積ヲ増加シタルノミナラス作柄莫好ナリシ結果前年ニ比シ甲當六百二十七斤ヲ増加シ全廳下ニ於テ三百七十七萬三千五百五十三斤ノ增收ヲ見タリ

新竹應報告 甘藷ハ農民ノ常用食品ニシテ近年米價ノ騰貴ニ伴ヒ著シク其價額騰貴セシノミナラス甲當收量多クシテ作付面積ハ前年ニ比シ約四百八十九甲ノ増殖ニシテ本年上半期ハ平作以上ノ作柄ナリシモ下半年期ハ旱天打續キタル爲メ平作ト

大差ナカルヘシ全年ヲ通シ前年ニ比シ一千五百七十七萬四千二百斤ノ增收ナリ

臺中應報告 甘藷ハ稻作ニ亞キ廣ク栽培セラレツ、アリ本年ハ前年ニ比シ作付面積一千八十一甲四分收穫高ニ於テ六千四百四

第一編 農業 第五章 農産

十六萬六千八百八十八斤ノ増加ニシテ五割ノ增收ナリ斯クノ如キ豐作ハ近年稀ニ見ル處ニシテ全ク氣候順調ナリシニ由ルモノナリ

南投應報告 前年作ニ比シ作付ニ於テ三百四十六甲收穫ニ於テ四百萬斤餘ヲ減セリ是レ作付減少ニ伴フ減收ナリト雖モ其作柄ハ普通ナリキ

嘉義應報告 米ト共ニ常食品タルニ加ヘテ數年來之レカ製品タル乾甘藷ノ管外ニ搬出セラレ、モノ増加シツ、アリ概シテ土質ヲ選フコト鈔ク栽培容易ニシテ收穫速ナル等ハ以テ他作ニ優ルノ點タリ本年ノ作付及收量ハ前年ニ比シ作付ニ於テ九百五十六甲收量ニ於テ六千九百八萬九千四百七十二斤ヲ増加シタリ

臺南應報告 本年中ニ收穫セルモノハ前年ノ秋季ニ植付タルモノナレハ早播ノモノ少許ハ前年九月ノ暴風ニ被害セラレタルモ大部ハ暴風後ノ植付ニ係ルモノニシテ本年ノ四五月ニ收穫ヲ了シタル爲メ七月ノ豪雨ニモ遭遇セス概シテ無難ノ生育ヲ遂クタレハ一般ニ平年作以上ノ作柄ヲ得タリ米價高値ヲ持續スルニ伴ヒ切干薯ノ高價ナル爲メ大正元年以來頓ニ作付面積ヲ増加シ本年ニ於テハ前年ニ比シ作付面積一千二百四十四甲收量七千五百三十萬八千斤ヲ増セリ之ヲ作柄ヨリ比較スルトキハ本年ノ一甲當收量ハ一 四千六百六十六斤ニシテ前年ニ比シ九百十三斤前四箇年平均ニ比シ一千二百四十四斤ヲ増セリ

阿緞應報告 輪作ノ關係ト切干薯ノ需用増加等ノ爲メ作付ヲ増加シ且ツ生育中適量ノ雨水ヲ得タル爲メ一甲當收量增多シ前年ニ比シ作付ニ於テ四百六十四甲五分五厘收穫ニ於テ一千一百四十二萬一千六百五斤ヲ増加セリ

臺東應報告 前年ニ比シ二百五十八甲ノ作付増加ニシテ收量二百六萬八千八百七十八斤ノ增收ヲ得タリ

花蓮港應報告 概シテ作柄良好ニシテ一甲當一萬五千二百六十六斤ヲ得タリ之ヲ前年ニ比シ作付ニ於テ二百九甲收量ニ於テ八百三十二萬三千九百七十五斤ヲ増加シタリ

澎湖應報告 三月中旬ヨリ四月上旬迄ニ植付ナリヒ其後天候順調ニシテ發育佳良ナリシカ一部ノ地方ニ「いもむし」發生シ幾分ノ被害ヲ免レサリシモ作柄概シテ良好ニシテ九月下旬ヨリ十月下旬ニ亘リ收穫ヲ了シタリ之ヲ前年收量ニ比スレハ一割一分強ノ增收ナリ

第三節 大麥及小麥

中南部地方ノ海岸ヲ主ナル産地トナス麥類ハ昨年秋期ニ於テ作付シタルモノ本年ニ入りテ收穫セラレタリ大正元年暴風雨ノ後ヲ承ケテ其ノ作付増加セシノミナラス發育期中天候順調ナリシヲ以テ生育成熟共ニ優良實收ノ結果大麥一萬五千九百九十九石小麥三萬八千九百四十四石ヲ收メタリ即チ左ノ如シ

應別	大		小	
	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高
臺北	二九、二二	二、八二八	一、二二一、三二五	九、二四八
臺中	一、八四一、六六五	一〇、七四四	四、七二九、五五六	二、四、一一一
臺南	二、八五九、七	二、四二七	六、九五、六九九	四、五三七
阿緞			三、六五〇	六八
總計	二、四一八、七四	一五、九九九	六、六六一、三三〇	三、八〇、九四
				平均一甲收穫高
				六六
				一、四、六三
				七、五七
				五、一〇
				六、五二
				一、八六
				五、六九

大正元年	一九七六・一〇	一一、八〇六	五九七	五、六四五・五五	三二、〇九一	五、六八
明治四十四年	一、三六六・五二	九、〇二〇	六六〇	五、四五五・六三	二六、九一一	四、九三
明治四十三年	一、三四七・三五	八、六四六	六四二	五、八二二・六六	二六、九九七	四、六四
明治四十二年	一、三九三・二八	六、六九八	四八一	五、九二二・一三	三〇、五三六	五、一六
明治四十一年	一、二七三・八六	六、六六一	六四八	六、七七八・五一	三四、五四八	五、一四

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺中廳報告 本期麥ノ栽培面積ハ千五百十二甲四分七厘ニシテ收穫高ハ一萬二千七十六石ナリ之ヲ前年ニ比較スルトキハ作付面積ニ於テ二百六十五甲九分七厘收穫ニ於テ九百四十九石ノ減少ニシテ約八分ノ減收ナリ

嘉義廳報告 大麥 廳下海岸地方一帶ノ地ニ栽培セラルル前年ニ比シテ作付面積五百八甲收穫ニ於テ四千三百一十一石ノ增收ヲ得タリ小麥ハ大麥ト共ニ土壤ノ「あるカリ」性ニ堪フル力大ナルヲ以テ海岸地方ニ於ケル主要作物タル所以ナリ最近之カ需用ハ漸次増進シ加フルニ天候概シテ順調ニシテ其作付及收穫共ニ増加シツ、アリ而シテ前年ニ比シテ作付面積一千百十甲收穫ニ於テ五千九百九十五石ノ増加ナリ

第四節 豆類

從來豆類ハ全部一括シテ統計ヲ徵セシカ本年ヨリ豆類中ノ主ナル大豆ヲ特ニ分類スルコト、セシカ其結果作付及收穫共ニ他ノ豆類即チ樹豆、豌豆、綠豆、米豆類ノ總計ト畧相匹敵ヲ見ル大體ニ於テ其作付ハ前年ト大差ナキモ本年ハ暴風雨ナカリシヲ以テ臺東ノ如キ一部地方ヲ除キテ一

般ニ豐收ヲ得タリ即チ左ノ如シ

應別	大豆				其他ノ豆類				暴風被害高	
	作付面積	收穫高	平均收穫高	作付面積	收穫高	平均收穫高	減收見込數量	減收見込價額	減收見込數量	減收見込價額
臺北	一、五六九・八二	七、一六〇	四、五六	一、八二二	一、六八一	九、二三				
宜蘭	四、九四〇	四、五九	九、二九	四、八二五	二、二四六	四、六六				
桃園	五、八六・四九	二、五五〇	四、三四	二、四八五	一、一三一	四、五五				
新竹	五、三二・三〇	三、一六九	五、九五	二、二一七	一、四六八	六、九二				
臺南	二、五二〇	八、九	三、五三	三、五五二	一、五一一	四、二五				
嘉義	五、五三八・五一	一、二五〇・八	二、二六	六、六七〇・五二	一、九八三・九	二、九八				
臺南	三、〇六一・五〇	一一、六二二	四、一一	三、二八五・三一	一一、三〇一	三、七四				
阿緞	六、四五〇・〇五	二、七四九・六	四、二六	二、八四二・一七	一、〇八三・〇	三、八一				
臺東	六、二二〇	五	八〇六	二、八六・五五	一、三六三	四、七六				
花蓮	四〇六・〇〇	二、七五九	六、八〇	八五・〇〇	四三〇	五、〇六				
總計	一八、五〇五・四一	七〇、八八五	一、三八三	一、六六一〇・六五	六六、五四〇	四、〇〇	一四、七四九	一七、一六五		
大正元年	三、四三二・七四九	一〇、一七五	一、〇一七	一、〇一七	二、九四	二、九四				
明治四十四年	三、三八四・六七	一一、七〇六	一、一七〇	一、一七〇	三、四八	三、四八				
明治四十三年	二、六七・八三五	一一、九八三	一、二九	一、二九	四、八六	四、八六				
明治四十二年	二、五、六四〇・四〇	一一、二七五	一、二二七	一、二二七	四、七四	四、七四				
明治四十一年	二、八、五二二・一一	一一、五五五	一、五五五	一、五五五	五、四六	五、四六				

第五節 粟及黍

播種時期ヨリ其發育、收穫ニ至ル間天候順ヲ得タル爲メ作付面積ハ増加セサルニ拘ラス收量ハ著シク増加シ粟作ハ一割三分強黍ハ一割八分強ノ增收ヲ呈シ全島ヲ通シテ前年ニ比シ甲當粟作ハ三割ノ增收ナリ即チ次ノ如シ

應別	粟		黍	
	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高
臺北	一八〇	二二	五・四〇	四三
新竹	二九一	三二	一一〇五	四五
臺東	九六〇九	六五五	七三一八〇	三九九九
臺中	三・三九一八	三二二・七二六	—	—
花蓮	一・〇一五〇	一三・七五五	—	—
澎湖	六八七七一	二・三一一	二・六九八七六	一〇・一七八
總計	四九三九一九	四八・五一〇	三・四四七〇一	一四・二六五
大正四年	五・一七九七八	三八・四五四	三・四五六六七	八・六九七
明治四十四年	四九・一三三五	四八・八〇四	三・七九九六七	一・六七五
明治四十二年	五・五五七二	五四・六六四	三・五九二一一	九・八五五
明治四十年	三・九七六三六	一〇・六四一	三・一四七二六	一四・三五二
明治四十一年	四・八一八一〇	四四・〇九三	二・〇四六九七	一一・五〇三

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺東廳報告 粟ハ蕃人ノ常食トスル作物中主位ヲ占メ從テ其耕作面積モ擴大ナリシカ近年來作及甘蔗作擴張ニ伴ヒ漸次作付面積ヲ減少セリ而シテ本年中ニ於ケル作物ハ播種當時ヨリ適當ノ降雨ヲ得其後何等ノ故障ナク近來稀ナル收穫ヲ得タリ

澎湖廳報告 黍、高粱、粟共ニ二月中旬ヨリ三月下旬頃迄ニ降雨潤澤ナリシテ以テ作付セシカ早キハ三月上旬晚キモ四月初旬ノ間ニ發芽シ其後ノ天候本作物ニ對シ頗ル適順ナリシテ以テ其ノ生育又甚タ佳瓦ナリシカ成熟期前後ニ至リ高粱ノ一部ニ

土蝗ノ幼蟲發生セシモ時已ニ運テ且作物ノ發育最モ旺盛ナリシテ以テ被害極メテ少ク漸次成熟期ニ入り粟及黍ハ六月中旬ヨリ收納ニ着手シ同月下旬之ヲ了リ高粱ハ六月下旬ヨリ七月上旬ノ間ニ於テ之ヲ收納セシカ高粱及黍ハ前年ニ比シ一割八分強平年ニ比シ一割六分強粟ハ前年ニ比シ一割三分強平年作ニ比シ一割四分強ノ增收ヲ見タリ

第六節 甘蔗

第一、蔗苗及肥料補助 糖業獎勵開始以來年々補助シ來レル蔗苗費及肥料費ノ本年作付ニ對シテ下付シタルモノ左ノ如シ

應別	一般耕作者		模範		甘蔗苗圃	
	補助同上蔗苗費	補助同上肥料費	補助同上金額	補助同上金額	補助同上蔗苗費	補助同上肥料費
臺北	—	—	—	—	—	—
宜蘭	—	—	—	—	—	—
桃園	—	—	—	—	—	—

第一編 農業 第五章 農産

總計	新臺		南臺		嘉南		阿東		花臺	
	竹	中	投	義	南	東	東	東	東	東
明治四十四年	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
大正元年	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
大正元年及四十四年	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
明治四十四年	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100

備考

- 本同上産園面積三五五甲アリ
- 此他明治四十四年ニ補助蔗苗數三、九二七、〇〇〇本同上産園面積二一八甲大正元年ニ補助蔗苗數六三二、七二二
- 一、大正元年年期中×印ナ冠セルモノハ四十四年度設置ニ係ルモノニシテ大正元年度ニ於テ補助支出シタルモノナリ
- 二、大正元年及四十四年横庭蔗園過燐酸石灰價額欄内△印ナ冠セルハ單ニ肥料補助トシタルモノニテ過燐酸石灰ノ
- 三、大正元年及四十四年横庭蔗園過燐酸石灰價額欄内△印ナ冠セルハ單ニ肥料補助トシタルモノニテ過燐酸石灰ノ

第二、前期ノ收穫 明治四十四年年末ヨリ挿植シ大正元年中生育シタルモノ、同年十一月ヨリ大正二年十月迄ニ收穫セラレタルモノハ生育中數回ノ暴風雨ニ遭遇シ著シク分蘗力ヲ減シタルノミナラス葉ハ絲狀ニ細裂シ蔗莖ハ折損セララル、等ノ爲メ其收量ヲ減シ暴風及豪雨前二十七億二千六百八十七

第一編 農業 第五章 農産

應名	收 穫 面 積		收 穫 高		一甲平均收 穫 高
	在來種	改良種	在來種	改良種	
臺北	1,967	1,333	724	391	29.6
宜蘭	1,416	531	359	106	20.2
桃園	956	1,053	992	992	22.3
新竹	2,180	926	1,892	582	18.7
臺中	767	1,109	1,892	1,892	18.7
嘉義	1,013	335	742	742	23.5
臺南	733	261	572	572	22.7
阿東	1,000	1,293	1,293	1,293	28.7
臺東	1,122	722	1,293	1,293	26.7
花蓮	1,025	264	1,293	1,293	22.8
總計	10,580	11,811	10,760	11,811	22.3

萬五千四百斤ヲ豫想セシカ實收ノ結果其被害高十一億九千六百三十五萬七千三百六十八斤ニシテ豫想高ニ比シ四割四分ノ減收ナリ即チ其ノ實收高十五億三千五百一十一萬八千三十二斤ニシテ甲當收量二萬二千七百三十斤實ニ未曾有ノ凶作ニシテ慘害目モ當テラレサルノ狀況ナリキ即チ次ノ如シ

第一編 農業 第五章 農産

計	明治四十四年	明治四十三年	明治四十二年	明治四十一年	明治四十年
計	二、五六三、四七	六四、七九四、二七	六七、三五七、六四	五、八一五、三二五	一、四七八、七〇七
明治四十四年	三、八〇一、三五	七、五二七、三八	七、五三二、八七三	一、五九七、八三三	〇、四三三、六二〇
明治四十三年	五、八九三、五八	八三、五五一、一八	八九、四四四、七六二	〇、五五五、七八二	五、一三六、九九四
明治四十二年	九、八一〇、三四	五三、六〇一、二五	六三、四一、五九三	一、五三三、四八二	二、八六一、七六一
明治四十一年	一、二二三、七四	二七、八二〇、七五	三九、〇三四、四九	一、〇八五、九一	一、八六五、〇六六
明治四十年	一、六八三、四〇	一七、〇二二、二八	二八、七〇四、六八四	〇、五三八、九八六	一、〇一八、三二一
計	二、七三三、〇	四一、九四四	五二、七一一	五、六、七九六	四、九、四三〇

第三、本期ノ栽培 米價ハ騰貴シ蔗作ハ引續キ暴風雨ノ被害アリ爲メニ蔗農者ハ多少危惧ノ念ヲ抱キ作付面積亦減少ヲ免レサリシカ之ニ反シテ製糖業者側ニ於テハ極力之カ作付ヲ獎勵シ且ツ蔗莖ノ買收價額ヲ引上ケタル等ノ爲メ前年ニ比シテ作付面積一萬一千甲ヲ増加シ生育中七月乃至九月ノ間ニ兩三回ノ豪雨及暴風アリ被害減收一億三千三百四十五萬一千六百六十二斤、此見積價額三十七萬一千六百七十五圓ヲ見込シモ一般ニ甘蔗ノ發育良好新竹廳中港、後墾地方ノ田地ニ插植シ相當ノ施肥手入ヲ爲セシモノハ甲當十七萬斤以上ノ收穫ヲ得其他甲當九萬斤乃至十四萬斤内外ノ收穫ヲ得タルモノ又少ナカラサルノ實況ニシテ且ツ製糖歩留モ優良ナリト稱セラレ同年六月見込收穫高三十六億二千六十五萬二千二十六斤ヨリ此ノ被害減收高ヲ差引三十四億八千七百二十萬三千六百六十四斤ノ蔗莖ヲ收穫スル見込ナリ

今參考トシテ大正二年ノ作付面積ト六月ニ於ケル見込收穫及暴風雨被害減收見込高ヲ表記セン

臺 北 宜 蘭 桃 園 新 竹 臺 中 南 投 嘉 義 臺 南 阿 緞 臺 東 花 蓮	作 付 面 積		見 込 收 穫 高		暴 風 雨 被 害 高	
	新 植 株 出 計	計	新 植 株 出 計	計	減 收 見 込 數 量	減 收 見 込 價 額
總 計	五九、三三三、七六	一、八四三、三六一	二、八二九、九四七、三三八	七、八〇七、〇四六、八八	一、三三四、五一一、六六二	五、七、六八五
大 正 元 年	四九、五七八、八八	一、九三三、四七二	一、九〇七、七五一、一七七	八、三三三、八五五、六四	一、〇、六六六、九二二	五、〇、五九七、三
明 治 四 十 四 年	五〇、九六〇、〇一	二、三三〇、四六一	三、〇七三、七〇〇、一八	一、三、一〇四、〇三三	一、〇、四〇四、六五五	五、〇、一八八、三
明 治 四 十 三 年	六六、九〇三、二八	三、三三三、七三二	四、〇九一、九一五、五九	一、三、一八八、二九一	一、三、〇、九三九、四四七	一、〇、一八八、三

主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告 逐年作付面積ノ膨脹ニ拘ラス收量非常ニ減退ヲ示セシハ前年暴風雨ノ被害ニ基因ス其作付面積ハ昨年ニ比シ約六

百甲増加セリ其大部分ハ水田ニ栽培スレ蓋シ製糖會社ノ保護的獎勵ノ結果ニ外ナラス又新店支廳下大坪林庄ニ於ケル水田栽培ニ係ル集團蔗園約四百甲ハ灌溉水等ノ關係上來期ハ約百甲内外ニ縮少スヘキモ他支廳下ニ於テ更ニ二百甲内外ノ新植ヲ見ルノ豫定ナレハ水田蔗作ハ依然現狀維持ノ狀態ニシテ四百甲内外チ下ラス本廳下ハ天惠ニ因リ概シテ優良ナル蔗苗ヲ産スルノミナラス其供給モ亦豊富ニシテ廳下ノ需要ヲ充シ尙他廳下ニ搬出シ得ルノ餘裕アリテ本年申ノ搬出量既ニ一千二百萬本ト稱ス來期ニハ倍額以上ノ供給ハ易々タル見込ナリ

甘蔗耕作ノ改良ハ督府ノ施設トシテ管下ニ九箇所十一甲ノ模範蔗園ヲ設置セラレ指導獎勵セラレツ、アリテ各相當ノ成績ヲ收メ平均一甲十萬斤内外ノ收量ヲ得ルコト難カラス且ツ臺北製糖會社自營ノ蔗園ニ於テモ右改良法ニヨリ耕作シツ、アルニ依リ一般蔗農ニ對シ之カ印象ヲ與ヘツ、アルヲ疑ハス

甘蔗苗圃トシテ水返脚支廳管内石碇堡内ニ三箇所十九甲九分ヲ選定シ健全ナル其蔗苗ヲ育成シ之ヲ原料採集區域内ニ配付シ甘蔗ノ改良增收ヲ圖リツ、アリ

宜蘭廳報告

製糖業ハ既ニ勃興ノ氣運熱スルモノアリト雖モ未タ以テ面目チ一新スルニ至ラス僅ニ改良糖廊二、舊式糖廊八ヲ維持スルノミ而モ本期ハ前年八、九月ノ候ニ於ケル大暴風雨ニヨリ蔗園ノ流失、荒廢セルモノ百餘甲ヲ算シ幸ニ殘存セル蔗園モ生育頗ル不其ニシテ一甲當僅々二萬餘斤ニ過キサル凶作ナリシカハ途ニ宜蘭改良糖廊第二工場及牛衝開闢式糖廊ノ如キハ事業ヲ中止スルノ非境ニ沈淪シ自餘ノ糖廊モ辛フシテ製糖ヲナシ得タルニ過キサリキ故ニ前年ニ比シ舊式糖廊三箇所ヲ増設シタルニ拘ラス製糖高四十六萬六千餘斤餘歩留リ六分五厘内外ノ悲慘ノ狀態ナリキ

廳下ハ甘蔗ノ生育佳良ニシテ畑作中最モ有利タルモノナルノミナラス農業經營狀態ヨリ推想セハ總畑地七千餘甲ノ五割餘ハ蔗園化シ得ヘシト信スルモノナリ獎勵其當ヲ得ハ近ク蔗園甲數一千甲蔗糖高四百萬斤内外ニ發展セントスル趨勢ニアリ

新竹廳報告

山地ニ於ケル甘蔗栽培ハ殆ント其極點ニ達シ面積増加ノ餘地ニ乏シキニ拘ラス二年期糖價ノ好況ニ伴ヒ三年期ニ於テハ面積二百餘畝番式糖廊數十箇所ノ増加ヲ示セリ

二年期原料甘蔗ハ植付ノ際蔗苗ノ劣惡ナルモノ多カリシト發育中數回暴風雨ノ襲來ニ遭遇セシ等不作ノ原因多カリシヲ以テ收穫成績甚々不其ナリキ平地蔗園ハ改良糖廊新式製糖場ノ作進漸次順調ニ進キ二年期ニ比シ一千餘甲ノ増加ヲ示セリ

當期ハ風水害ノ襲來ナカリシヲ以テ平地甘蔗ハ作況概シテ良好ニシテ中港後壠地方ノ田地ニ插植シ相當ノ施肥手入ヲ爲セシモノハ甲當十七萬斤以上ノ收穫ヲ得タルモノアリ其他甲當九萬斤乃至十四萬斤内外ノ收穫ヲ得タルモノ又少ナカラサル實況ナリ

臺中廳報告

作付面積ハ一萬一千六百三十餘甲ニシテ第一回調査ニ依ル收穫豫想高ハ五億一千五百七十四萬五千四百四十四斤ニシテ前年作ニ比シ三百五十甲ノ増加ニシテ收穫亦著シキ増加ノ見込ナリ蓋シ當業者カ漸次其耕作法ニ熟シ來レト一ハ天候ノ順調ナリシニ由ル

南投廳報告

大正二年期製糖期ニ於ケル作付面積ハ概シテ山地方面ニ擴張セラレ前年期ニ比シ三百八十八甲歩ヲ増加シタルモ前年風水害ノ結果蔗苗不其ナリシニヨリ收穫ニ於テ二千七百四十五萬八千八百八十一斤ヲ減セリ

嘉義廳報告

明治四十三年期ノ作付甲數三萬四千六百四十三甲之ニ對スル蔗莖收穫高十六億六千三百餘萬斤ヲ既往ニ於ケル最高トシ以後漸次減少ノ趨勢ヲ示シ加フルニ前二箇年稀有ノ暴風雨襲來シ其ノ被害ノ結果蔗苗ノ不足ヲ告ケ一面蔗作ニ對スル不安ノ念慮ヨリシテ他ノ作物ヲ歡迎シ一層減少ヲ來スニ至レリ大正二年期製糖ニ供セル原料ノ收穫面積ハ二萬六千二百十九甲製糖ニ供シタル蔗莖四億二千九百二十四萬五千四百三十三斤ニ過キス是レ主トシテ大正元年九月ノ暴風雨被害ニ因ルナルヘシ又大正元年末ヨリ本年春期迄ニ插植シタルモノハ其作付二萬六千二百四十四甲ナルカ稀有ノ暴風雨ノ後チ承ケ蔗苗

第一編 農業 第五章 農産

不足ノ結果之カ充分ナル選擇ノ餘地ナカリシト一部七月中ノ洪水ニ際シ浸水砂入等アリシ結果多少其ノ生育ヲ阻礙セラレシ所アリ見込最量十億八百五十五萬四千二百六十斤ナリ然レトモ一般ニ蔗莖率直ニシテ充實シ例年ニ比シ製糖歩留甚好ナリトハ各會社ヲ通シテ唱フル所ナリ

臺南廳報告

本年ノ作付面積一萬三千五百四十四甲一分一厘見込收穫高七億八千八百二十二萬五千七百八十七斤ヲ豫想セリ作付面積ハ前年ニ比シ六百四十甲ノ増植ヲ示セリト雖モ之ヲ前五箇年平均ニ比スレハ二千九百二十五甲餘ノ減作トナル是レ主トシテ米價高値ヲ持續セル結果蔗作ヲ廢シ陸稻及甘蔗作ニ轉セルモノ多キニ依リ而シテ本期甘蔗作ノ生育中七月中旬ノ豪雨ハ四分八厘減收ヲ見込マシメタルノ外各月ノ天候靜穩ニシテ概ネ順良ノ生育ヲ遂クタリ又一面寒蟲ニ對シテハ蠶蠶驅除ノ方法ヲ施行シタル爲メ效果著シク全廳下ヲ通シ略半年作ヲ豫想セリ然リト雖モ廳下各製糖場ノ製糖實能力約七千噸ノ所要面積二萬三千五百甲ニ對シ實ニ一萬甲ノ作付不足ナルヲ以テ各製糖會社共極力蔗園ノ増植ニ力ヲ注キツ、アリサレハ原料買收價額ノ如キモ昔ニ南部三廳長協定案タル一等三圓十錢、二等二圓八十錢、三等二圓六十錢ノ三等級限定各等十錢引上ケテ實行セルノミナラス各社共更ニ各等一千斤毎二十錢乃至二十錢ノ割増獎勵金ヲ附シ平均三圓見當ヲ以テ買收ヲ開始セリ如斯原料價額ヲ引上ケタル結果來期ニ於ケル蔗園面積ハ著シク増加スヘキ見込ナリトス

阿緬廳報告

本期植付甲數ハ蔗農者暴風ニ對スル恐怖心稍々薄ラキタルト蔗作獎勵法並ニ買收價額ノ値上ケトニ因リ前年ニ比シ一千九百九十九甲ノ増加ニシテ九千五百五十八甲ノ作付ヲ見タリ而シテ種植當時ハ氣候概ネ順調ナリシト雖モ前年ノ暴風雨ニ基因セル蔗苗不足ハ植付ニ支障ヲ與ヘ且ツ蔗苗不茂ナリシ爲メ生育上ニ多大ノ影響ヲ及ホシ加之ナラス本年ノ雨季早來シ麥雨頻繁ニシテ二箇月ニ亘ル浸水ハ生育ヲ阻害セシコト多大ニシテ九月下旬ニ至リ天候恢復ト共ニ生育狀態稍々良好ナルヲ得タリト雖モ尙半年作以下ノ作柄タルヲ免レサルヘシ而シテ蔗園工場區域ハ其以南ニ比シ澁分最量多大ナルヘシ

臺東廳報告

甘蔗耕作ハ著シク發達シ蔗人間ニ於テモ甘蔗栽培ノ有利ナルヲ知覺シ稍々完全ニ近キ耕作ヲ行フニ至レリ然レトモ本期ノ如キハ前年ノ二百八十四甲ヨリ急激ニ八百八十甲ニ耕作面積ヲ増加セシヲ以テ植付蔗苗ニ不足ヲ告ケ同時ニ作付時期甚シク遅レ蔗苗ノ如キハ花蓮港地方ヨリ取寄セタル結果多數ノ時日ヲ要シ爲メニ植付後ニ於ケル枯損ノ如キモ意外ニ多數ニ及ヒ其後適順ナル降雨及手入施肥ノ善及ト共ニ漸ク相當ノ發育ヲ遂ク一甲當リ四萬五千斤以上ヲ豫想セリ

花蓮港廳報告

前期ノ蔗作ハ元年九月ノ暴風被害ノ爲メ一時ハ半作以下ニ減スヘシト悲觀シタルモ意外ニ恢復シ二千七百一萬二千七百九斤ヲ收穫シタリ之ヲ半年收穫ニ比スレハ二割五分三厘ノ減收ナリ
本期ノ新植面積ハ八百六十四甲ニシテ之ニ株出面積ヲ加フレハ一千四百四十分八厘ニシテ前期ニ比シ四百四十分八厘ノ増加ナリ近年施肥ノ觀念著シク發達シタルニ由リ耕作ノ改良ト相俟テ順次甲當最量ノ増加ヲ見ルヘク本期ニ於テハ七千九百一十一萬五千九百四十三斤ノ收穫豫想ナリ

第七節 茶

第一、茶園肥料補助 明治四十二年度以降茶園施肥獎勵ノ目的ヲ以テ農會若クハ農民ニ大豆粕ヲ補助シツ、アリ其當初ニ於テハ之ヲ希望スルモノ尠ナカリシカ近年其效果ヲ感知シ希望者續出スルノミナラス往々自費購買ヲ爲シ之ヲ使用スルモノアルニ至レリ今累年ノ補助肥料數量ヲ記スレハ左ノ如シ

年度別	大正二年度	大正元年度	明治四十四年度	明治四十三年度	明治四十二年度
應別					

臺	桃	新	臺	南	計
北園	竹園	中園	投	投	計
一、三三〇 枚	一、二九五	六七五	四〇五	四〇五	五、一三〇
一、〇五二 百	一、七九三	五、二八〇	一、七六〇	二、六四〇	三、八二五
一、六〇〇 枚	三、二四〇	一、六〇〇	八〇	五〇〇	五、五八〇
一、九〇〇 枚	三、八八七	一、六〇〇	八〇	六〇	六、〇二七
一、八七〇 枚	二、五八〇	一、六〇〇	一、五二〇	八〇	六、三七〇
八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇

備考 表中ホチ冠セルモノハ農會ニシテ基ハ元基農會、苗ハ元苗農會ナリ

第二、粗製茶ノ生産 前年茶價ノ好氣配ナリシヲ以テ茶園内ノ枯損セルモノヲ補植スルノミナラス新ニ茶園トナルモノ前年ニ比シ約一千九百甲ヲ増加シタリ然レトモ春季氣温寒冷ナリシ爲メ發芽幾分遅延シ其後ノ天候順ヲ得タルモ前年暴風雨被害ノ後ヲ承ケタル等ノ爲メ比較的增收ヲ見サリキ大正二年ニ於ケル統計ヲ示セハ左ノ如シ

應	別	栽培面積	茶樹株數	粗製茶生産高	平均一甲生産高
臺	北園	一、二四六・六二	七五、一四三、三六一	六、五五八、三九七	五、八三
宜	蘭園	一九四・九二	一、七九七、二〇〇	二、〇、九一九	一、〇八二
桃	園	一九三・六三・四五	一、三〇八、四七三・六	一、一八三、七五八	六、一一

新	臺	南	嘉	阿	總
竹	中	投	義	緞	計
五、三〇七・三九	三、九〇九・六二	四、一九二・〇〇	一、〇七五	二、〇〇〇	三、六九四・三九五
三、八六五・七三三	一、九三七・三四〇	一、七二七・二〇〇	一、二六七・九〇	五、五〇〇	二、五〇一・六〇二・八〇
二、七四、九三七	六五七、〇六六	四、七四、四四八	二、六一九	—	二、二五二・六二四
五、一一三	一、六四四	一、一一三	二、四四	—	六〇九
三、三〇八・八七	二、四一、一三、一五〇	二、四一、一三、一五〇	二、四一、一三、一五〇	—	二、四一、一三、一五〇
三、三三、三八三・三五	二、四一、三、四八、二、三六	二、三九、五、三三、〇、三六	二、三九、五、三三、〇、三六	—	二、三九、五、三三、〇、三六
三、三三、五八二・二三	二、三九、五、三三、〇、三六	二、三九、五、三三、〇、三六	二、三九、五、三三、〇、三六	—	二、三九、五、三三、〇、三六
三、三三、六四四・一一	二、三九、五、三三、〇、三六	二、三九、五、三三、〇、三六	二、三九、五、三三、〇、三六	—	二、三九、五、三三、〇、三六
三、三三、六八三・三五	二、三九、五、三三、〇、三六	二、三九、五、三三、〇、三六	二、三九、五、三三、〇、三六	—	二、三九、五、三三、〇、三六

備考 此他阿緞廳ニ於テ粗製茶ヨリ直チニ再製茶トシテ生産セルモノ七八斤アリ
 第三、包種茶原料香花作物 臺北市附近ヲ主産地トナス包種茶製造原料ニ供スル黃枝、茉莉、秀英樹蘭等ノ此等香花作物ハ昨年來引續キ風水害ヲ被リ花園ノ損害セラレタルモノ多ク爲メニ市價著シク昇騰セシヲ以テ栽培者ハ收穫ニ注意セシ結果相當ノ生産ヲ擧ケタリ

種	別	作	採	價	額	平均
別	作	採	價	額	平均	平均
別	作	採	價	額	額	平均
甲數	斤數	額	額	額	額	斤價額

計	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
大正元年	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
明治四十四年	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
明治四十三年	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
明治四十二年	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一
明治四十一年	一九一七	一九一八	一九一九	一九二〇	一九二一

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北應報告

本年ハ天候順良ナリシ結果茶樹ノ生育佳良萌芽齊一ニシテ一般増收ヲ稱ヘ山方農況活氣ヲ呈セシモ收穫高ハ前年ニ比シ大差ナク平年作ノ率ニ歸セリ蓋シ前年ノ風水後樹勢未タ整ハサリシ際前年茶價ノ高氣配ヲ回想シ過度ノ摘葉ヲ爲シタル結果漸ク挽回シツ、アリシ樹勢ヲ損ヒタル結果ニ外ナラサルヘシ而シテ茶期ニ於ケル山方ノ取引ハ前年ニ比シ更ニ價額騰貴ノ傾向ヲ致シ山方農家經濟上活況ヲ見ルニ至レリ

農家カ施肥ニ對スル感想ハ概シテ良好ニシテ施肥圖ニアリテハ普通一割乃至二割ノ増收ヲ見ルニ至リ稀ニ三割内外ニ達スルモノアリ製茶上ノ技術ニ注意セハ品質、形狀、色澤、價額等ノ如キモ無施肥ニ比シ遜色ナキヲ得ヘシト云フモノアリ

今ヤ着々施肥ノ必要ヲ自覺シ往々自費購買ヲ爲シ之ヲ使用スルモノ不尠ニ至レリ

包種製茶用香花ハ收量多ク價額モ亦暴騰シタルカ爲メ栽培者ハ非常ノ收益ヲ得タルカ如ク茉莉花百斤七十圓以上秀英花ハ最高百七十圓以上ヲ稱ヘタルコトアリ

新竹應報告

春季ハ氣溫寒冷ナリシ爲メ發芽遲延セシモ降雨潤澤ナリシ爲メ相當ノ收穫ヲ得タリ夏茶以後ハ降雨少ナカリシモ氣溫順調ナリシヲ以テ平年以上ノ收穫ヲ得タリ

臺中應報告

前年ニ比シ植付面積二十七甲歩チ増加シ其ノ收量ニ於テ三割ノ増收ナリ

第八節 煙草

煙草ハ極メテ集約的農法ヲ要スル作物ナルカ耕作者ハ往々其栽培法ヲ周知セサル爲メ生産品不良ナルコトアリ故ニ之カ耕作面積ニ制限ヲ與ヘ以テ生産品ノ向上ヲ圖リツ、アリ其結果年々生産物佳良トナリ賠償價額亦昇騰セリ本年ノ葉煙草收納高ハ七十二萬五千三百三十八斤、賠償價額十一萬三千九百六十四錢ニシテ之ヲ前年ニ對比スレハ數量ニ於テ二萬二千二百斤ヲ減少シタルモ賠償價額ハ却テ七千八百九十圓五十三錢ヲ増加セリ是レ品質ヲ本位トシ 良品ノ産出ヲ鼓舞獎勵シタル結果收納等級ノ向上シタルニ基因スルモノナリ今地方別トシテ記スレハ即チ左ノ如シ

應別	作付面積	收穫高	賠償價額	平均一甲	平均一甲	平均一甲	平均百斤
				收納	高	賠償價額	賠償價額

年次	支那種		内地種		支那種		内地種	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
總計	三五・一七	七二五・三三八	一一三・〇九六	七四〇	二〇・六五	一五・五九二	三二・一九六	三二・一九六
大正元年	三八三・二六	七四八・五〇八	一〇五・一九〇	九一〇	一九・五二	一四・〇五五	二七・四三二	二七・四三二
明治四十四年	四〇・九五〇	八二六・四二二	九五・五八八	七四〇	二〇・三三	一一・五六四	二二・五〇〇	二二・五〇〇
明治四十三年	六三六・四〇	一、三〇四・九四九	一三六・八六四	八一〇	二〇・五一	一〇・四八八	二二・五〇六	二二・五〇六
明治四十二年	三七九・〇〇	六二九・二七九	七一・九七五	二九〇	一六・六〇	一一・四三八	一八九・九〇八	一八九・九〇八
明治四十一年	八二〇・八一	七〇〇・四三五	七三・八八〇	七四〇	八・五三	一〇・五四八	九〇・〇一〇	九〇・〇一〇
阿	緞	〇・五五	一・八二五	二七・七九一	三・〇〇七	一五・二二八	五〇・三六四	五〇・三六四
嘉	義	二七・二六一	五三九・九五〇	七五・八九六	八九〇	一九・八一	一四・〇五六	二七八・四一〇
南	投	三八・九五五	九五・四四九	一九・五三三	〇・八〇	二・四五	二〇・四六五	五〇・一五〇
臺	中	二五・二七	七〇・二九〇	一四・一〇九	四二〇	二・七八二	二〇・〇七三	五五・八四〇
新	竹	九・四八	一一・八一六	二・五二八	四四〇	一・三五	一九・七二九	二六・六六一
宜	蘭	四・四一	五・〇〇八	七・五〇〇	〇〇〇	一・三三	一四・九七六	一七〇・二〇〇

前記ノ内新竹應馬那邦、大坪林及單蘭庄ニ於テ内地種煙草ノ耕作ヲナスモノアリ今支那種及内地種ノ最近五箇年間ノ收穫高及賠償價額ヲ示セハ左ノ如シ

年次	支那種	内地種	支那種	内地種
	數量	價額	數量	價額

尙ホ參考トシテ大正二年度中臺灣ニ輸入シタル煙草ノ種類及數量價額ヲ記スレハ左ノ如シ

種別	數量	價額
明治四十二年	五六七・六六三	六・四六九
明治四十四年	一一〇八・九八	九六・七五二
明治四十四年	七九六・一四三	三〇・二七八
大正元年	七三三・一四二	一〇・三六六
大正二年	七二八・七九	六・五七七

種別	輸入		移入	
	數量	價額	數量	價額
葉煙草	二、八九五・一三二	八三・七八〇・九〇	二、八九五・一三二	八三・七八〇・九〇
	五三・一七五	二、六五三・八二二	五三・一七五	二、六五三・八二二
紙卷煙草	五、〇五〇	一、六五三・八二二	五、〇五〇	一、六五三・八二二
	五、〇六〇	八六七・一五四九	五、〇六〇	八六七・一五四九
計	二、五、九七三・〇〇〇	八四・九〇二・〇七二	二、五、九七三・〇〇〇	八四・九〇二・〇七二
	五、五七七・〇〇〇	六、四三三・五〇〇	五、五七七・〇〇〇	六、四三三・五〇〇
刻煙草	二、六五三・〇七〇	七二八・五六八一・〇〇〇	二、六五三・〇七〇	七二八・五六八一・〇〇〇
	二、六五三・〇七〇	七二八・五六八一・〇〇〇	二、六五三・〇七〇	七二八・五六八一・〇〇〇

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

宜蘭廳報告 浮州、四圍二堡ノ一部ニ於ケル細農者ノ金融ヲ助ケツ、アル煙草作ハ比年收益劣リ爲メニ彼等困難ノ度ヲ高ムル

第一編 農業 第五章 農產

モノナレハ之カ挽回策トシテ刻下ノ急務ナル金肥ノ施用ヲ獎勵スヘク農會ニ於テ金肥ノ補給ヲナシタルモ本年ハ之ヲ廢シ
單ニ肥料購買規程ニ依ル取扱ヲナサシメタルカ其收納價額七百五十圓ニシテ前年ニ比シ三百一十一圓五十五錢ノ減額ヲ來セ
ルモ之ハ耕作地積ノ減少ニ依ルモノニシテ品質稍々向上シ百斤當前年ノ十二圓十九錢ナルニ對シ本年ハ十六圓三十九錢ナ
リ而シテ本期煙草耕作獎勵規程ニ依リ獎勵金ノ交付アリタルハ八等賞一名ノミナリシ

臺中應報告 前年ニ比シ作付面積二十甲、收量五萬四千三百斤、賠償金額百三十四圓餘ヲ增加セリ斯クノ如ク甲當リ收穫高ノ増
加シタルハ當業者其耕作及調製方法ニ精熟シタルト氣候ノ順調ナリシニ因ルモノニシテ作付總面積ノ減少シタルハ耕作ニ
好適セサル地方ノ栽培減少シタルニ因ルモノナリ

南投應報告 前年ニ比スルニ作付ニ於テ十四甲七分一厘收量ニ於テ二萬四千五百五十五斤ヲ增加セリ而シテ本年ニ於ケル賠償金
額八一萬九千五百三十四圓ニシテ前年ニ比シ實ニ六千九百四十七圓三十六錢ノ增收ヲ呈セリ是レ產額增加ニ依ルト雖モ其
品質良好ニ赴キタル證ニシテ專賣局ノ指導宜シキヲ得タル結果トス

嘉義應報告 全島產額ノ約七割強ヲ占ムル廳下葉煙草ハ其品質未タ良好ナラサルノ故ヲ以テ專賣局ハ之カ耕作面積ニ制限ヲ附
シ一面支那人指導者ヲ配置シ種子ノ無償配付ヲナシ専ラ之カ品質ノ向上ニ勉メラル、結果近年良好ナル成績ヲ擧ケツ、ア
リ將來有望ナル作物ノ一トス而シテ本年ノ賠償價額ハ前年ニ比シ百斤ニ付九十七錢八厘ノ高價ナリ

第九節 落花生、胡麻及菜種

製油原料ニ供シ得ヘキ此等農作物ハ過去數年間暴風雨ノ爲メ著シク其發育ヲ害セラレシカハ一般
ニ作付ヲ控ヘタル地方アリシモ輪栽關係其他ノ爲メ農業上必要ナルカ故ニ前年ニ比シ一千一百甲ヲ

増加シ收量亦五萬石ヲ加ヘ胡麻ハ約二千甲ヲ減セシニ豐收ノ爲メ六十石ノ增收菜種ハ五千甲ヲ増加
シ二千石ノ增收ヲ得タリ蓋シ天候ノ關係上何レノ地方モ豐收ニシテ嘉義ノ落花生ノ如キ前年ノ二倍
ノ增收ヲ見タリ即チ左ノ如シ

縣別	落花生			胡麻			菜種		
	作付面積	收穫高	平均收穫高	作付面積	收穫高	平均收穫高	作付面積	收穫高	平均收穫高
臺北	五、六、五、〇	一、七、一、五	一、〇、五、〇	一、四、〇、一	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
宜蘭	七、八、五、八	一、五、五、一	一、〇、五、〇	一、三、八、八	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
桃園	二、一、一、三	一、五、〇、〇	一、〇、五、〇	一、一、八、一	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
新竹	一、一、四、五、九	一、四、九、七	一、〇、五、〇	一、一、八、一〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
臺中	三、〇、五、八、三	一、四、〇、〇	一、〇、五、〇	一、一、〇、三	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
南投	三、七、六、八〇	一、四、八、九	一、〇、五、〇	一、一、八、五	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
嘉義	五、二、八、六、五	一、四、八、二	一、〇、五、〇	一、一、五、三	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
臺南	二、三、一、三、二	一、六、六、三	一、〇、五、〇	一、一、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
阿緞	八、八、四、三、六	一、七、四、三	一、〇、五、〇	一、一、一、六〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
臺東	一、八、一、六、四	一、二、八、五	一、〇、五、〇	一、一、五、三	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
花蓮	二、五、〇、〇〇	一、六、七、七	一、〇、五、〇	一、一、〇、〇〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
澎湖	二、九、九、六、三	一、〇、〇、〇	一、〇、五、〇	—	—	—	—	—	—
總計	一、九、四、一、四、四、九	一、二、九、九、四、四	一、一、三、三、三	一、〇、九、五、一、三、三	一、五、〇、〇、〇	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
大正元年	一、八、五、七、三、四、四	一、六、三、七、六、四	一、〇、八、一、一	一、一、九、八、一、三、三	一、四、四、八、九	一、〇、五、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、五、〇
明治四十四年	一、八、七、一、一、九、三	一、七、一、九、九、八	一、〇、〇、〇	一、一、五、〇、〇、一、三	一、四、七、四、七	一、〇、〇、〇	一、三、五、〇	一、五、一、〇	一、〇、〇、〇

第一編 農業 第五章 農產

明治四十三年	一九七〇・一四	一〇九・五八	一〇〇〇	九四七・七五	一〇〇〇斤	五〇〇	八三三・四七	一、一六六	二、〇〇〇
明治四十二年	一一〇・一・一四	一一三・一一一	一、七〇〇	一、一六九・〇八	五、二五〇斤	五〇〇	五、六七一	一、一六六	一、〇〇〇
明治四十一年	一一七・八・二二	五七・五・一三	一一、〇〇〇	一、一六六・〇七	五、八五〇斤	五〇〇	一、一六六・〇〇	一一、二七九	二、〇〇〇

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北應報告 落花生 輪作關係及荒地ノ開拓等ニ依リ面積増加スト雖モ前年ト大差ナシ而シテ其生育ハ暴風雨ノ災害ナク充分ノ生育ヲ遂ケタル結果昨年ニ比シ殆ント倍量ノ收穫ヲ擧ケタリ

宜蘭應報告 落花生 濁水溪ノ支流ニ沿ヘル兩岸ノ畑地ハ輕鬆ナル細砂土地ニシテ能ク本作ノ栽培ニ適ス本年ハ前年ニ比シ百四十甲ノ作付減少ナリト雖モ收量ニ於テハ却テ一、二二九石ノ増收ヲ見ルニ至リタリ作付面積ノ減シタルハ前年水害ノ爲メ流失セシ耕地アリシニ依ルモノニシテ收量ノ増加ハ前年ノ出水ノ爲メ却テ耕地ノ肥沃トナリタルト作柄ノ良好ナリシニ因ル而シテ作柄ニ於テ前年ニ勝ル一割九分内外ナリ

新竹應報告 落花生 本期ハ前期ノ如ク暴風雨ノ被害ナカリシモ高燥ノ地ニ植付タルモノハ多少ノ旱害ヲ被リタリ

臺中應報告 落花生 前年ニ比シ作付面積四百九十五甲二厘收穫高一萬六千八百七十七石ノ増加ニシテ五割二分ノ増收ナリ

南投應報告 落花生 近時製油原料トシテ落花生ノ需要多キ爲メ前年ニ比シ作付五十六甲七分ヲ擴張シ其收量五百九十石ヲ増加セリ

嘉義應報告 落花生 最近數年來兎角作柄植付共不長ナリシカ本年ハ僅ニ一回ノ洪水ニ一部ノ浸水セシ外概シテ天候順調ナリシヲ以テ作付ノ増加ト作柄ノ良好ト相俟テ前年ノ收量ニ比シ二倍以上ニ達シタリ

胡麻 前年ニ比シ一千四百三十八甲ヲ減シタルモ其收量ハ四千七百四石ノ増收ナリ是レ前年及前々年ニ於テ著シキ減收ヲ見タレハ自然作付ヲ控ヘタルニヨルヘキモ作柄ハ全ク天候順調ナリシ結果豐收ナリキ

阿緬應報告 落花生 前年ニ比シ作付ニ於テ百三十三甲五分收量ニ於テ二千六百八石ヲ増加シタリ是レ豆類ト均シク暴風雨ノ被害ナカリシニ由ル

臺東應報告 胡麻 胡麻ハ舊人耕作物中移出品ノ主ナルモノニシテ耕作比較的容易ナルト短期日ニ於テ收穫シ得ルヲ以テ農民一般ニ之ヲ耕作シ來リシモ近時糖業ノ發展ニ伴ヒ漸次其作付ヲ減少セリ而シテ本年中ニ於ケル作柄ハ播種後適當ノ生育ヲ遂ケツ、アリシカ二百十日前後ニ於ケル暴風雨ニ多少ノ被害ヲ受ケ平年以下ノ收穫ヲ示セリ

第十節 木藍及山藍

人造染料ノ發達ニ伴ヒ著シク衰退シ其作付面積ヲ五年前ニ比スルトキハ木藍ハ五割、山藍ハ約一割五分ニ過キス從テ製藍高又減少シツ、アリ即チ左表ノ如シ

應別	栽培面積			泥藍製造高			平均一甲泥藍製造高	
	木藍	山藍	計	木藍	山藍	計	木藍	山藍
臺北	三三、三〇〇	一八、二二五	五一、五二五	七、五二〇	八、三五〇	一六、八七〇	三、五二〇	四、二二五
宜蘭	—	—	—	—	—	—	—	—

計	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃		阿 臺 嘉 南 臺 新 桃		阿 臺 嘉 南 臺 新 桃		阿 臺 嘉 南 臺 新 桃	
	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃	阿 臺 嘉 南 臺 新 桃
大正元年	一六〇〇・二二	一八二五	一六、一八、四六	二、六六、七、九八五	八五、四九〇	二、七五三、四七五	一、六一五	四、二二七
明治四十四年	二、三九一・〇七	二、八〇七	二、四一九、二四	二、九七二、三三三	一、五八、一〇二	三、二九、四七五	一、二四四	五、六二二
明治四十二年	二、六二四・八八	三、六四一	二、六六、二九	三、八二〇、三八一	三、二九、四七五	一、二四四	一、四三三	一、五九三
明治四十二年	二、七二六・五七	四、五七六	二、七二、三三三	四、四一六、五〇一	四、四一六、五〇一	一、一六五、三一一	一、〇八〇	一、〇八〇
明治四十一年	三、一七四・七四	一、三二四・八〇	三、三〇九・五四	三、九〇二、八六六	三、九〇二、八六六	一、一七九	一、一七九	一、一七九

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

嘉義廳報告

木藍 本年作付三百九甲ニシテ前年ノ四百甲ニ比シ九十一甲ヲ減シ生葉ノ收量九十七萬三千八百八十二斤ニシテ前年ノ六十一萬二千四百二十五斤ニ比シ三十六萬七百五十七斤ノ增收ナリ

第十一節 苧麻及黃麻

第一、苧麻 地方ニヨリテハ前年ノ風水害ノ爲メ苧麻園ノ荒廢シタルモノアリ此等ノ爲メ作付總面積ニ於テ四十四甲ノ減少ヲ來セリ然ルニ本期發育中ハ頭水時期ニ於テ氣候不順ナリシ地方アリシモ風水害ナカリシヲ以テ甲當八百三十二斤前年ニ比シ約十斤ノ增收ヲ得シモ總産額ニ於テハ作付ノ關係上寧ロ前年ニ比シ一萬餘斤ノ減收ナリ

第二、黃麻 臺灣製麻株式會社ノ獎勵ハ本作物作付増加ノ主因ニシテ本年ハ前年ニ比シ實ニ三百餘甲ノ作付ヲ増加シ甲當收量又前年ニ比シ百二十一斤ノ増加ナルハ總收穫高ニ於テハ四百六十二萬一千五百三十八斤未曾有ニ屬ス

廳 別	苧 麻		黃 麻	
	作付面積	收穫高	作付面積	收穫高
臺 北	一、三三五	二、六一〇	九三、八〇	二、〇二二、一九
宜 蘭	二、一五五	二、三三三、九一七	一一〇、三三	四、三五、一〇六
桃 園	一、四六三	一、〇、五七九	五九、五八	五八、三〇六
新 竹	九四、一八四	五八五、七三三	一七五、二二	一、〇二、四〇二
中 央	—	—	五八、三三二	一、八八八、九九八
平均一甲	—	—	—	—
平均一甲	—	—	—	—

南投	嘉義	臺南	阿緞	臺東	花蓮	總計
九六・九七	四一・三七	一八七・七九	一七八・九五	二一・九三	五・四〇	一七〇五・七六
一五四・二六〇	一三三・六九五	一三〇・九〇八	二四八・七四一	一五・六〇五	二二・八〇〇	一、四一八、八四五
一五九・一	三四・一	六九七	一、三九〇	七・二	四四〇・七	八三二
一六八・二二	八三三・六七	二〇二・三六	二、〇一〇	二、〇三	三五・四〇	二、五七四・〇二
三二五・三二二	一、〇一一・三八九	二四二・三三三	二九〇・四八四	一、一〇七・〇	五三・一四〇	四、六二一・五三八
一、九三四	一、三三〇	一、一九七	一、三七七	五九五	一、五〇一	一、八四三
一、七四一・八三	一、七三〇・一一	一、六七二・七七	二、一七二・六九	一、九五四・〇七	一、四一八・八四五	一、四三三・五三五
一、七三〇・一一	一、三二四・〇〇八	一、二六九・二二七	一、九六七・〇八九	一、九五二・九七二	八二二	二、二八七・三六
一、六七二・七七	一、二六九・二二七	一、二六九・二二七	一、九六七・〇八九	一、九五二・九七二	九九九	二、一七二・三三
二、一七二・六九	一、九六七・〇八九	一、九六七・〇八九	二、〇六三・五四	二、一三九・五七	二、一三九・五七	三、五〇二・三三二
一、九五四・〇七	一、九五二・九七二	九九九	二、一三九・五七	二、一三九・五七	三、一七二・八四九	四、〇三六・〇一五

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告 纖維作物ハ水害ヲ受ケサリシ結果生育頗ル佳良收穫量頓ニ増加セリ

宜蘭廳報告 苧麻 近時價額ノ稍昇騰セシカ爲メ漸ク作付増加ノ氣勢アリシカ前年ノ水害ヲ被リ爲メニ前年ニ比シ八甲ノ作付

ヲ減セシモ收量ニ於テハ却テ八千二百斤ノ增收ヲ見タリ是レ暴風ノ被害ナカリシト作況ノ良好ナリシニ由ル

黃麻 逐年作付増加ノ傾向アリ前年ニ比シ作付面積ニ於テ四十六甲收量十二萬六千九百四十三斤ノ増加ヲ示セリ收量ノ増

加ハ作付ノ増加ニ伴フモノアリト雖モ亦作柄ニ於テ前年ニ勝レルヲ見ル即チ前年甲當一千六百七十四斤ナルニ本年ハ二千七十二斤ニシテ一割四分内外ノ增收平年作ヨリ一割ノ增收ナリ

新竹廳報告 苧麻 頭水生育中ハ降雨潤澤ナリシモ氣溫稍々低カリシ爲メ收穫豐ナラスニ水以後又降雨僅少ノ爲メ良好ノ生育

ヲ爲シ能ハサリシト雖モ氣溫適順ナリシヲ以テ前年ニ比シ一甲平均二割ノ增收ナリ

臺中廳報告 黃麻 自家用トシテ栽培セラレツ、アリシカ前年來臺灣製麻株式會社ニ於テ斯作ノ獎勵ニ努メタル結果漸次作付

面積ヲ増加シ本期ニ於テハ五百八十四甲三分二厘其收量八十四萬一千九百二十五斤ニ達シ前年ニ比シ作付七十七甲二分五

厘收量高四十六萬餘斤ノ増加ナリ

南投廳報告 苧麻 前年ニ比シ作付五甲五分六厘減シタルモ風水害ナカリシ爲メ收量ニ於テハ却テ千七百五十六斤ノ増加ナ

リ 黃麻 前年ニ比シ作付五十一甲九分收量ニ於テ二萬八千三百三十七斤ヲ増加セリ是レ臺中廳下葫蘆墩街臺灣製麻株式會社ノ

獎勵ニ依ルモノトス然レトモ其作柄ニ就テハ本年製麻會社ハ斯作改良ノ目的ヲ以テ印度種子ヲ輸入シ之ヲ管内ニ於テ播種

シタルモノハ在來種ニ比シ收穫僅少ニシテ自然一甲當平均收穫前年ノ二千五百六十二斤ニ比シ本期千九百四十二斤ヲ獲タ

ルカ如キ減收ヲ呈セリト雖モ之ヲ栽培法ハ將來改良ノ急務ナルヲ認ム

嘉義廳報告 黃麻 最近數年間其作付及收量トモ甚シキ増減ナカリシカ本年ニ於ケル作付ハ前年ニ比シ二百四十五甲收量三十

四萬五千二百三十八斤ノ增收ナリ是レ一ツニハ臺灣製麻株式會社ノ獎勵ト價額ノ騰貴ニ因リ其作付増加セシモノナルヘシ

阿緞廳報告 苧麻 前年ニ比シ作付七甲三分三厘減シタルニ拘ラス收量ニ於テ八千三百三十斤ヲ増加セリ是レ暴風雨ナカリ

シニ由ル

黄麻 前年ニ比シ作付十四甲七分四厘ヲ減シタリシカ五月以來大降雨ノ爲メ著シク生育ヲ阻害セラレ爲メニ收量ニ於テ十二萬二千七百四十五斤ヲ減シタリ

第十二節 蘭草及鳳梨纖維

蘭草 中新竹廳苑裡附近ヲ以テ産地トナス大甲蘭ハ古昔自生セル野草ヨリ栽培作物トナリシモノニシテ其纖維韌強ナルカ故ニ以テ蓆ヲ編ミ又帽子製造ノ原料トナシ七島蘭ハ全島各地ニ野生多キカ其栽培ハ臺北廳北投、臺中廳大庄ヲ主産地トシ臺南廳ノ海岸ニアリテハ養魚地ノ一部ヲ以テ之カ栽培ニ供ス此纖維ハ織蓆ノ原料ニ供ス鳳梨纖維ハ年々減少ノ傾アリ即チ左表ノ如シ

應別	蘭		鳳梨		纖維	
	作付面積	收穫高	平均收穫高	作付面積	收穫高	平均收穫高
臺北	五三・二四	四五八・三二五	八六〇・九			
宜蘭	一〇六・五	六一・五〇〇	四・九六			
桃園	一一・〇〇	四・一一〇〇〇	一・〇〇〇			
新竹	二〇・六五	七・七〇〇〇	三・五一一			
臺中	九九・一八	六五三・七五〇	六五九・二	一八〇・二	三〇・七五	一七・二
南投	〇・一七	六・八〇	四・〇〇〇	二八・〇〇	二・五二〇	九・〇
嘉義	一・五九〇	三・六〇〇	三・〇六一			
臺南	二五〇・三四	三・七九・九二〇	一・五二〇	八六・六〇	七・四〇	八・二

第十三節 柑 橘

明治三十六年本島柑橘類ノ栽培獎勵ヲ開始シ當初現金補助ヲナセシカ明治四十四年度ヨリ全然現金補助ヲ廢止シ園藝試驗場ニ養成シタル苗木補助ニ改メ本年ノ配付數ハ約六萬五千本ナリ總督府ニ於テ獎勵ノ方針ヲ確立シタルニヨリ各廳農會ニ於テモ大ニ力ヲ添ヘ就中新竹廳ノ如キハ大ニ見ルヘキモノアリ從テ其ノ發展ノ跡顯著ナリ今獎勵開始以來ノ累年表ヲ掲ケ參考ニ供セン

總計	大正元年	明治四十四年	明治四十二年	明治四十一年
四七・一三	三四〇・一五	四〇九・九〇	五五三・四五	四二二・六二
一・七〇三・三〇七	一・五九〇・一七〇	一・八〇一・九〇三	一・一八・七〇〇	九二四・四五〇
三・六一五	四・六七五	四・三九六	二・〇三九	二・一八七
一・三三・六二	二・八〇・六〇	六九〇・二〇	六一四・七四	六九三・一八
一・二七三五	二五・一六二	四六四・六〇	四三・八五一	九八七・四七
九・六	九・〇	六・七	七・一	一四・二

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

南投廳報告 蘭草、纖維採取用鳳梨及蘭草ノ作付ハ僅カニ一分七厘ニシテ其ノ收量六百八十斤ニ過キス纖維採取用鳳梨ノ作付ハ

二十八甲餘ニシテ其收量二千五百二十斤ヲ獲タリ是レ孰レモ前年ニ大差ナシ

年次	栽培面積	收穫高	生産價額	補助金額	補助苗木數
明治三十六年	二三八	一、八七六、〇一五	八、一三八六	二、七五四、八七六	
明治三十七年	三二七	二、〇二五、九六五	八五、三〇〇	五、二九八、七六六	
明治三十八年	三八三	二、二八三、七六六	一〇四、一七八	一〇、八五九、七九六	
明治三十九年	四四六	三、四四〇、九三六	一七、八三一	一七、一〇四、四七一	
明治四十年	四二四	四、一〇三、三三三	一七三、三五七	二二、五二一、七一一	
明治四十一年	七三九	四、一九五、五二五	一七二、〇九九	二八、〇〇五、九一一	
明治四十二年	七五二	四、七二五、三四二	一八六、七四九	三三、五九九、五一一	
明治四十三年	八六一	六、二八八、九六八	三二〇、三八五	三九、二四五、一一一	
明治四十四年	九三八	六、二八七、八八四	三五二、七八七		
大正元年	一、〇五二	四、一五九、二八三	二八一、〇〇六		
大正二年	一、〇七九	六、三三二、〇〇七	四一七、三六七		

大正二年度中園藝試驗場ニテ養成シタル柑橘苗木各廳へ配付セシ數ヲ記スレハ左ノ如シ

廳別	種柑	雪柑	桶柑	ネーデル	トシアレ	夏橙	温州	文旦	斗柚	計
臺北	1,100	3,000	1,100	1,100	3,000					4,200
宜蘭	400	1,100	400	1,100	1,100					3,000
桃園	1,100	3,000	1,100	1,100	3,000					4,200

年次	總計	新竹	臺中	南投	嘉義	臺南	阿緞	臺東	花蓮	澎湖
大正元年	11,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
明治四十四年度	11,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
明治四十三年度	11,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
明治四十二年度	11,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000

備考 明治四十四年度ニハ以上ノ外檳榔五十本ヲ配付セリ

從來地下水高キ臺北廳和尙州、臺中廳員林ノ如キハ本島ノ柑橘類産地ナリシモ此等ノ地方ハ樹齡短ク病蟲害ニ罹リ易ク且ツ他ノ農作物ノ栽培盛ナルニ從ヒ漸次傾斜地ノ利用トシテ丘陵山腹ニ柑橘園ノ開設セラル、モノヲ増加シ新竹、桃園ノ山手ノ波狀地一帯ハ之カ主産ト化シツ、アリ而シテ大正二年中ハ暴風ナカリシ爲メ一般ニ豊作ニシテ前年ニ比シ二百餘萬斤ノ增收ナリ

總計	應別							計
	澎湖	花蓮	臺東	阿緞	臺南	嘉義	南投	
總計	七七四	五三五・二	二二一・四	五八・二	一一五・二	八一・三	二〇七九・九	一九七・五
大正元年	一四八・二	四九八・六	一八四・〇	六三七	八七一	七〇・一	一〇五一七	五八・六
明治四十四年	一五七・一	四一七・五	一七九・一	五三三・五	八六・四	四四・二	九三八〇	五八・六
明治四十三年	一六八・八	三六五・三	一七〇・二	四四・三	八三・六	三〇・〇	八六二二	五八・六
明治四十二年	一八一・一	二六四・七	一五〇・二	二五・五	一〇二・二	二九・二	七五二八	五八・六

テ其面積ヲ推算スレハ左ノ如シ

總計	應別							計
	澎湖	花蓮	臺東	阿緞	臺南	嘉義	南投	
總計	八六八・八	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇
大正元年	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇
明治四十四年	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇
明治四十三年	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇
明治四十二年	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇	一〇六・〇

今一甲ノ栽培樹數ヲ雪柑、椪柑、桶柑及雜柑(其他)ヲ五百本、文旦及斗柚ヲ二百三十九本宛トシ

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告

果樹類中重要ナルハ柑橘類及苧蕉ニシテ柑橘八年々百萬斤價額四、五萬圓ノ生産アリ然ルニ栽培甲數ハ平地ニ於テ年々減少ノ傾向ヲ呈シ山地傾斜地方面ニ増加ノ趨勢アリ斯クノ如ク平地栽培ノ減退ハ主トシテ地價ノ關係及樹勢比較的不良ニシテ盛夏期ニ於テ枯死スルモノ或ハ收支償ハサルカ故ナルカ如シ而シテ柑橘類ノ苗木ハ從來主トシテ供給ヲ對岸漳洲方面ニ仰キシモ近來督府及廳農會等ニ於テ盛ニ苗木ヲ養成シ無償下付セラル、モノ多數ナル爲メ漸次輸入數ヲ減少シ本年度ノ如キハ例年ノ十分ノ一内外ノ輸入アリシニ過キス

苧蕉ハ先年風水害ノ爲メ一頓挫ヲ來セシモ昨年末來漸次栽培者ヲ増加セシニ依リ七十萬斤内外ノ增收ヲ見タリ隨テ廳下ヨリ島外ヘノ搬出數量ハ益増加シ毎月ノ平均取扱高ハ五、六萬斤以上ニ達シ居レリ

宜蘭廳報告

廳下山脚部ニ沿ヘル畑地ノ一帶ハ砂礫土ニシテ畑作物トシテハ甘藷豆類ヲ栽培スルト雖モ年ニ依リ旱害ヲ受ケ枯損スルコトアルノミナラス時ニ山脈出沒シ其被害少ナカラサルヲ以テ之ニ代フルニ果樹類ヲ以テスルノ趨勢ヲ示シ柑橘栽培結實本數ノ如キハ前年ニ比シ二、六四九本約一割強ノ増加ヲナシ新植ノ如キモ年々五千有餘本ノ増殖ナリ而シテ作柄ハ前年ニ勝レリ

新竹廳報告

本年ハ一般ニ結果數多カリシモ熟期ニ近ツキ降雨不足ノ爲メ平年ニ比シ顆粒概シテ小ニシテ外形優良ナラサルモ收穫量ハ三割内外ノ增收ナリ
柑橘栽培 柑橘ハ從來ノ方針ニ從ヒ病虫害驅除ノ實施ト共ニ農會ヲ指導シテ栽培獎勵ニ努メシ結果逐年樹數産額ヲ増加シ品質亦改善セラレ新竹蜜柑ノ聲價廣ク需用者間ニ知ラレ從テ管外移出額年々増加ノ一方ニシテ今ヤ廳下重要産物タルノミ

ナラス本島ニ於ケル重要産物トシテノ地位ヲ占ムルニ至レリ

從來農會ニ於テ配付セシ柑橘ハ一年生ナリシテ當期ヨリ之レニ二年生ニ變更シタル結果本春ハ全ク苗ノ配布ヲ爲サ、リシモ各自養成ノ柑橘及購入苗木ニヨリ栽培面積約七十甲増加セシヲ以テ既成園五百八十甲餘ヲ合スレハ六百五十甲餘ニシテ明治三十六年末現在ノ栽培面積三十一甲ニ比スレハ二十一倍トナレリ本業ニ對シ著シク獎勵ノ歩ヲ進メタルハ明治四十四年以降ニ屬シ爾後年々ノ新植數平均五萬本内外ナリ而シテ四十四年植ノモノハ大正四年ニ於テ移植五年目ニ當ルヲ以テ同年ヨリ産額ハ劇増ノ見込ナリ

四十三年以降ニ於ケル植付狀況ヲ示セハ左ノ如シ

年 別	未 結 實 樹		結 實 樹	合 計	摘 要
	古 木	新 植			
明治四十四年	七五、四九	三六、七〇	一一、九一	六二、七〇	新植ハ活著數ヲ擧ゲタルモノニシテ實際植付數ハ之ヨリ超過セリ
大正元年	一一、二八	四八、五九	一五、九七	六三、三二	
大正二年	一三、九八	四三、二八	一八、三二	六三、三二	

臺中廳報告

柑橘 柑橘類中最モ盛ニ栽培セラルルモノハ種柑ニシテ近年内地ニ移出セラル、モノ増加スルノ狀況ヲ呈セリ而シテ其栽培地ハ從來員林及北斗地方ナリシカ近時葫蘆墩、東勢角地方ニモ栽培セラル、ニ至レリ而シテ本期末ニ於ケル現在結實樹數ハ十五萬二千九百十七本、收穫高二百六萬九千九百三十三斤ニシテ之ヲ前年末現在ニ比較スルトキハ樹數ニ於テ百二十萬七千七百六十四斤ノ増加ニテ近年稀ナル豐作ナリキ

南投廳報告

前年ニ比シ樹數四千五百四十八本ヲ減シタルモ收穫ニ於テハ三十五萬九千八百八十八斤ノ增收ヲ呈セリ是レ樹數ノ減

第一編 農業 第五章 農産

少ハ病虫害ノ爲メ枯死セルモノト收穫ノ増加ハ風水害ノ鮮ナカリシニ基因ス

嘉義廳報告 柑橘類 樹數二萬六千九百九十七本、其産額三十一萬七千四百四十二斤ナリ前年産額十九萬六千八百七十四斤ニ比シ

非常ノ差ヲ呈セシハ前二箇年受ケタル被害ノ大ナリシヲ思ハシムルト同時ニ本廳及農會ニ於テ施設經營中ノ獎勵法又以テ實現サレツ、アルヲ知ルニ足ル

阿緬廳報告 前年ニ比シ結果樹數四百八十一本増加シタルノミナラス暴風ノ被害ナカリシ爲メ收穫高六萬三千五百三十二斤ヲ増加シタリ

第十四節 龍眼

數年來引續ケル暴風雨ハ著シク本年ノ結果ニ影響シ一面燃料トシテ伐採セラレ、モノ比年増加シ來ル爲メ稀ニ見ル減收ヲ呈セリ即チ前年ニ比シ樹數約六萬ヲ減少シ收量又三分ノ一ニ達セサルノ状態ナリ即チ左ノ如シ

應別	栽培樹數	栽培見積面積	收穫高
臺北	七、四九九	三、一〇二	七、四九五
宜蘭	二、三六八	九、九	四、九九二
桃園	二、四一一	一、〇一一	四、八〇〇
新竹	九、三三八	三、九〇〇	一、九七五
臺中	七、二八一	三、〇四七	一、五四四

第一編 農業 第五章 農産

果實ハ生食用ノ他之ヲ加工シテ年々支那へ輸出スルモノ二十萬圓ニ達スルモノナレトモ前記凶作ノ結果輸出額又近年ニ見サルノ減少ナリ

年次	收穫高	同上價額	島外輸出價額
大正元年	五二、〇〇〇	二、七五七	二、三五三
明治四十四年	五七、六四九	二、三九一	二、六三三
明治四十三年	六六、〇九六	二、七六八	三、九六六
明治四十二年	六四、七五一	二、七〇七	二、六二一
總計	四、五八二	一、九一七	七、五五一
南投	二、四三三	一、〇一九	六、七三三
嘉義	一、七二二	七、二九二	一、三〇六
臺南	一一、五〇一	四、六六五	二、六三八
阿緬	五、一五八	二、四〇一	八、四七三
臺東	一一、一三三	八、八	二、六六四
花蓮	五、一〇	二、一	一、四六八

明治四十四年	二六、三三、七三三	八〇、六八三	四四、六五〇
大正元年	三三、五三、一八二	三三、〇、七七九	三三、七、四八〇
大正二年	七、五五、一九八	二四、七、三二八	一〇、六四、九五

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

嘉義應報告 龍眼 應下果實中ノ大宗トシテ全島ニ冠タル産額ヲ有シ居ルモ前年來ノ暴風雨ハ樹幹ヲ傷ヒ且ツ近時製糖燃料ニ

伐採セラル、モノ稍多キニ達セル關係上稀ニ見ル減收ヲ呈シ殆ト十分ノ一ニ達シ百三十萬六千四百九斤ニ過キサリシヲ以

テ價額ハ暴騰シ例年乾龍眼百斤五圓内外ノモノ十五六圓ニ達スル等異例ノ事實ヲ顯セリ

阿緞應報告 龍眼ノ生産額ハ數年前ニ於テ全島中有數ノ位置ヲ占メタリシカ燃料又ハ用材トシテ該果樹需要頗ル大ナルヲ以テ

年々伐採セラル、ニ至リ農家ノ副産物爲ニ減少シ來レルハ寒心ニ堪ヘサル所ナリ將來本果樹造林ノ獎勵ヲ圖リ之レカ續裁

ヲナサシムルノ要アリト認ム今年ノ成果樹數ヲ見ルニ五萬千五百五十八本收穫高八十四萬七千三百六十三斤ナリキ

第十五節 鳳梨

士林、北投、員林、二八水、鳳山附近ヲ主産地トナス本果ハ重ニ傾斜地ニ栽培セラル明治四十三年以來其作付本數減少シツ、アリシカ本年ニ及ヒテ稍増加ヲ見ルニ至レリ而シテ其生産數量ハ從來重量ヲ以テ計算セシカ本年ヨリ個數ヲ以テ算出スルコトニ改メタルヲ以テ其計算稍ヤ困難ナレトモ其價額ニ於テハ約四萬一千圓ノ増加トナレリ

應別	栽培本數	同上見積面積	收穫高
臺北	五五八、〇九五	五五、八	五、二、八七〇
宜蘭	三〇三、九二〇	三〇、四	二〇、八、九三〇
桃園	七〇、五五〇	〇、七	七、九七七
新竹	一一三、〇七五	一一、三	一〇、一、九五〇
臺中	二四、五九、五四八	二四、六、〇	一、四八五、四六三
南投	二〇、一九一五	九、三	八四、九四一
嘉義	七〇、五、九五	七、〇、六	六、二、五、一九九
臺南	四、六四、〇、二一〇	四、六四、〇	四、一、六、六、六二七
阿緞	七、〇、一〇	〇、七	五、六、六、五
臺東	一三〇、五六	一、三	九、六、三、六
總計	九、〇〇、九、八〇八	八、九、〇、一	七、二、〇、二、五八
大正元年	八、六四、八、六四八	八、六四、八	一〇、四、二、九、一〇〇
明治四十四年	八、七五、三、八三〇	八、七五、四	一一、〇、一、三、五四三
明治四十三年	九、七九、〇、八一七	九、七、九、一	一一、九、六、二、二六四
明治四十二年	一一、二四、二、四二六	一一、二、四、二、三	一三、六、三、一、〇九八

鳳梨ハ生果トシテ其香味優良ナルモ之ヲ生果ノ儘内地ノ市場ニ送致スルハ頗ル困難ナリ故ニ今日

ノ状態ヲ以テシテハ罐詰法ニヨルノ他ナシ將來生果トシテ輸送ニ成功セハ更ニ一層ノ發達ヲ見ルニ至ルヘシ今最近六箇年間ニ於ケル鳳梨生産高ト島外輸出高トヲ表記スレハ次ノ如シ

年次	生産數量	同上價額	島外輸出價額
明治四十一年	八、五六七、九六七	一六〇、九三九	四四三八
明治四十二年	一三、六二二、〇九八	二五二、〇九八	四九九四
明治四十三年	一、九六二、二六四	三三、五二八	三八一七
明治四十四年	一、〇三、五三三	四〇、三〇〇	一八四三四
大正元年	一〇、四二九、一〇〇	三〇八、五九六	一三、八八七
大正二年	七、二一〇、二五八	三四九、〇四八	五八二五

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北應報告 鳳梨ハ舊栽培地變更等ノ關係上成果園ノ面積ハ昨年ニ比シ稍減少シタル感アレトモ未成果園ハ却テ逐年擴張セラ

レツ、アルヲ以テ結局發展ノ趨勢ニアリ而シテ收果量ハ面積減少ノ關係上減少ヲ示セリ

宜蘭應報告 鳳梨ノ如キハ他作物ノ栽培不可能ナル急傾斜地ニ適シテ手入ヲ要スルコト亦少キヲ以テ其面積年々増加ノ傾アリ本年ノ作柄ハ前年ニ比シ良好ナリ

臺中應報告 鳳梨需要増加並ニ罐詰原料トシテ消費セラル、モノ漸次増加シツ、アルヲ以テ能ク新作ノ發達ヲ促シツ、アリ

嘉義應報告 鳳梨ノ産額ハ前年ニ比シ反テ減少シ六十二萬五千九百九十九箇ニ過キス是レ累年ノ不作ニヨリ栽培ヲ減シタルモノ

ナルヘシト雖モ本年中臺灣農林株式會社ハ約三十甲歩ヲ造林地域内ニ大規模ノ栽培ヲ開始セシヲ以テ近ク一大増産ヲ示スニ至ルヘシ

第十六節 苧 蕉

臺中應管内ヲ以テ主産地トナス苧蕉ハ兩三年引續ケル暴風ノ爲メ著シク損害ヲ被リシガ本年ニ至リ漸ク舊態ニ復スルヲ得タリ從テ其作付面積ニ於テ大ナル増加ナキモ收量ニ於テハ前年ニ比シ殆ント二倍トナリ二千二百四十三萬斤ノ果實ヲ得タリ

應別	栽培本數	同上見積面積	收穫高
臺北	一八九、五九〇	一七九五	一八七八、一七〇
宜蘭	一四、七〇五	一三九	一三一、六七〇
桃園	三九八、二八	三七七	四五〇、二二六
新竹	五五、二五六	五二二	六二九、六五七
臺南	八六九、五一〇	八二三四	一一八一、四六五
嘉義	六四、二七五	六〇九	一、三一八、九一〇
臺南	二二六、八七七	二一四八	二四六四、〇九〇
臺南	一九三、九一七	一八三、六	三〇九四、九二八
臺南	三八五、九四	三六五	四二七、五一九
臺南	二四、三八三	二二一	七四、五三二
臺南	六、八九〇	六五	一四二、七六〇
臺南	三、四七五	三三	一一三、八六

總計	一七二七三〇〇	一六三三五五	三二一、四二七、三三三
大正元年	一、六〇七、〇七〇	一、五二二、一八	一一〇、二六、九三一
明治四十四年	八二六、八〇六	七八二、八	一七、四四八、五四四
明治四十三年	七三九、〇六二	七二二、七	一五、八六二、二二二
明治四十二年	五九一、二六〇	五五九、八	一〇、五三三、〇六二

生産セシモノハ島内ニ於テ生食用ニ供スルノ外僅ニ支那へ輸出スレトモ其大部分ハ内地ノ市場ニ搬出ス今明治四十年以降ノ生産及島外輸出數量ヲ表記スレハ次ノ如シ

年次	收穫高	同上價額	島外輸出數量	同上價額
明治四十年	三、五三九、五〇八 斤	一〇九、五三一 円	八五〇、二五九 斤	四四、二二九 円
明治四十一年	九、七九二、三三三	二二四、九一六	二、四九九、七八七	一〇五、一五八
明治四十二年	一〇、五三三、〇六二	二二二、〇九九	四、四六三、二九八	一五六、三三九
明治四十三年	一五、八六二、二二二	五三〇、〇五二	八、五六三、二二二	三四五、二八〇
明治四十四年	一七、四四八、五四四	四八一、三二二	一一、三七七、〇五六	三七八、一五六
大正元年	一一、〇二六、九三一	三八三、六六〇	一〇、六二六、一一七	三三七、四一八
大正二年	一五、六六二、二六六	五〇八、〇七一	八、九七〇、八三六	三二八、三三二

備考 收穫高ノ價額ハ産地相場ニシテ輸出價額ハ市場相場ナリ

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北應報告 苧蕉ハ先年風水害ノ爲メ一頓挫ヲ來セシモ昨年末來漸次栽培者ヲ増加セルニ依リ七十萬斤内外ノ増收ヲ見タリ隨テ廳下ヨリ島外へノ搬出數量ハ益増加シ毎月ノ平均取扱高ハ五、六萬斤以上ニ達シ居レリ

臺中應報告 苧蕉ハ逐年需用増加シ來リ殊ニ内地へ移出セラレ、モノ年々増加ノ感況ヲ呈スルニ至リシヲ以テ作付産額共ニ増加シツ、アリ而シテ本期末ニ於ケル産額ハ千八百八十五萬二千四百六十五斤ニシテ前年ニ比較スルトキハ五百九十四萬八千七百十斤ノ増加ナリ

嘉義應報告 苧蕉 近頃需要ニ應センカ爲メ其栽培及收穫上簡易ナルヲ以テ年ト共ニ増加シツ、アリ前年ノ産額七十五萬八千八百六十六斤ナルニ對シ本年ハ之レニ三倍シ二百四十六萬四千九百九十六斤ニ達セリ

阿緞應報告 明治四十四年及四十五年ニ於テ未曾有ノ暴風雨ヲ受ケ茲ニ一頓挫ヲナシ一時萎靡振ハサルノ状態ニ陥リ廢耕者ヲ出シタリシモ世運ノ趨勢ハ之レカ再興ヲ促シ本年ニ至リ漸ク舊態ニ復セリ其ノ成果本數前年ニ比シ四千九百三十四本ヲ増シ又三萬二千七百二十五斤ノ増收ヲ得タリ是レ暴風ナカリシニ由ル

節十七節 柿、李及桃

柿ハ南北各地ニ産シ一箇年ノ生産價額約一萬八千圓アリ品種ハ全部澁柿ニシテ在來種ノ甘柿ナキハ内地ニ於ケルト甚タ異ナル點ナリ而シテ其品質ハ品種ニヨリテ異ナルモ苗栗及ヒ斗六、林圯埔地方ニハ優良ナルモノヲ産ス多クハ澁拔ノ七食用ニ供シ僅ニ干柿ニ製ス李ハ各島各地ニ涉リ一箇年百

四十萬斤價額四萬四千圓ヲ産ス品質又優良ナルモノアリ島内ニ於テ生食糖藏ニ供スルノ外近年生果トシテ内地ニ移出スルモノアリ、桃ハ臺北士林附近ニ於テ生産スレトモ品質不良ニシテ生産價額未タ一萬圓ニ達セス今各廳ニ於ケル統計ヲ示セハ左ノ如シ

廳別	栽培樹數		同上見積面積		收穫	
	柿	李	柿	李	柿	李
臺北	一、九七八	二、九七一	一四、九三五	二、八八	六、三二五	八、一六八
宜蘭	九、六四	一、九三五	八、七三四	二、二	九、七〇〇	七、八四〇
桃園	二、五八七	二、七六〇	三、〇〇八	六、六	一、九〇四	二、五二七
新竹	八、八三二	六、二二五	六、八〇七	二、二七	四、四一五	八、五五九
臺中	五、九四三	六、七二八	六、二九九	九、二七	一、七六三	一、〇四七
嘉義	九、九	八、一八八	一、〇	七、八	一、〇	一、〇
南投	三、三一九	八、三三八	三、〇	七、九	一、〇	一、〇
阿緞	二	一、四九	一、七	〇、一	一、五	一、一〇八
臺東	三、七	三、五	八、五	〇、三	〇、	一、五
花蓮	一	三、七	〇、	〇、	〇、	〇、
澎湖	一	一	〇、	〇、	〇、	〇、
總計	二四、八六〇	一四、七、一六四	四、一、五二二	六、一、七	一、一、八、五〇六	一、四、〇、七、九、九〇

主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

大正元年	110,114	9,712	80,000	5,27	9,19	4,49	6,358	1,518,587	3,056,87
明治四十四年	12,007	5,000	8,110	6,9	4,1	1,1	1,01,001	8,91,000	3,83,000
明治四十三年	11,918	4,954	8,111	6,9	4,1	1,1	1,01,001	8,91,000	3,83,000
明治四十二年	11,000	6,313	8,111	6,9	4,1	1,1	1,01,001	8,91,000	3,83,000

南投廳報告 李 本年ノ結實樹數ハ八千八百八十八本ニシテ其收穫十萬九千四百斤ヲ得タリ之ヲ前期ニ比スルニ樹數ニ於テ八百

四十四本ヲ減シ收穫ニ於テ八萬一千九百六十七斤ヲ減セリ之レカ減收ハ結實樹數ノ減少ト本期結實期ニ於ケル虫害ヲ被リタルニ依ルモノトス然レトモ當事者ハ之レカ栽培ノ改良ヲ促サン爲メ本期盛ニ新植ヲ行フモノアレハ將來有望ナルヘキヲ認ム

第十八節 蠶業

一、蠶業補助 大正二年度蠶業獎勵規則ニヨリテ補助シタルモノヲ示セハ左ノ如シ

廳別	桑園面積	獎勵金	補助桑苗數	補助蠶種枚數	大豆粕
臺北	一、五三〇	七、五、三、四〇	一、八、二、五〇〇	六、七、三	二、七、二
宜蘭	一、九〇	九、八、〇、〇〇	二、一、五、六〇	九、九	五、九
桃園	一、〇、四〇	五、二、四、〇〇〇	一、一、五、二、八〇	三、三、四	一、一、二、九
新竹	六、六〇	三、三、〇、〇〇〇	七、二、六、〇〇	三、三、三	一、〇、六、三

二、桑園面積 明治四十二年以降ノ桑園面積左ノ如シ

應別	年別	總計					
		澎湖	花蓮	臺東	嘉義	南義	臺中
桃宜臺 園蘭北	明治四十二年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
	明治四十三年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
澎湖	明治四十二年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
	明治四十三年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
臺東	明治四十二年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
	明治四十三年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
嘉義	明治四十二年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
	明治四十三年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
南義	明治四十二年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
	明治四十三年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
臺中	明治四十二年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
	明治四十三年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
總計	明治四十二年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五
	明治四十三年	五七二	六七〇	七七一	九〇八	三〇八	一七二五

三、養蠶 桑園ナキ地方ニアリテハ野桑ヲ摘採シテ飼育シタルモノアリ前年ニ比シ百八十石ノ增收ナリ今大正二年中ニ於テ養蠶ノ應別ヲ表記スレハ次ノ如シ

應別	蠶種掃立枚數	產額					
		繭	玉繭	出殼繭	屑繭	計	
澎湖	六四五〇	七六七五	一一八六	〇・四五七	二・四七八	九〇八九六	
	七六〇	七九三六	一〇九五	〇・四五七	一・三九五	一〇四二六	
臺東	二六一〇	三〇・四一八	五・四〇一	〇・四五七	四・五七一	四〇・三九〇	
	計	計	計	計	計	計	
澎湖	六四五〇	七六七五	一一八六	〇・四五七	二・四七八	九〇八九六	
	七六〇	七九三六	一〇九五	〇・四五七	一・三九五	一〇四二六	
臺東	二六一〇	三〇・四一八	五・四〇一	〇・四五七	四・五七一	四〇・三九〇	
	計	計	計	計	計	計	
總計	計	計	計	計	計	計	
	計	計	計	計	計	計	

備考 飼育戸數ハ養蠶盛期ノ調査ナリ

總計	澎湖	花蓮	臺東	阿緞	臺南	嘉義	南投	新中	桃園	宜蘭	臺北	應別	飼育戸數		立蠶種數		產額	
													立蠶種數	掃	玉	額		
一七九	一	二	一八	一五	一九	一〇	六	六	二	三	三	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
八四四五	三〇	六〇	四五〇	八一〇	一一八五	八六〇	二六〇	二五〇〇	七三〇	二二〇〇	一五〇〇	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
九七八〇三	〇〇四三〇	〇〇三三〇	七五五二	七六三〇	九三〇一	八五二〇	二五四五	二二二七	九三九	二五〇九	三五七三〇	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
二二〇一七	〇〇四〇	〇〇四〇	一四八六	〇六〇九	一〇九四	一四三三	〇五九九	一六四七	〇一七	三三三〇	三三三〇	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
〇〇八七											〇〇七〇	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
九八六四	〇〇三〇	〇〇三三	〇九八六	〇六四一	〇九一〇	〇七九六	〇二六四	三三三三	一〇七四	〇三三三	一〇一九三	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
一九七七	〇五〇〇	〇四〇三	一〇〇二四	八八八〇	一一三〇三	一〇七二九	三三〇四	一八六〇九	二二六〇	三三〇三	四〇二四	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	

秋蠶

大正二年(八,九,十,十一月)

夏蠶

大正二年(五,六,七月)

備考 飼育戸數ハ養蠶盛期ノ調査ナリ

總計	澎湖	花蓮	臺東	阿緞	臺南	嘉義	南投	新中	桃園	宜蘭	臺北	應別	飼育戸數		立蠶種數		產額	
													立蠶種數	掃	玉	額		
一五七	二	一	七	一	二	三	四	七	二	三	一〇	應別	立蠶種數	掃	玉 <td>額</td> <td>計</td>	額	計	
九二九〇	一〇	一〇	二二〇	一〇	二二〇	一〇三〇	五四〇	二七〇	一〇二〇	一四三〇	四六〇	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
七八一九六	〇〇八〇	〇〇一〇	〇〇一〇	〇〇一〇	二四〇八	一七三二	四二二九	二七七一	四三三三	一五八三	四四七	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
一六〇七一	〇〇三五五	〇〇三〇	〇〇五五	〇〇三三	〇二一六	一八二二	〇五八八	〇四七三	一四四五	三〇四九	七八一	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
〇四四〇											〇四四〇	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
一〇七二七	〇〇三三	〇〇一〇	〇〇一〇	〇〇一〇	〇〇一〇	二二二〇	〇五六三	〇三九四	二六〇七	二八二六	〇六七	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	
一〇五三四	〇二二八	〇二二〇	〇六三五	〇二二七	一五七三	一〇二七	二九三三	五三八〇	三六三九	八三三五	二〇五八	應別	立蠶種數	掃	玉	額	計	

大正二年(一、二、十二月)

應別	飼育戸數	蠶種	産額			
			立枚	繭	玉繭	計
總計	一四	四・一〇	一・三〇九	〇・一五六	〇・一八九	一・五八四
澎湖	—	—	—	—	—	—
花蓮	—	—	—	—	—	—
臺北	三	四・〇	〇・四二〇	〇・〇六一	〇・〇〇三	〇・五〇四
宜蘭	—	—	—	—	—	—
桃園	—	—	—	—	—	—
新竹	—	—	—	—	—	—
臺南	九	三〇・〇	〇・四七九	〇・〇六五	〇・〇五六	〇・六〇〇
嘉義	—	—	—	—	—	—
臺南	—	—	—	—	—	—
阿緞	—	—	—	—	—	—
臺南	—	—	—	—	—	—
澎湖	—	—	—	—	—	—
澎湖	—	—	—	—	—	—

備考 飼育戸數ハ養蠶盛期ノ調査ナリ

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北應報告

養蠶業ハ近年獎勵ノ結果大ニ盛況ニ向ヒ益之カ發展ヲ督勵シツ、アリ而シテ業務ノ施設トシテハ總テ臺北農會ヲシテ經營セシメツ、アリ該事業ノ消長ハ別項團體ノ項農會ノ事業中ニ詳述シタルニ依リ茲ニ省畧ス

宜蘭應報告

養蠶業概況 前年各所ニ蠶兒ヲ飼育セル結果ハ成績概シテ良好ナリシニ依リ本年ニ入りテハ之カ飼育者ヲ激増シ其延人員三十五名増立紙數九十五枚ノ多キヲ算シ生繭收量十石八斗二升(病蠶其他ノ爲飼育廢棄約三十枚アリ)内府府ニ買上ケテ求メタルモノ六石四斗五升餘此金額百六十圓二十五錢、生糸二十三圓四十三錢ニ上ル然ルニ前年設置蠶園ノ未ダ摘葉シ得サルニヨリ殆ント野桑ヲ以テ飼育セルカ爲採葉困難ノ度ヲ増シ切ニ蠶園開設ノ必要ヲ感シ蠶業獎勵規則ニ依リ補助出願者續出シ其人員十九名甲數九甲五分ヲ算スルニ至レリ而シテ本年産繭中督府開催ノ展覽會ニ於テ一等賞ヲ得タルニ徴シテ應下ニ至適セルヲ知ルヘキナリ

新竹應報告

野桑豐富ニシテ且ツ氣候比較的内地ニ近似セル應下ニハ飼育ニ適セルモノト認メ大正元年ヨリ農會ヲ督勵シ之カ飼育ヲ獎勵セシニ希望者漸次増加スルト共ニ將來本業ノ有望ナルヘキヲ認メタルヲ以テ當期ニ於テハ督府ノ方針ニ其キ之カ獎勵方法ニ就キ充分考查シテ專ラ其ノ實施ニ努メタリト雖モ各飼育者中桑園ヲ有セサル者多ク概シ野桑ヲ摘採シテ飼育セシモノニシテ農繁期ニ遭遇セシ際ノ如キ蠶兒ニ充分ナル手當ヲ爲サシムルニ困難ヲ感シタル場合少ナカラサリシヲ以テ

第一編 農業 第五章 農產

生産額ノ品質多少劣リタル觀アリシハ過渡時代ニ於テ事情已ムヲ料サリシ處ナリ要スルニ當期ニ於ケル獎勵ハ技術上ノ訓練ヲ主眼トシ一面當業者ニ對シ本業ノ有利ナル自信ヲ與フルニ努力シタリ

技術ノ訓練ニ就テハ専ラ農會技術員ヲシテ巡回指導セシメタルヲ以テ當期中飼育上甚ダシキ失敗ニ陥リタル事ナカリシハ大ニ幸トスル處ナリ而シテ三齡マテハ雜糶共同飼育場ニ取纏メ技術員カ直接飼育ノ任ニ當リ各當業者ヲ教導セリ

臺中廳報告 農會ノ事業欄參照

南投廳報告

大正元年度ヨリ之カ獎勵ニ着手シ桑園設置及蠶兒飼育ヲ獎勵セリ其當初ニ於テハ桑樹ノ枯死病蠶ノ發生等種々ノ浮沈ヲ免レサリシモ本期ニ至リテハ稍其面目ヲ改メ桑園面積ノ擴張ヲ見ルニ至レルト蠶兒飼育者ノ増加ニヨリ從テ其收穫量ヲ増加シ本島人有志ハ蠶室ヲ新築スル等益々之レカ進歩ノ傾向アルハ喜フヘキ現象トス

嘉義廳報告 農會欄參照

臺南廳報告

臺灣蠶業獎勵規則ニ基キ當廳及當廳農會ニ於テ具體的ニ蠶業ノ指導獎勵ニ着手セルハ僅カニ前年來ノコトニ屬セルカ此短日月ノ間ニ於テ急速ナル發達ヲ爲セリ即桑園新設者農會外二十六名桑園面積三十一甲一分四厘ニシテ此等ニ對シ獎勵金千五百五十七圓七錢桑園肥料大豆粕九百九十九枚桑苗十七萬八千五百八十四本ヲ總督府ヨリ下付テ受ケ本年二月中全部植付了セリ又蠶農會ニ於テハ養蠶技術員二名分給旅費トシテ千圓ノ補助金ト雜糶共同飼育場設置補助一箇所分五十圓及蠶具殺蛹器一箇下付テ受ケタリ

本期中廳農會ハ鳳山養蠶組合附屬養蠶室ニ於テ第二回養蠶傳習生ヲ養成シ二十四名ノ傳習卒業生ヲ出セリ

又廳農會ノ設置セル雜糶共同飼育場ニ於テハ本年八、九、十月ノ三回ニ蠶種六十五枚蠶量六十匁ヲ掃立シ二眠起迄雜糶飼育シ之ヲ十九日二分飼育セシメタルニ收穫七石五斗餘ヲ得タリ尙農會ニ於テハ小規模家庭的養蠶者ニ對シ蠶具貸付及

成育表

掃立及上簇	平均温度	給桑回数	給桑量	蟻量	蠶種產地
掃立 四月十一日	七十五度	二五〇	二五七	六匁	群馬縣
上簇 五月十日	八十度	二七〇	二六八	二匁	熊本縣
同 九月十五日					

收購成績

阿緞廳報告

明治四十四年以來阿緞廳農會附屬農場ニ於テ試驗ノ結果廳下ノ風土氣候ニ適シ相當ノ收益アルモノト認メ農家副業トシテ一般ニ獎勵ヲ圖リタルニ桑園ヲ設置シ督府ヨリ苗木ノ無償配付ヲ受ケ九甲六分ノ新植ヲ見タリ而シテ養蠶普及ノ一段段トシテ蠶業傳習ヲ開始シ應募者七十名中ヨリ二十五名ヲ撰拔養成セシニ短時日ニシテ能ク蠶業並ニ飼育ノ實習ヲ會得シ成績頗ル良好ナルモノアリ今傳習生ノ出身年齢ニ付テ記述スレハ總督府農事試驗場卒業生一名公學校卒業生二十名、書房修業生三名、小學校卒業生一名ニシテ最年長者二十五歳、最年少者十七歳ナリ

臺東廳報告

大正二年九月中總督府殖産局ヨリ下付テ受ケ白龍特製二枚ヲ飼育シタルニ結果及育成ハ極メテ良好ニシテ飼育法ハ順氣育ヲ採リ桑葉ハ前年植付ノ管桑實生ヲ以テシ上簇迄是ヲ給桑セリ其成育及結果ヲ示セハ左表ノ如シ

上簇月日	上繭	中繭	下繭	同繭	合計
五月十日	〇・四一〇 石	—	〇・一七〇 石	〇・〇五五 石	〇・五六九 石
五月十五日	〇・三六〇	〇・〇七〇	〇・〇一〇	〇・〇三五	〇・四八五

花蓮港應報告

養蠶ハ農家ノ副業トシテ將來有望ノ事業ト認メ先以テ桑園設置ノ獎勵ヲ爲シタルニ本年間ニ於テ之レカ設置ヲナシタル者百三名ニシテ桑園面積八甲餘植付苗本五萬五千八百二十八本ナリ栽培者ハ何レモ吉野村移民ニテ大正二年三月中旬ヨリ四月下旬迄ニ植付タリ桑苗ハ總督府ヨリ下付ヲ受ケタル魯桑ニシテ成育狀態悪シカラス然レトモ魯桑ハ發芽遅ク春蠶ニハ供給シ得サル不便アルカ故ニ次期ニハ本島在來種ノ栽培ヲ獎勵シ春蠶ノ用ニ供セシメントス

澎湖應報告

農會欄參照

第六章 畜産

畜産ノ統計ニ現ハレタル大正二年中ノ總生産價額ハ一千四百四十七萬三千二百二十五圓ニシテ農業生産總價額ノ約一割ニ相當ス今種類別生産數及價額ヲ表記スレハ次ノ如シ

種別	生産數	同上價額	單價
----	-----	------	----

水牛	黄牛	雜種牛	本種牛	洋種牛	雜種羊	山羊	鹿	鷄	鷺	鴛	七鳥	牛	計
三、〇四五三	一、五七五一	三三	三九三	六四、九七三	五二	二七	四九、〇二七	一〇一	三、八二六〇	三、九	六五五、九六七	一六二、三七〇	二、五七一
九五、一〇四七	四〇九、五二六	三、二七〇	三三、六八四	六、九二四、八三一	七七四	四九一	一〇四、四二八	五、〇一七	二、五八二、五七六	三、一八、八〇〇	一六〇、七四六	一、九六二	一一、四七三、二二五
三、一〇一	二六、〇〇〇	一一、五三〇	九〇、八〇〇	一〇、七二〇	一五、一一〇	一、八二〇〇	四九、二八〇	〇、六七五	〇、四八六	〇、九九〇	六、〇〇〇	六五、二六一	一石ヲ以テ單位トス

備考

一、家禽ハ年末現在ヲ以テ屠殺シタル總羽數ト見積リ之ヲ計上セリ
二、若シ豚ノ生産ヲ屠殺ニヨリテ計算スルトキハ同年中ノ屠殺數六九九、七〇五頭價額一、〇八七、九四七圓ニシテ

第一編 農業 第五章 農産

此中屠豚トシテ輸入セシモノ一九、八五七頭價額五五三、六一九圓アルヲ以テ之ヲ控除シ外ニ輸出セシモノ二八、九頭價額二、八四八圓ヲ加ヘ其數六八〇、一三七頭價額一、五三七、一七六圓トナル

第一節 牛

在來ノ牛畜ハ水牛及黃牛ニシテ水牛ハ水田多キ地方、黃牛ハ畑地多キ地方ニ飼育セラレ何レモ農耕ニ使役セラルル督府ニ於テハ領臺以來黃牛改良ノ目的ヲ以テ洋種牛中「デボン」「エーシヤ」ノ類ヲ輸入シ近年更ニ又本島牛ノ類縁ナル印度牛ヲ輸入シテ蕃殖ヲ圖リツ、アリ
近年獸疫ノ猖獗ヲ極メ且ツ放牧スヘキ原野ノ開墾セララル、ト共ニ牛畜減少ノ趨勢アリ現ニ總頭數ニ於テ前年ニ比シ一萬八千頭ノ減少ナリ耕地ノ増加ニ比シ役畜ノ減少ハ農業經營上極メテ憂フヘキコトニシテ別項記載ノ如ク獸疫撲滅ニ大ニ努力スル處アリ今年年中ノ生産及年未現在頭數ヲ應別トシテ表記スレハ次ノ如シ

大正二年中生産頭數

應別	水牛	黃牛	洋牛	雜種牛	計	同上性別	
						牝	牡
臺北	二、四一三	一〇一一	七	一三八	二、六六〇	一、四五五	一、二〇五
宜蘭	二、四八六	三〇		七	二、五二三	一、三三七	一、一四六
桃園	一、〇九九	三七		四	一、四七四	七四四	七三〇

第一編 農業 第五章 農産

大正二年末現在頭數

應別	水牛	黃牛	洋牛	雜種牛	計	同上性別	
						牝	牡
新竹	二、一九八	二、一一七			四、三一五	二、一九七	一、一三三
臺中	一、六二四	五、三三三			六、九五七	三、三九四	三、五六三
嘉義	一、一三四	六、〇〇〇			七、一三四	三、五六一	三、五七三
南義	五、〇三三	三、八五五		六	八、八九三	四、三九四	四、四九九
臺南	四、一〇九	三、三〇六			七、四一五	三、五六一	三、八七二
阿東	六、九七〇	二、七〇四			九、六七四	四、八一九	四、八五五
臺東	一、三三六	一、〇四〇			二、三七六	一、一〇五	一、二七〇
花蓮	二、一六一	三、四三八			五、五九四	二、三三六	三、二五八
澎湖		六、四三三			六、四三三	三、四	三、〇三〇
總計	三〇、四三三	一五、七五一		一三	四六、六一〇	二二、五二五	二三、〇八五
大正元年	三三、三二七	一八、六〇五		八	五〇、三二〇	二五、三九四	二四、九二六
明治四十四年	三六、八九三	二一、七二二		一五	五九、〇二五	三〇、〇二五	二九、〇〇〇
明治四十三年	三八、五四八	二四、〇二五		一一	六二、九〇八	三三、三一一	二九、五八六

總計	澎湖	花蓮	臺東	阿緞	臺南	嘉義	南投	新中	桃園	宜蘭	臺北
二八九、一〇九	一〇、八六〇	九、五一五	五、九四九	三、七六六	五〇、三六九	一、二、六九六	四〇、二七一	一、四、六一八	二、三、八八八	九、一九九	二、三、三三一
一三七、九一〇	三、三六五	一、二五五	七、九四一	一、五、七四八	三、七、九六三	六、九五四	一、四、〇四二	一、三、二九五	二、六、六六九	一、六、四	九〇五
六二				二	一九						三二
一、二、二六	九			四二	六九	一一	一八八	二二	一一	一六	四〇七
四二八、三〇七	三、三、七、七〇	一、二、一、一五	一、七、四、五、六	七、五、六、六、六	八、八、四、〇、一	一、九、六、六、一	五、四、五、〇、一	二、七、九、三、四	二、五、五、六、九	九、三、七、九	二、一、六、七、五
一八〇、二、八、九	一、七、八、五	五、三、三、七	八、六、九、四	三、六、一、五、三	二、三、四、〇、七	九、三、五、四	一、九、七、四、六	八、三、六、〇	二、八、四、五	三、四、二、七	九、九、〇、四
一、二、四、〇、〇、四	一、七、八、一	五、三、三、〇	二、六、一、七、三	二、五、八、〇、三	一、九、七、九、三	五、三、三、六	一、三、七、九、四	五、七、四、八	二、八、九、九	二、一、三、五、五	七、五、九、一
一、四、一、二、九、四	二、二、九、七	三、四、四、〇	一、三、三、四、〇	二、二、三、六、六	三、三、三、三、三	四、九、七、一	二、〇、九、六、一	一、三、八、二、六	一、九、八、二、五	三、五、九、七	五、一、八、〇
一、四、一、二、九、四	二、二、九、七	三、四、四、〇	一、三、三、四、〇	二、二、三、六、六	三、三、三、三、三	四、九、七、一	二、〇、九、六、一	一、三、八、二、六	一、九、八、二、五	三、五、九、七	五、一、八、〇
一、四、一、二、九、四	二、二、九、七	三、四、四、〇	一、三、三、四、〇	二、二、三、六、六	三、三、三、三、三	四、九、七、一	二、〇、九、六、一	一、三、八、二、六	一、九、八、二、五	三、五、九、七	五、一、八、〇

年次	補助金額	改良種畜生產頭數	備考
明治四十一年	九、九〇〇	三六三	元斗六、鹽水港、臺南、阿緞廳ニ補助シタリ
明治四十二年	三、九八〇	四九九	元斗六、鹽水港、臺南、蕃薯寮廳ニ補助シタリ
明治四十三年	七、一九〇	一、〇〇八	南投、嘉義、臺南及阿緞廳ニ補助シタリ
明治四十四年	一一、三三〇	三〇六七	南投、嘉義、臺南、阿緞及臺東廳ニ補助シタリ
大正元年	一一、三三〇	二、五九〇	新竹、南投、嘉義、臺南、阿緞及臺東廳ニ補助シタリ
大正二年	一一、三三〇	二、九〇二	同

牛畜ノ改良ニ就テハ恒春種畜場ヲ設ケ洋牛及印度牛ヲ輸入シテ蕃殖ヲ圖リ一面又同場ノ生産牛及輸入牛ヲ種畜貸下規則ニヨリ貸下ケ又明治四十二年度ヨリハ黃牛種牝牛設置獎勵ノ爲メ獎勵金ヲ交付スル等種畜ノ改良ニ努メタリシカ年ト共ニ此方針ニヨリ改良牛ノ數ヲ増加シツ、アリ今明治四十年以降年別補助金及改良牛ノ生産頭數ヲ記スレハ左ノ如シ

尙大正二年度補助金額及生産頭數ヲ應別トシテ記スレハ次ノ如シ

廳別	產牛改良補助金	種牝牛頭數	大正元年度ノ種付數	大正二年度ノ生産頭數	大正二年度ノ種付頭數
新竹	一、一五〇	三四	一四二	五五	一〇、七
南投	一、七〇〇	六七	八一七	二二〇	四八八

計	臺東	阿緞	臺南	嘉義
1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000
5,677	6,550	1,110	1,400	1,500
4,220,000	9,000	5,940	1,416	1,191
4,441	2,533	4,877	4,033	4,226
1,461	1,335	5,033	829	829
2,900,000	4,888	9,900	1,269	1,110
4,218	6,661	6,661	1,269	1,110

備考

一、臺東廳ニ於テハ一般ニ放飼ナルヲ以テ多クハ自由交尾ニ委スルヲ以テ種付頭數及生産數等ノ詳細ナ知ルヲ得ス本表ニ揭クル所ノモノハ種牝牛所有者ニシテ自己牝牛ニ於テ種付セル頭數ナリ

二、他廳ニ於テモ種牝牛ハ放飼スルモノ多キヲ以テ人爲的種付ヲ施行スルノ外放飼中自由交尾ニ依リ種付シ又之ニヨリ生産スルモノ多キモ其頭數ヲ調査シ難シ故ニ本表ノ種付及生産數ハ專ニ人爲的種付ニヨル數ヲ掲ケタルモノナリ

從來本島人ハ豚肉ヲ以テ食用ノ主ナルモノトシ比較的牛肉ヲ食用セサリシカ近年豚肉ノ價額騰貴セシ爲メ牛肉ヲ食用スルモノ著シク増加シ來レリ牛肉中黃牛肉ハ我内地牛ニ似タル肉味ヲ有ストモ水牛肉ハ頗ル劣等ナリ而シテ本年屠殺セラレタルモノ四萬頭其價額七十餘萬圓ニ達セリ即チ左ノ如シ

區別	水		牛		黃		牛	
	頭數	數量	均重	均價	頭數	數量	均重	均價

總計	臺北	宜蘭	桃園	新竹	臺中	南投	嘉義	臺南	阿緞	臺東	花蓮	澎湖
1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000	1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000	1,330,000	1,130,000	
5,677	6,550	1,110	1,400	1,500	1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000	1,330,000	1,130,000	
4,220,000	9,000	5,940	1,416	1,191	1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000	1,330,000	1,130,000	
4,441	2,533	4,877	4,033	4,226	1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000	1,330,000	1,130,000	
1,461	1,335	5,033	829	829	1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000	1,330,000	1,130,000	
2,900,000	4,888	9,900	1,269	1,110	1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000	1,330,000	1,130,000	
4,218	6,661	6,661	1,269	1,110	1,330,000	1,130,000	1,150,000	2,840,000	2,810,000	1,330,000	1,130,000	

主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ次ノ如シ

臺北廳報告 牛畜ハ年々多少ノ増減アリ本年末ノ現在總數ハ水牛二萬三千三百三十一頭黃牛九百五頭ニシテ昨年ニ比シ水牛九百

十二頭増シ黃牛二百六十一頭減シタリ

畜牛ニ關スル施設トシテハ未ダ積極的ニ之カ改良ニ着手スルノ運ニ至ラス從來管内ニ於テハ種牝牛ヲ置クノ慣行ナク殆

第一編 農業 第五章 畜産

ト野外畜産ノ状態ニアリシヲ以テ種牡牛ヲ設置シ人爲的ニ蕃殖ヲ行フノ必要ヲ認ム其ノ施行方法ニ就テハ目下調査研究中ニ屬シ未タ實行ノ運ニ至ラス

宜蘭廳報告

本年未調査前年ノモノニ比スレハ雜種牛ニ於テ四頭ヲ減シ水牛ニ於テ百八十四頭ヲ黃牛ニ於テ六十七頭ヲ増加シタルモ漸ク水牛九千九百九十九頭黃牛百六十四頭雜種牛十六頭計九千三百七十九頭ヲ現存セシニ過キス既往十三年間ノ統計ニ徵スルニ廳下ニ於ケル水牛頭數八千二百五十八頭七分ニ對シ僅々三百八十一頭七分ノ増加ヲ見タルニ過キス農業上ニ運輸交通上ニ將タ肉用ニ其他諸般ノ事業ニ牛力ヲ要求スルコト多大ナルノ秋ニ當リ斯クノ如キ實情ニアルハ廳下産業ノ發展上遺憾甚ダ歎シトセス尙其個體ノ能力ニ就テ既往十一箇年間ノ實查ニ鑑ミルニ一箇年一頭ノ水牛力負擔スル耕地面積ハ約二甲六分強ニ上リ自然過勞ノ結果ハ其使用期間ヲ短縮セシメタルハ常ニ供給ハ需用ニ不足ヲ告クルノ狀況ニアリ故ニ山脚ノ放牧場ノ整理ヲナシテ以テ牛畜ノ保存増殖ニ資スル必要ヲ認メ且調査ヲ遂ケタルモ時恰モ廳下ニ於ケル林野調査ニ際會セルヲ以テ未タ之ヲ實施スルニ至ラサルモ該調査ニシテ終了セハ更ニ調査ヲ進行シテ以テ之カ整理並ニ取締ヲ行フニ至ルヘシ

新竹廳報告

廳下ニ生産セシ水牛黃牛ハ主トシテ管内ノ需用ヲ充スノ外小數ハ肉用トシテ北部ニ役用トシテ南部ニ向ケ搬出セラレタリ特ニ鐵道運賃率ノ改正ハ牛畜ノ移出チ一層有利ナラシメタルモノ、如シ
當期設置種牡牛八十頭ニシテ前期設置ノモノヲ合セ三十五頭ニ達セリ設置地域ハ廳下牛畜主産地タル苗栗一壘同二壘ノ内ニ於テ適當ノ地點及當業者ヲ選擇セリ其ノ種付成績ハ概シテ良好ニシテ左表ノ如シ

種牡牛種付成績表 自大正二年一月至同十二月

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
種牡牛頭數	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	三〇
種付數	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	二〇

臺中廳報告

(イ)牛畜 本期末畜牛現在頭數ハ水牛四萬二千七百七十一頭、黃牛一萬四千二百頭、計五萬四千四百七十一頭ニシテ之ヲ前年末現在頭數ニ比較スルトキハ五千九百九十九頭ノ減少ナリ然ルニ廳下需要ノ狀況ヲ見ルニ農事ノ改良發達ニ伴ヒ畜力ノ利用及食肉ノ需要益々増加スルニ反シ生産ハ屠殺ノ半數ヲ補足シ能ハサルノ狀況ナリ叙上ノ如ク年々畜牛飼養ヲ減スル所以ノモノハ前年ニ於テ報告セルカ如ク秣草供給地ノ減少及諸般ノ物資騰貴ニ伴ヒ飼養上影響スルヲ以テ牝牛ノ飼養ヲ減シタルモノアルノ結果ニ外ナラサルヘシ

(ロ)共同放牧場ノ設置 林野利用事業ノ進捗ニ伴ヒ放牧場ノ缺乏ヲ來シ養牛上困難ヲ感スルコト少カラサルヲ以テ廳下各地ニ共同放牧場及採秣場ヲ設置セシムル目的ヲ以テ官有原野年期貸下又ハ廢基地等ニ付夫々調査中ナリ

南投廳報告

前年ヨリ引續キ牛畜改良及養豚改良ヲ獎勵實施セリ牛畜改良トシテハ明治四十四年度ヨリ種牡牛ヲ設置シ優良種牛ノ種付ヲ獎勵シ漸ク追フテ之レカ改良ヲ爲シ獎勵金ヲ交付セリ本期ニ於ケル種牡牛ノ新設十五頭ニシテ前年設置ニ係ルモノニシテ其ノ資格ヲ喪失セルモノ八頭ヲ廢止シ年末ニ於テ種牡牛總數六十頭ヲ算ス此等ハ孰レモ専ラ種付ヲ爲シタル結果其成績ノ大ニ見ルヘキモノアリ

嘉義廳報告

牛畜ニハ不幸ニシテ年々牛疫ノ被害ヲ被リ加フルニ累年風水ノ被害夥シク從テ斃死及行衛不明等アリテ自然繁殖ノ阻害セラレト同時ニ開墾植樹等土地利用ノ増進ハ漸次放飼上打擊ヲ與ヘ左記表示ノ如ク飼養頭數遞減ノ實況ナルニ鑑

第一編 農業 第五章 畜産

ミ本廳ニ於テハ農會ヲシテ畜産上各種ノ改良事業ヲ施設セシムル外劣等ナル畜類ノ淘汰ヲ圖リ性能體質ノ向上ヲ促シ集約的畜産法ノ普及ヲ講セリ即チ明治四十二年度以降主要ナル産牛地ニ黄牛ノ種牝牛ヲ設置シ人爲的交配ヲ計リ良種ノ蕃殖ニ努メツ、アル結果漸次其効蹟ヲ舉ケ當業者ノ注意ヲ喚起スルニ至レリ以下累年別ノ成績ヲ擧クヘシ

年 別	設定種牝牛頭數		種付頭數		生産頭數	
	年	年	年	年	年	年
四十二年	三七	二五	二二三	八二四	—	—
四十三年	—	—	—	—	—	—
四十四年	—	—	—	—	—	—
四十五年	—	—	—	—	—	—
計	一五四	二八	四、七二七	—	—	—

尙左ニ生産、斃死、屠殺及年末現在頭數ヲ表記シ新業ノ大勢ヲ示スヘシ

年 別	水 牛			黄 牛				
	生産	斃死	屠殺	現在數	生産	斃死	屠殺	現在數
四十二年	一〇、一五八	一〇、九三三	二、三六八	五、三〇三	八、〇四六	七二四	九九九	四、七七〇
四十三年	八、一〇八	一〇、六九九	三、九七四	五、五七〇	六、二二六	八五七	二、五四九	四、六、三五五
四十四年	五、八九一	一、三三三	五、五四九	五、四三〇三	四、八四八	七四一	五、〇六六	四、一、六七三
四十五年	五、〇三三	—	四、七八九	五、〇三六九	三、八五五	四、五四	四、三六八	三、七、九六三

臺南廳報告

牛畜ハ近年米價ノ騰貴勞働賃銀ノ昇騰牧野ノ減縮等ニヨリ其飼養管理者シテ困難不利トナリ役用上ノ能力少キモ又ハ蕃殖用牝牛ノ如キハ之ヲ放棄屠殺スルノ傾向ヲ生シ現在頭數及生産頭數ヲ漸減スルノ趨勢ヲ見タルカ本年ニ於テ著シク此ノ傾向ヲ加ヘタリ即チ本年末牛畜現在頭數ハ水、黄牛合シテ七萬一千五百七十六頭ニシテ之ヲ前年末ノ八萬三百七十三頭ニ比スルニ實ニ九千七百九十七頭ノ減少ナリトス其生産頭數モ本年ハ水、黄牛合シテ七千四百三十四頭ニシテ之ヲ前年ノ八千八百四十四頭ニ比スルニ千四百十頭ノ減産ヲ示セリ

阿緬廳報告

將來此ノ趨勢ヲ以テ進ムトキハ牛價ノ昂騰ヲ招キ役畜ノ不足ヲ來シ延テ農業經營上甚タ惡影響ヲ及ス虞アリト思量ス死セルト一面ニ於テ土地利用ノ進ムニ從ヒ放牧地縮少シ受托者ヨリ寄托者ニ返還シ來リ殊ニ黄牛ハ價格低落シテ飼育スルモ不利ナルヲ以テ屠殺及管外移出數ノ増加ヲ來タシ普通病死牛モ亦前年ニ比シ増加ヲ見タルニ依リ結局生産數ニ於テハ千五百五十五頭ヲ増シタルニ拘ラス前陳ノ減少ヲ見ルニ至レリ

臺東廳報告

當廳下ニ於テハ大正元年五十頭ノ種牝牛ヲ設置シ之ニ獎勵金ヲ交附シ牛畜ノ改良ヲ圖リツ、アリシモ本年ニ於テハ二千百圓ノ獎勵金配付ヲ受ケ更ニ二十五頭ノ種牝牛ヲ増加シ改良繁殖ニ資ス農會ニ於テハ引續キ牛畜改良ノ目的ヲ以テ劣等牝牛ノ去勢ヲ施行シ而シテ初年施設當時ハ何等掲クヘキ効果ヲ得ザリシモ其後年々追テテ彼等民畜モ畜産ニ對スル思想ヲ誘起シ自然新業ノ改良發達ニ努ムルニ至レリ其結果劣等牝牛ハ年々減少ヲ示シ廳下一般ニ漸次牛畜ノ改良ヲ計リシ結果以前ニ比シ遙ニ優良ナルモノヲ生産スルノ状態ニアリ之レ種牝牛ノ設置ト去勢施行ノ効果トニ依リ畜産業ニ及ホシタル影響多大ニシテ同時ニ彼等ノ感想トシテハ初年前項施設當時ハ種々ナル疑心ヲ抱クモノ多數ナリシモ現今斯ル誤解ヲ生スルモノ殆ントナク民畜ハ何レモ競ツテ良牛ヲ生産シ獎勵金ノ交附ヲ受ケント欲スルニ至レリ

第一編 農業 第五章 畜産

花蓮港報告 畜産ノ改良蕃殖ニ關シテハ未タ獎勵方法ヲ設定セス隨テ種牡牛ヲ殺クルニ至ラス
澎湖廳報告 廳下ニハ黃牛ノ一種類ノミニシテ他種類ナク專ラ農家製糖用ノ役牛トシテ飼養セリ其ノ飼養頭數ハ例年三千三四

百頭内外ニシテ專業及兼業トモ九千餘戸ノ農家ニ對シ三月一頭弱ニ相當スル割合ナルモ微々タル畑作一途ノ地方トシテハ
農業上致テ不便ノ點ナキカ如シト雖多少不足ノ憾ナキ能ハス是レ其ノ飼料ノ缺乏ニ原因スルモノニシテ冬期半歲間ハ落花
生干草ノ一種ニ因ルノ外原野ニ一點綠色ノ秣草ヲ認メサルノ狀態ナルヲ以テ其ノ體質漸次退化シ概ネ體軀矮小精力亦薄
弱ナルヲ以テ之カ改良ノ前提トシ牧草播種ノ必要ヲ認メ農會設置以來銳意牧草ノ適否試驗研究中ナルモ未タ適當ノ飼料
發見ニ至ラス繼續試驗中ニ在リ而シテ左表ノ輸移出ハ專ラ轉牛ノ臺灣南部地方ヘノ移出ニ係リ輸入ハ專ラ肉用トシテ臺
灣南部ヨリ移入ニ係レリ蓋シ本年輸移入價格ノ多カリシハ專ラ一月以來第一、第二艦隊及驅逐艦隊等ノ出入港頗ル頻繁ニ
シテ肉牛ノ移入多カリシト頭三年以來一般農作物豐穰ナリシ爲メ一部ノ地方ニ役牛ノ移入アリタルニ由レリ茲ニ最近五箇
年ノ狀況ヲ示セハ左表ノ如シ

年次	種別			輸移出		屠殺	
	生 産	死 亡	現 在	價 格	價 格	頭 數	價 格
明治四十二年	?	?	三三九二	一六二	一八六九	二二三	五、八八七
明治四十三年	六四五	七三五	三二五四	六五六	?	四二六	八、三四二
明治四十四年	七三二	四九	三三〇四	?	?	四〇八	六、五八六
大正元年	七三二	四九	三三〇四	三九八	一〇九	四〇五	六、六四四
大正二年	六四三	八四	三三六五	一五〇	三九八	五〇九	一、二二五

第一編 農業 第六章 畜産

第二節 豚

内地ニ於テ肉トハ牛畜ヲ意味スル如ク本島ニアリテハ肉トシ云ヘハ豚肉ヲ指ス程ニ需用多キヲ以
テ其消費量極メテ多ク六千六百萬斤價額一千二百萬圓ヲ下ラス故ニ農家副業トシテ婦女子ニヨリ戸
毎ニ一頭乃至數頭宛飼育セラル此數年間米價騰貴ノ結果豚ノ飼料價亦稍騰貴セシ爲メ其飼育ニ稍困
難ナルモノアリシカ米價ノ下落ト共ニ仔豚ノ賣買盛トナリ生産ヲ増加セシメナラス年末現在ニ於
テ實ニ五萬頭ヲ増加シ來リ屠豚トシテ鹿兒島及沖繩縣下ヨリ年々移入スルニアラサレハ需給ノ均衡
ヲ保ツ能ハサル現象ナリトス

大正二年中生産頭數

廳 別	本島豚	洋豚	雜種豚	計	同上性別	
					牝	牡
臺 北	五、四六七			五、四六七	二、四四〇	二、五五五
宜 蘭	二、八九一			二、八九一	一、〇九五	一、六九二
桃 園	五、九〇二			五、九〇二	三、〇二八	二、九九九
新 竹	三、八〇三			三、八〇三	一、九六六	一、八三六
中 投	六、三九〇			六、三九〇	三、一三四	三、二五〇
南 臺	三、七五八			三、七五八	一、八二七	一、五五五

總計	澎湖臺阿臺嘉				
	湖	港	東	縱	南
大正元年	六四九、九七三	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二
明治四十四年	五七九、九九四	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二
明治四十四年	五九三、二七三	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二
明治四十三年	六〇七、九七六	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二
總計	六四九、九七三	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二

大正二年末現在頭數

總計	澎湖臺阿臺嘉				
	湖	港	東	縱	南
大正元年	六四九、九七三	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二
明治四十四年	五七九、九九四	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二
明治四十四年	五九三、二七三	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二
明治四十三年	六〇七、九七六	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二
總計	六四九、九七三	一一、九〇一	九、六六〇	九、八一	一〇八、三五二

總計	澎湖臺阿臺嘉南臺				
	湖	港	東	縱	南
大正元年	一一、一八三、八八九	二〇、五六七	一九、八七六	一七、一五九	二二、七〇一
明治四十四年	一一、一八三、八八九	二〇、五六七	一九、八七六	一七、一五九	二二、七〇一
明治四十四年	一一、一八三、八八九	二〇、五六七	一九、八七六	一七、一五九	二二、七〇一
明治四十二年	一一、一八三、八八九	二〇、五六七	一九、八七六	一七、一五九	二二、七〇一
明治四十一年	一一、一八三、八八九	二〇、五六七	一九、八七六	一七、一五九	二二、七〇一
總計	一一、一八三、八八九	二〇、五六七	一九、八七六	一七、一五九	二二、七〇一

豚ノ改良ハ本島畜産上緊要ナル事項ノ一ナリ故ニ督府ニ於テハ十數年前ヨリ既ニ之カ種類ノ改良ニ着目シ「面洋豚」「パークシヤ」「ヨークシヤ」等ノ種牡豚ノ輸入ヲ圖リ又一面ニハ在來種中ノ優良種即チ桃園及瀾濃種ノ種牡牝豚ヲ撰擇シ之カ交配改良ヲ圖ルト共ニ一面ニハ獎勵金ヲ補助シテ

改良ヲ圖ラシメタル結果近年著シク改良種豚ノ増加ヲ見ルニ到レリ今補助金及本年度末ニ於ケル改良種豚數ヲ示セハ左ノ如シ

應別	補助金額	種豚數	大正二年中 生産仔豚	改良種 頭數	備考
臺北	1,000	?	1,492	1,492	
宜蘭	500	107	607	618	
桃園	1,000	33	1,863	1,875	
新竹	1,000	92	3,937	3,947	
臺中	1,000	79	1,626	1,635	
嘉義	1,000	60	819	829	
臺南	1,000	40	1,343	1,352	
阿緞	1,000	176	1,405	1,411	
澎湖	500	20	463	473	
計	6,000	606	14,570	14,676	
大正元年	8,000	1,510	13,829	13,979	
明治四十四年	6,500	854	9,902	9,956	臺北、桃園、新竹、臺中、嘉義、臺南及澎湖廳へ補助シタリ
明治四十三年	6,500	854	9,902	9,956	臺北、桃園、臺中、嘉義及臺南廳へ補助シタリ
明治四十二年	4,000	400	7,903	7,953	元臺北、基隆、新竹、彰化及嘉義廳へ補助シタリ
明治四十一年	4,000	400	7,903	7,953	四十二年以前ハ種豚ヲ貸與シタリ

改良ノ結果最近四箇年間ニ屠豚一頭平均ニ於テ十四斤ノ増加ヲ見ルニ至レリ今應別屠殺表ヲ示セハ左ノ如シ

應別	頭數	重量	價額	一頭平均 重量	均一頭價	相百斤ノ
臺北	1,042,666	11,231,864	2,374,292	12.9	2,277.2	192.74
宜蘭	30,719	3,161,059	597,355	10.3	1,944.6	188.99
桃園	38,611	4,145,004	916,188	10.7	2,272.9	211.06
新竹	59,793	6,531,575	1,053,513	10.9	1,761.9	161.30
臺中	115,487	11,589,322	1,792,992	9.7	1,552.5	160.68
嘉義	27,871	1,918,975	406,503	6.9	1,458.5	211.83
臺南	220,642	8,921,028	2,060,415	7.4	1,707.9	230.96
阿緞	127,599	10,593,998	1,849,511	8.3	1,449.4	174.75
臺東	60,079	5,619,999	831,346	9.2	1,383.8	147.94
花蓮	51,215	4,142,334	631,831	8.1	1,245.5	154.09
澎湖	52,885	4,816,229	970,400	9.1	1,836.1	210.43
總計	6,997,075	65,646,925	12,087,947	9.4	1,727.6	184.14

大正元年	七〇三、九四三	六二、三四五、六五二	一一、〇〇〇、九七一	九一	一五、六二八	一七、六七七
明治四十四年	六九二、二二六	五八、九三六、一五二	九、七五〇、六七二	八五	一四、一二九	一六、五九五
明治四十三年	六七五、六〇二	五四、二七四、八九九	八、九九六、五九〇	八〇	一三、三二六	一六、五九〇

備考

大正二年中屠殺ノ目的ヲ以テ移入シタルモノ一九、八五六頭(此價五五三、五九四圓)ニ達シタリ而シテ重ナル移入先ハ鹿兒島、門司、長崎、八重山、宮古等ノ地方ナリ

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北應報告

豚ハ前年來米價騰貴ニ伴ヒ飼料亦騰貴シタル爲メ農家一般飼養數ヲ減シタリシカ本年七月以降米價漸ク下落シ飼料亦下落ヲ見ルニ至リタル結果飼養者俄カニ増加シ仔豚ノ賣行良好トナリ價額亦著シク昂騰シ普通體格ヲ有スルモノ一頭十圓内外ニテ取引セラル、ノ好況ニ向ヒ本年ノ年末現在數八十萬二千三百七十八頭ヲ算シ昨年ニ比シ五千餘頭ヲ増加シタルハ大ニ喜フヘキ現象ナリトス

宜蘭應報告

豚肉ハ獸肉ノ首位ニシテ一日モ缺クヘカラサル副滋食料タリ從テ其需用モ亦驚クヘキモノアリ故ニ農會ハ五箇年計畫ヲ建テ督府ヨリモ年々一千圓ノ補助ヲ仰キテ以テ臺北及桃園ノ兩廳下ヨリ其種豚ヲ購入シ頂雙溪種ト桃園種トノ交雜蕃殖ヲ實行シ來リ年ヲ閱スルコト茲ニ二箇年其成績良好ニシテ既ニ頭圍整頭圍街、員山堡及羅東堡羅東街地方ニ於テハ貸付種豚ノ原產地ト其體格ニ於テ果タ成育ニ於テモ殆ント異ナラサル其仔豚ノ生産繁殖ヲ見ルニ至リタレハ一般養豚家モ仔豚ノ蕃殖上種豚ヲ選擇スルノ必要ヲ自覺シ漸次蕃殖用牝豚ノ飼養ヲナス者類出スルニ至リ前年ニ比シ約七百頭ノ蕃殖用牝豚ノ増加ヲ見ルニ至レリ

新竹應報告

養豚業ハ廳下ニ於ケル農家副業中ノ最モ重要ナルモノト一ニシテ當期ニ於ケル生産額ハ七四、七五三頭(屠殺數五九、七五三頭管外移出)〇、〇〇〇頭未消費費約五、〇〇〇頭ヲ合シタルモノヲ生産額トス)ニシテ一頭平均重量百斤、價額百斤十五圓ト見積トキハ總價額百十二萬一千二百九十五圓ナリ

屠殺豚數ハ前期ニ比シ二千五百餘頭ヲ減シタルモ豚體增量ノ爲メ總斤量ハ却テ増加シタリ種牝豚改良事業ハ廳及農會協力ノ結果漸次其ノ効ヲ奏シ種牝豚ハ取締規則ノ勵行及農會ニ於ケル優良牝豚購入貸與等ノ方法ニ依リ今ヤ殆ント全部ニ對シ改良ノ更新ノ實行ヲ終ラントス種牝豚ハ竹北二堡大湖口庄附近ヲ改良區域トシ農會ニ於テ極力勵行ノ結果畧ホ其ノ目的ヲ達セシテ以テ今ヤ第二改良區域ヲ竹北一堡富興庄附近ニ指定シ著々目的ノ遂行ニ努メツ、アリ

臺南應報告

養豚ハ農家副業ノ主班ニシテ近來生活程度ノ向上ニヨリ益需肉ノ程度ヲ加ヘ結果肉價昇騰シ養豚ハ愈有利ノ副業トシテ發達シ其現在頭數二十六萬八千八百七十四頭ニシテ前年ニ比シ八千七百九十六頭ヲ増セリ年間生産モ前年十三萬百二十四頭ニ對シ四千七百九十六頭ヲ増セリ殊ニ其ノ箇體モ優良種豚ノ増殖及混血ニヨリ改良セラレタルハ其ノ生産價額ヲ向上シタルハ明カナル事實トス

阿緞應報告

豚 本年未現在頭數八十七萬千六百五十一頭ニシテ前年ニ比シ七千二百二十八頭ヲ増加シ殊ニ仔豚及成豚ノ管外移出數八年々増加ノ趨勢ヲ示シ嘉祥内里及崇德東里ニ於ケル肉豚養成ハ顯著ナル發達ヲナシツ、アリ

臺東應報告

豚 前年ニ比シ其數ノ稍増加シタルハ世ノ需用ニ伴ヒ其蕃殖ヲ圖リ或ハ他廳下ヨリ種豚ヲ輸入シ其蕃殖ニ勉メタル結果ナリ

澎湖應報告

廳下唯一ノ副業タル養豚業ハ之ヲ副業ト謂ハンヨリハ寧ロ本業ト稱スルモ過言ニ非ラサルヘシ如何ナル寒村小嶼

第一編 農業 第六章 畜産

ト雖モ民屋ノ存在スル所必ス養豚セサルハナク毎年ノ飼養一萬八千頭下ラス廳下ノ消費スル頭數ハ三千五百頭、此價額二萬七千圓乃至三萬圓ニ上リ管外ノ輸移出價額實ニ五萬圓乃至九萬圓ニ上リ農家經濟ノ一半ヲ補フ重要産業ナルニ拘ハラス數百年來曾テ之カ改良ヲ圖リシ形跡ナク品種退化シ一年間ノ飼養熟豚ニシテ百斤ニ達スルモノ甚タ稀ニシテ僅カニ七八十斤ニ過キサレノ狀態ナルヲ以テ廳農會設置以來之カ改良ニ着手シ未タ日淺キニ拘ハラス一般ノ注意ヲ喚起シ漸次夏好ノ情勢ニ赴キツ、アリ最近五箇年間ニ於ケル狀況ヲ表示スレハ左ノ如シ

年別	種別			輸移出入		屠殺數	
	生	死	及現	價額	價額	頭數	價額
明治四十二年	?	?	?	七、〇〇八	二、二八	三、六二〇	二、九〇六
明治四十三年	一〇、六九六	二、三三八	一、七五〇	九〇、八八二	八二	三、三三三	二、五五五
明治四十四年	二、二八一	二、二二	一九三七八	五、一八六五	二〇	三、一四四	二、七〇八
大正元年	二、一〇二	二、〇〇	一九四六五	八、四六八〇	?	三、一〇一	三、一五〇
大正二年	二、九〇一	二、八五	二〇、五六二	五、四九二	三二	四、二一九	四、四六二

第三節 山羊

肉用ノ目的ヲ以テ飼養セラル、山羊モ草地ノ開拓セラル、ニ從テ漸次減少ノ傾向アリ山羊改良ノ方針トシテハ印度乳用山羊ヲ蕃殖シ一面本島山羊ニ交配シテ雜種ヲ造出センコトヲ期シ種畜場ニ於テ蕃殖シツ、アリ

主ナル廳ノ報告左ノ如シ

宜蘭廳報告 山羊ノ需用ハ年々増加ノ傾向ヲ示セルヲ以テ從來臺北及新竹地方ヨリ移入シツ、アリシモ管内ニ於ケル之カ飼育

第一編 農業 第六章 畜産

廳別	生産頭數	屠			殺			年末現在高		
		頭數	重量	價額	均一頭平	均一頭平	相百斤	牝	牡	計
宜蘭	11,100	3,966	11,200斤	11,200	11,200	10,000	1,200	7,800	11,000	3,200
桃園	1,431	833	1,933	1,350	1,350	1,000	1,350	1,000	1,100	1,100
新竹	1,431	833	1,933	1,350	1,350	1,000	1,350	1,000	1,100	1,100
嘉義	1,431	833	1,933	1,350	1,350	1,000	1,350	1,000	1,100	1,100
南義	1,431	833	1,933	1,350	1,350	1,000	1,350	1,000	1,100	1,100
阿緞	1,431	833	1,933	1,350	1,350	1,000	1,350	1,000	1,100	1,100
臺東	1,431	833	1,933	1,350	1,350	1,000	1,350	1,000	1,100	1,100
花蓮	1,431	833	1,933	1,350	1,350	1,000	1,350	1,000	1,100	1,100
澎湖	1,431	833	1,933	1,350	1,350	1,000	1,350	1,000	1,100	1,100
總計	49,077	28,161	1,445,550	22,411	22,411	17,900	22,411	17,900	22,411	22,411
大正元年	48,813	28,139	1,445,550	22,411	22,411	17,900	22,411	17,900	22,411	22,411
明治四十四年	48,813	28,139	1,445,550	22,411	22,411	17,900	22,411	17,900	22,411	22,411
明治四十三年	48,813	28,139	1,445,550	22,411	22,411	17,900	22,411	17,900	22,411	22,411
明治四十三年	48,813	28,139	1,445,550	22,411	22,411	17,900	22,411	17,900	22,411	22,411

ハ漸次増加スルニ至リ前年ニ比シ九百五頭ノ増加ヲ見年未ニ於テ二千八頭ヲ現存セリ

第四節 家禽

鶏ハ内地ヨリ優良種ヲ移入シテ之ヲ本島種ニ交配シ雜種ヲ作り之カ改良ヲ圖リツ、アルカ各地ニ於テ歡迎セラレ漸次増加ノ趨勢ニアリ鷺ハ各地ニ於ケル人工孵化法ニヨリテ蕃殖シツ、アリ前年ニ比シ多少増加セリ此鷺ノ孵化シタルモノハ飼育ノ目的以外ニ剝製トナシ外國ニ輸出スルモノ年約三十萬羽ニ達スト稱セラル鷺ハ肉用ニ供スルモ甚シク増加セス七面鳥ハ愛翫用トナスモノ多シ今大正二年末ニ於ケル家禽ノ現在數ヲ示セハ左ノ如シ

廳別	種別	鷄	鷺	鷺	七面鳥	計
臺北	鷄	四三九、一七	一三、〇三八	一、九七二	二四〇	五七五、三六七
桃園	鷄	一八一、八三六	七〇、八六三	一、六八四	—	二五四、三八三
新竹	鷄	二七四、〇〇二	八五、〇八〇	一一、四二六	—	三七一、五〇八
嘉義	鷄	三六七、六五五	七、七二九	一八、九五三	—	四五八、三四四
臺南	鷄	六七四、一三三	一三、六四五	九〇、四九四	—	八九七、三〇三
阿波	鷄	一九八、〇〇四	三〇、八二〇	一八、〇〇六	—	二四六、八三〇
澎湖	鷄	六四五、八一四	六二、六四四	一三、五〇一	—	七二一、九七三
花蓮	鷄	五四一、二六九	三〇、六一三	一一、九〇六	—	五七四、八〇四
臺東	鷄	三九八、三五六	三三、五八九	一一、〇〇〇	—	四七四、一八
總計	鷄	三、八二六、〇三九	六五五、九六七	一六、一三七〇	三二七	四、六四四、七〇三

主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

總計	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
鷄	三、八二六、〇三九	三、六四七、〇四六	三、五九五、五一六
鷺	六五五、九六七	六四九、九八四	六六〇、一七一
鷺	一六、一三七〇	一七三、三九六	一七八、〇七〇
七面鳥	三二七	一三三	一〇三
計	四、六四四、七〇三	四、四七〇、五五九	四、四三三、八六〇

臺北廳報告 家禽ハ年々増加ノ趨勢ニシテ鷄ハ一箇年三十萬羽内外ヲ生産シ年未現在約五十萬羽計上セシモ需要ヲ充スコト能ハス爲メニ管外ヨリ多少ノ供給ヲ仰キツ、アリ

鷺ハ本島人ノ經營セル人工孵化法ニヨリ一箇年約六十萬羽ヲ生産シ内鷺雖十五、六萬羽ハ隣接廳下ニ移出シ三十萬羽内外ハ剝製シテ海外ニ輸出ス其ノ他鷺、七面鳥ハ概シテ愛翫用トシテ飼育セラレ其ノ數多カラス

宜蘭廳報告 (一)鷄 廳下ノ鷄種ハ主トシテ在來種ナルモ近年廳農會ニ於テ種禽ノ繁殖ヲ圖リ之カ配布及種卵ノ配布ヲ爲シ來

リタルニヨリ漸次洋種及其雜種ノ繁殖ヲ見ルニ至レリ而シテ年未現在十八萬一千八百三十六羽ニシテ之ヲ前年未調査ニ比スレハ二萬四千二百五十六羽ヲ増加セリ殊ニ近來杜鷄ヲ花蓮港地方ニ移出スル者頻出スルニ至リタレハ將來益々發達スルニ至ルヘシ

(二)鷺 廳下ニ於ケル養鷺業ハ養豚業ニ亞キ畜産上須要ノ業ニシテ之カ盛衰ハ主トシテ人工孵化業者ニヨリ左右セラレ今其概況ヲ述ヘンニ廳下ニ於ケル孵化業ノ起源ハ約七十年前ニシテ清國漳州人朱真及吳全ノ二名廳下紅水溝墾冬瓜山庄ニ於テ經營セシチ噓矢トシ爾來兩名ニ就キテ修得シ斯業ニ從事スルモノ漸次増加シテ約十五名ニ達シ一名一箇年平均十五

第一編 農業 第六章 畜産

萬餘ノ鷺ヲ孵化セシメ臺北、基隆及花蓮港地方へ移出シツ、アリシニ其後轉住轉業等ノ爲メ多少減少シテ現今十名ノ從業者ヲ殘スニ過キササルモ之カ減少ハ却テ現存者ノ努力ヲ喚起シタルモノ、如ク本年申ニ於テ各人平均二十萬餘額ノ孵化ヲナシ管内ハ勿論前記地方及桃園新竹地方ニ亙リ益々之カ販路ヲ擴張シ總羽數四十萬餘羽此價額一萬六千餘圓ニ上リ之ニ管内毀消ノ五萬餘羽此價額三萬餘圓ヲ合計スルトキハ總毀消羽數四十五萬餘羽、價額四萬六千餘圓ニ達ス而シテ年末現存數ハ七萬八百餘羽ヲ算シ前年ニ比シ二千六百餘羽ノ増加ヲ來セリ

(三)鷺 鷺ハ作物ヲ荒スコト多ク且多食スルモノトシテ從來之カ飼養ヲナスモノ少ク或一地方ニ限局セラレ居リシ狀況ナリシニ比年増加ノ傾向ヲ示シ前年末ニ於テ一千四百二十羽ナリシモノ本年末ニ至リ二百六十四羽ノ増加ヲ見千六百八十四羽ニ達セリ

阿緞廳報告 本年末現在ハ四十三萬四千百十八羽ニシテ前年ニ比シ六千七百三十四羽ヲ増シタリト雖モ未タ改良ニ着手スルニ至ラス産卵數モ亦甚ダ少シ

第五節 牛 乳

牛乳ハ衛生思想ノ進步ニ伴ヒ漸次其需要ヲ増加スルモノニシテ最近四箇年間ニ於テ乳用牛頭數及搾取高共ニ増加シタリ而シテ從來使用シタル水牛及黃牛ハ其泌乳量少キヲ以テ漸次雜種牛ニ代リツ、アリ搾乳業者ノ多キハ臺北臺中ニシテ臺南及嘉義之ニ次ク而シテ其全ク生産ナキハ桃園及臺東廳下トス全島一箇年ノ生産高二千五百七十七石其價額十六萬七千七百六十五圓ナリ即チ表ノ如シ

第一編 農業 第六章 畜産

廳別	搾乳業者 戶數	年末現在乳用牛頭數				計	搾乳高 石	價額 圓
		洋種	雜種	水牛	黃牛			
臺北	二四	一一	三三三	一一	一八	一、六八〇・六八八	一〇〇、八四一・二八〇	
桃園	三	一一	一一	一一	一一	五五・九五九	四、四七六・七二〇	
新竹	三	一一	一一	一一	一一	五、四六二・二八	四、三七〇・二四〇	
臺中	三	一一	一一	一一	一一	三〇・八・四四二	二、四八六・三五〇	
臺南	四	一一	一一	一一	一一	五・〇〇〇	四、一四二・〇〇〇	
嘉義	五	一一	一一	一一	一一	九五・一七〇	六、八六四・一九〇	
臺南	八	一一	一一	一一	一一	一九三・四七七	一一、五三九・四九〇	
阿緞	二	一一	一一	一一	一一	八二・九〇四	六、一三九・一八五	
臺東	二	一一	一一	一一	一一	二〇	六、一三九・一八五	
花蓮	一	一一	一一	一一	一一	一一・七一九	一一、二六七・四〇〇	
澎湖	一	一一	一一	一一	一一	一一・七一九	一一、二六七・四〇〇	
臺灣	一	一一	一一	一一	一一	一一・七一九	一一、二六七・四〇〇	
澎湖	一	一一	一一	一一	一一	一一・七一九	一一、二六七・四〇〇	
臺灣	一	一一	一一	一一	一一	一一・七一九	一一、二六七・四〇〇	
全島	五二	一一	一一	一一	一一	二、五七〇・五九七	一、六七七・七六四・九五五	
大正元年	五一	一一	一一	一一	一一	一一・七一九	一一、二六七・四〇〇	
明治四十四年	四九	一一	一一	一一	一一	一一・七一九	一一、二六七・四〇〇	
明治四十三年	四九	一一	一一	一一	一一	一一・七一九	一一、二六七・四〇〇	

備考 雜種牛欄内△印ヲ冠セルハ内地牛ナリ
第一編 農業 第七章 獸疫及病蟲害

縣名	水牛		黄牛		洋牛		雜種牛		計	
	牝	計	牝	計	牝	計	牝	計	牝	計
臺北	59	59	135	135	1	1	19	19	214	214
宜蘭	50	50	107	107	1	1	1	1	159	159
桃園	5	5	11	11	1	1	1	1	18	18
新竹	4	4	11	11	1	1	1	1	17	17
臺中	4	4	11	11	1	1	1	1	17	17
嘉義	97	97	15	15	1	1	1	1	113	113
臺南	111	111	15	15	1	1	1	1	127	127
阿緞	111	111	15	15	1	1	1	1	127	127
臺東	25	25	15	15	1	1	1	1	41	41
花蓮	185	185	15	15	1	1	1	1	201	201
澎湖	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3
計	509	509	400	400	10	10	30	30	949	949
大正元年	279	279	199	199	2	2	11	11	491	491
明治四十四年	230	230	201	201	8	8	19	19	458	458

第一編 農業 第七章 獸疫及病蟲害

尙ホ參考トシテ前記法定獸疫以外ノ一般斃死家畜ノ應別表ヲ左ニ示サン

家畜ノ死亡 一

大正二年

縣名	水牛		黄牛		洋牛		雜種牛		計	
	牝	計	牝	計	牝	計	牝	計	牝	計
臺北	115	115	34	34	1	1	1	1	151	151
宜蘭	115	115	34	34	1	1	1	1	151	151
桃園	4	4	4	4	1	1	1	1	14	14
新竹	4	4	4	4	1	1	1	1	14	14
臺中	4	4	4	4	1	1	1	1	14	14
嘉義	8	8	29	29	1	1	1	1	39	39
臺南	11	11	29	29	1	1	1	1	40	40
阿緞	11	11	29	29	1	1	1	1	40	40
臺東	25	25	15	15	1	1	1	1	41	41
花蓮	185	185	15	15	1	1	1	1	201	201
澎湖	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3
計	498	498	692	692	10	10	30	30	1220	1220
大正元年	269	269	492	492	2	2	11	11	774	774
明治四十四年	226	226	593	593	8	8	19	19	846	846
明治四十三年	188	188	504	504	1	1	19	19	712	712

臺北應報告 獸疫預防ニ就テハ必要ナル措置ノ下ニ勵行シ來リタル結果本年ハ狂犬病二頭、豚虎列刺四十三頭ヲ出シタ

ルノミニシテ前年ニ比シ著シク發病數ヲ減シタリ

乳用牛結核検査ハ豫期ノ計畫ニ基キ根本的撲滅ノ方針ヲ以テ嚴密ニ検査ヲ行ヒ之カ防遏ニ努メタル結果發生數ヲ減シ本年

ノ定期検査ニ於テハ病牛皆無ナリシ

臺中應報告 近來牛疫ノ流行ハ全ク其跡ヲ絶テタルモ前年ヨリ引續キ大肚上堡、苗栗三堡、揀東上堡ノ一部ニ氣腫疽ノ發生ア

リ之レカ爲メ斃死シタルモノハ水牛四頭、黄牛三十五頭、計三十九頭ニシテ病勢緩慢怡モ特發ノ觀ヲ呈シ居レリ目下極力

防遏中ナリ又豚疫ハ廳下各地ニ特發シ大流行ヲ見サルモ終熄困難ナリ

臺南應報告 本年中ノ牛疫ハ近年稀有ノ流行ヲ見水、黄牛合シテ一千五十七頭ノ斃死又ハ撲殺ヲ出セリ此ノ損害ハ牛價三萬四

千三百圓ニ過キサレモ之ニ伴フ官府ノ支出ニ係ル豫防費及其ノ他人民ノ被ムリタル間接損害ヲ合ス時八十數萬圓ノ巨額ニ上ルヘシ

第二節 農作物ノ病害

本年ハ病蟲害ノ發生各地ニ之ヲ見タルモ其ノ最モ驅除豫防ニ努メタルハ南部地方ニ於ケル甘蔗及米作ノ害蟲採集就中懸賞驅除ニシテ次ハ甘蔗ノ露菌病ナリ露菌病ハ大目降附近ノ病害ナリシカ驅除ニ努力スルニ拘ラス順次漫延シテ遂ニ鳳山及阿緱地方ニモ被害ヲ見ルニ至リ又一時臺北附近ニ恐慌ヲ來シタル綿吹介殼蟲モ往々散點的被害アリシモ敵蟲應用ノ驅除法ヲ以テ意ノ如ク驅除スルコトヲ得タリ

之ニヨリテ驅除シタル成績ハ次表ノ如シ

驅除面積	驅除期間	第一期		第二期	
		作	作	作	作
本苗田代	明治四十四年 自二月十九日 至三月廿七日	大正元年 自一月二十日 至三月二十日	大正二年 自一月十日 至三月廿五日	明治四十四年 自七月九日 至九月二十日	大正元年 自六月廿五日 至九月三十日
計	一、一三、一〇〇	一、九〇、〇〇〇	二、〇、四九七	二、五、五七〇	二、六、三三〇
第一期作		三、六〇〇、〇〇〇	二、三、五八〇、〇〇〇	二、九、六〇〇、〇〇〇	二、九、六〇〇、〇〇〇
第二期作		二、〇八、九〇〇	二、九、六〇〇、〇〇〇	二、六、五八〇、〇〇〇	二、六、五八〇、〇〇〇
計		五、六八、九〇〇	五、三、一八〇、〇〇〇	五、六、一八〇、〇〇〇	五、六、一八〇、〇〇〇

稻作螟蟲懸賞驅除經費配賦額累年表

一、稻ノ病蟲害 北部ニアリテハ泥負蟲、一點大螟蛾、鐵甲龜、浮塵子中南部ニアリテハ浮塵子、一點螟蟲ノ發生多ク年々多少之カ被害アリ本年ハ嘉義附近ニ於テ第二期作ニ浮塵子、一點螟蟲發生シ恰モ七月中旬ノ浸水ヲ受ケタル稻田ハ少ナカラサル被害ヲ受ケタリ

明治四十四年ヨリ引續キ本年モ左ノ豫算ヲ配賦シテ阿緱廳管内ニ懸賞驅除ヲ行ハシメタリ

採集數	一甲當害蟲		害蟲採集數	
	本田	苗代	本田	苗代
蛾卵	一、二五	一、三九	一、四一八、〇八九	八二、一六四
蛾卵	二	三七	二、七二一、二六四	一、四六六、三六四
			四九、〇一五	二、一〇、四〇〇
			三、九九五	一、一三三、〇五〇
			二、九九一	一、六二、〇〇〇
			四、二五	二、六四、四三七
			一、一六三、三五	一、八八、四四五
			二、九七、八八三	二、四八、一五三
			一、七六九、五三四	五、四八、九一七
			二、九五、六三八	二、五三、七四九
			一、三〇五	九、九五、一〇七
			五九〇	二、六四〇
			四一八	六七二
			一二	一四六
			四	一〇

採集シタル害蟲ハ卵十塊若クハ二十蛾毎ニ抽籤票一枚ヲ交付シ置キ其一票ヲ七厘トシテ計算シ金額及等級別籤數ヲ定メ交付シタル懸賞金ハ左ノ如シ

等級	第一期作		第二期作		計	
	各等金額	當籤數	各等金額	當籤數	當籤數	同懸賞金
一等	一、〇〇〇〇〇	一	一、〇〇〇〇〇	一	二	二、〇〇〇
二等	二、〇〇〇〇〇	四	三、〇〇〇〇〇	二	六	一、四〇〇
三等	一、〇〇〇〇〇	六	二、〇〇〇〇〇	三	九	一、一〇〇
四等	七、〇〇〇〇〇	一〇	一、〇〇〇〇〇	五	一五	一、一〇〇
五等	五、〇〇〇〇〇	一八	五、〇〇〇〇〇	七	二五	一、二〇〇
計						

年次	總督府	嘉義廳	臺南廳	阿緞廳	計
大正元年	一〇、五八一、六二〇	九、七一、九四五〇	九、一六、四九九〇	四、三三三、二四〇	三三、六四九、八〇〇
大正二年	一、二八八、〇二〇	一、一五八、七〇〇〇	九、三三三、〇〇〇	五、八四四、〇〇〇	二八、〇四二、〇二〇
計					

二、甘蔗ノ病蟲害

(イ) 蟲害 主ナル害蟲タル條螟蟲、二點螟蟲、黃色螟蟲、蔗龜等ニ就キ一般驅除ト共ニ前年ヨリ施行シ來レル懸賞驅除法ヲ嘉義、臺南、阿緞ノ三廳管内ニ四、五、六、七ノ四箇月ニ涉リ左ノ經費ヲ

以テ施行セシメタリ

年次	總督府	嘉義廳	臺南廳	阿緞廳	計
大正元年	一〇、五八一、六二〇	九、七一、九四五〇	九、一六、四九九〇	四、三三三、二四〇	三三、六四九、八〇〇
大正二年	一、二八八、〇二〇	一、一五八、七〇〇〇	九、三三三、〇〇〇	五、八四四、〇〇〇	二八、〇四二、〇二〇
計					

其驅除シタル成績左ノ如シ

期	除面積	四五月	四五月	四五月	四五月	四五月
一	害蟲採集數	四二八二五九六七	四六四五七三〇	三八四四七三六〇	四二二九七三六〇	一三二七八九〇〇
甲	當	一五三三	一八四六	二九四三	二七六九	一八七九

害蟲五十匹ニ付抽籤票一枚ヲ交付シ其ノ百五十票ニ對シ一票ヲ當籤シ此ノ一票ノ平均價額ハ一圓二十錢ノ割合ナレハ結局一千二百五十四圓二十錢ニテ買收スル割合ナリ此ノ計算ニ基キ一等ヨリ八等ニ分チ以上ノ方法ニヨリテ交付シタル懸賞金ハ即チ左ノ如シ

嘉義廳	臺南廳	阿緜廳	計
11,000,000	8,000,000	10,000,000	11,000,000

等級	金額	嘉義廳	臺南廳	阿緜廳	計
一	100,000	三本	二本	二本	七本
二	40,000	一一	六	三	二〇
三	20,000	一一〇	一五	一〇	一三五
四	10,000	一〇	一〇	一〇	三〇
五	5,000	一〇	一〇	一〇	三〇
計	17,000	一七〇	一七〇	一七〇	五一〇

等級	金額	嘉義廳	臺南廳	阿緜廳	計
一	100,000	一〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇
二	40,000	九三三	六八八	一三三	一七五四
三	20,000	一〇,〇〇〇	六,八八八	一,一三三	一八,〇二一
四	10,000	一〇,〇〇〇	六,八八八	一,一三三	一八,〇二一
五	5,000	一〇,〇〇〇	六,八八八	一,一三三	一八,〇二一
計	17,000	一七〇	一七〇	一七〇	五一〇

(ロ) 露菌病 當初臺南廳大目降附近ニ限リ被害ヲ見タル露菌病ハ全滅ノ計劃ニテ前年大目降方面約三方里ノ地域ヲ劃シ之カ驅除豫防ヲ行ヒ其效顯著ナルモノアリシカ一地方ニ殘存セルモノ再發シ且ツ鳳山附近一帶ナル意想外ノ地域ニモ被害甘蔗ヲ發見シタルヲ以テ更ニ之カ驅除豫防ヲ行フコトナリ臺南廳ニアリテハ大正元年廳令第二號ヲ發シテ其驅除區域ヲ山仔頂庄、翁公園庄、大寮庄、潭頭庄、赤崁庄、石棠潭庄、中路庄、營後庄、龜洞庄、布袋尾庄、大潭庄、林仔邊庄、大寮庄、劍猪厝庄、歸仁南庄、歸仁北庄、八甲庄、媽祖廟庄、下湖庄、埤仔頭庄、西勢庄、王田庄、北勢庄、車行庄、大灣庄、埔姜頭庄、嶼嶼潭庄、篤松庄、鹽行庄ノ全庄若クハ一部トシ大正元年十二月二十一日ヨリ一月三十一日迄ノ期間ニ八百二十甲ノ蔗園ノ驅除ヲ行ヒタリ然ルニ大正二年冬期ニ植付ケタルモノニモ被害蔗園ヲ發見シタルハ大正二年十二月十一日廳令第四號ヲ發シテ大寮庄、赤崁庄、山仔頭庄、灣仔頭庄、中廊庄、五甲尾庄、挖仔庄、石上庄、後紅庄、大寮庄(仁壽下里)石螺潭庄、大舍甲庄、白米庄、梓官庄、彌陀港庄、港口崙庄、茄苳坑庄、赤崁庄(仁壽上里)八甲庄、媽祖廟庄、埤仔頭庄、歸仁北庄、劍猪厝庄、大潭庄、砂崙庄、崙仔頂

庄、西勢庄、王田庄、竹仔脚庄、北勢庄、車行庄、番仔寮庄、港仔墘庄、大洲庄、虎尾寮庄、後甲庄、三份仔庄、蜈蚣潭庄、萬松庄、六甲頂庄、鹽行庄、三崁頂庄、太子廟庄、一甲庄、蘇厝ノ一部ヲ驅除地域タルコトヲ令シ十二月十一日ヨリ之カ驅除ヲ行ヒタリ港西下里新庄仔庄、甘棠門庄、興化厝庄又阿緱廳ニアリテハ淡水溪ノ下流ナル新園里新園庄、仙公廟庄、瓦礫仔庄ノ地域ニ大正二年七月露菌病ノ發生ヲ認メタルヲ以テ廳令第十六號ニテ之カ驅除ヲ令シ同年九月更ニ新園里由洋仔庄ヲ驅除區域ニ加ヘ之カ施行ヲ令シタリ

三、其他ノ害蟲 綿吹介殼蟲ハ各地ニ發生シタルモベダリや瓢蟲ニテ之ヲ驅除シ又柑橘產地ニアリテハ介殼蟲ノ類ヲ青酸瓦斯ニテ驅除スル等各地之ヲ施行セシ處甚ナカラス

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北廳報告

病蟲害驅除豫防ノ狀況ハ昨年ニ比シ一般ニ各種ノ病蟲害ノ發生甚シカラス稻作ニ在リテハ其ノ發生面積決シテ少キニアラサリシモ殆ント無被害ノ結果ヲ見タリ其他甘蔗、茶、柑橘等各其ノ害ヲ被ラサルモノナシト雖就中柑橘ハ最モ病蟲ニ侵サル、コト多ク現ニ年々盛ニ平地ニ於テ柑橘ノ枯死スルモノナルヲ見ルハ其ノ原因不明瞭ナルモ一説ニ蟻蟲ノ寄生ニ依ル被害ナリト稱ヘラレ當局ニ於テモ目下究研中ニ屬シ遠カラス完全ナル驅除法發見セラルヘク豫想セシニヨリ本廳下ニ於テハ先ツ適宜ノ處置ヲナシ其枯死シタルモノハ燒却ノ法ヲ採リ成ルヘク發生地ニハ再植ヲナサシメサル方針ヲ取リツ、アリ本年中ニ於ケル病蟲害發生面積ヲ擧ク參考ニ資ス

(イ)水田ノ病蟲害發生面積

一點大螟蛾	九八三・一〇〇
泥 頁 蟲	二、〇二一・一七五
螟 蛾	七九・四〇〇
ムネアカヨロバイ	一〇・三五〇
縱葉捲蟲	八・五〇〇
二帶小夜蛾	〇・七〇〇
小青花盜蟲	〇・三三〇
鐵甲蟲	〇・一五〇
稻熱病	一・〇〇〇
計	三、一〇四・七〇五
(ロ)畑ノ病蟲害發生面積	
二點鈞翅	一九五・〇〇〇
二點螟蟲	四二・〇〇〇
波尺蠖蟲	三六・〇〇〇
カクモンハマキ	三四・〇〇〇
イモサルハマシ	三〇・〇〇〇
葉洞萎病	一八・〇五〇
蝶 帖	一・〇〇〇
條 螟 蟲	七・二〇〇
甘蔗白蟻	〇・八〇〇
圓介殼蟲	〇・五〇〇
ヒメ黒介殼蟲	〇・五〇〇
綿吹介殼蟲	〇・二〇〇
天 牛	〇・二〇〇

第一編 農業 第七章 獸疫及病蟲害

總計 〇・一〇〇
三七五・四五〇

宜蘭廳報告

害蟲驅除豫防概況 本年第一期作ニアリテハ苗代期間ニ於テ害蟲巡視員ヲシテ當業者ヲ指導シテ害蟲驅除ヲナサシメタルカ本田移植後ニ於テ例年被害アル泥頁蟲、鐵甲蟲モ本年ハ發生僅微ナリシテ以テ隨時巡視員警察官吏ニ協力驅除督勵ニ當ラシム第二期作ニアリテハ螟蟲類ノ發生比較的多カリシモ其ノ被害極メテ僅微ナリシ宜蘭製糖工場ニ於テ輸入セル蔗苗ハ利澤簡壘蘇灣庄ニ栽培セルカ發芽後點檢スルニ點々鳳梨病ノ被害アリシヲ以テ不發芽苗ハ全部掘取燒却セシメ其後注意ヲ怠ラサリシカ九月ノ候ニ至リ病徵ヲ呈スルモ漸ク多カリシヲ以テ該輸入蔗種全部ノ刈取後燒却ヲ命シ爾後一箇年間ハ該圃ニ蔗作セサル様取計ヘリ二月ノ候督府ヨリ技師久保隆三ヲ派遣セラレタルニ依リ直轄各支廳共各一日間警察官吏ヲ召集シ害蟲驅除豫防ニ關スル講話會ヲ開催セリ

新竹廳報告

甲、稻作害蟲驅除豫防 土地ノ狀況、害蟲ノ種類及分布狀態ヲ參酌シ臺灣害蟲驅除豫防規則ニ準據シ直轄及各支廳下ノ苗代及本田全部ニ對シ實施セシカ本田ニ於ケル害蟲ハ一點螟蟲、二化螟蟲、鐵甲蟲、泥頁蟲、浮塵子等ニシテ螟蟲類ニ對シテハ第一期作第二期作共心枯及白穗拔取燒却第二期苗代ニ於テハ燈火誘殺捕蟲網、捕殺採卵ヲ行ヒ鐵甲蟲、泥頁蟲、浮塵子ニ對シテハ被害葉ノ刈取燒却、成蟲捕殺及注油驅除等ノ方法ヲ施行セリ而シテ此等ハ警察官吏ト共ニ害蟲巡視員ヲシテ監督實行セシメ隨時殖産係員ヲシテ計畫實行及技術ニ關スル指導ヲ爲サシメタリ以上ノ外第二期苗代ハ坪別ノ便アル地方ニ集設セシメ害蟲驅除豫防ノ周到ナリシタリ當期中實施セシ稻作害蟲驅除豫防面積左ノ如シ

- 一、螟蟲類 二、四六八・〇〇
- 一、泥頁蟲 二、〇一一・三七・二〇
- 一、いぶのめいが 六八三・九三・〇〇

備考

- 一、鐵甲蟲 五八・〇〇
- 一、稻象蟲 一・一五

右ノ内螟蟲類ハ被害面積最大ナリシト雖坪當リ被害程度概シテ輕微ナリシヲ以テ收穫上大ナル影響ヲ及ボサ、リシカ如シ泥頁蟲ハ螟蟲類ニ次キ被害面積大ナリシモ是又坪當被害程度大ナラサリシハ幸ナリトス
いぶのめいがハ後端、苗栗、大湖、三叉河支廳下ニ發生シ被害程度鐵甲蟲ニ劣ラサリシカ如シ
鐵甲蟲ハ直轄及通霄支廳下ニ發生シ被害面積狭小ナリシモ坪當被害程度ハ當期發生害蟲ノ中ニテ最モ劇甚ナリシカ如シ
稻象蟲ハ直轄樹林頭庄ニ發生セシモ幸ニ面積狭小ニシテ大害ナキ内ニ驅除ノ目的ヲ達セリ
乙、柑橘害蟲驅除豫防 介殼蟲類ノ發生近來頗ル増加シ且ツ蔓延ノ傾向ヲ認メタルヲ以テ之カ撲滅ナ期シ普ク當業者ヲ勸誘シ器具ヲ農會ヨリ貸與セシメ青酸瓦斯燻蒸並液驅除法ニ依リ之カ實施ニ努力セリ當期中驅除ヲ實施セシ柑橘類本數左ノ如シ

(一)青酸瓦斯燻蒸ヲ行ヒタル本數

- 直轄 四、四〇〇本
- 新埔支廳下 一、二二〇本
- 樹杞林支廳下 三、〇七八本
- 北埔支廳下 一、一二七本
- 大湖支廳下 一、六九八本
- 計 一、四二五本

(二)藥液驅除ヲ行ヒタル本數

- 同上各支廳直轄下 二、五〇〇本

第一編 農業 第七章 獸疫及病蟲害

總計 11,500本
13,925本

丙、甘藷害蟲驅除豫防 當期中客雅庄浸水庄ノ一部ニ「さつまいもめいが」發生セリ本害蟲ハ從來年々多少ノ發生アリシナランモ其ノ被害劇甚ナラサリシヲ以テ之カ發見ノ機會ナカリシモノト思料セラル當期被害面積ハ約二甲歩ニシテ被害蔓ハ全部薊取り焼却シ全ク驅除ノ目的ヲ達シ得タリ

要スルニ當期ハ各地螟蟲類ヲ主トシテ其他前記各種ノ害蟲發生シ之カ驅除豫防ニ關シテハ多少ノ杞憂ナキニアラサリシモ侵害ヲ未前ニ豫防シ得タル外氣候適順ナリシヲ以テ一、二期ヲ通シ豐穰ナル收穫ヲ得タルハ實ニ意外トセシ處ナリ

臺中廳報告

(甲)稻ノ害蟲 廳下ニ於テ稻ノ害蟲トシテ年々被害ノ比較的甚シキモノハ螟蟲ニシテ之カ驅除用具ハ一般農民ニ準備セシメ第一期作ハ二月上旬ヨリ第二期作ハ七月中旬ヨリ三十日間驅除ヲ實施セリ苗代ニ於テハ點火誘殺ト同時ニ採卵ヲ勵行セシメタル結果第一期作ニハ殆ント認ムヘキ被害ナカリシモ第二期作ニ對シテハ幾分ノ被害アリ今之レカ驅除豫防ノ成績ヲ表示スレハ左ノ如シ

直轄及支廳別	切り取タル被害稻ノ莖數	採卵數
直轄	1,613,723	493,074
員林支廳	1,617,772	137,737
東勢角支廳	594,710	1,065
葫蘆墩支廳	2,676,228	3,990
北斗支廳	2,391,544	1

第一編 農業 第七章 獸疫及病蟲害

支廳	被害稻ノ莖數	採卵數
彰化支廳	3,700,000	1,015
沙鹿支廳	6,331,110	3,133
大甲支廳	2,927,266	1,113
鹿港支廳	4,120,889	113
計	14,110,889	5,339,221

(乙)甘蔗害蟲 六月上旬烏日溪兩岸ノ蔗園ノ一部ニ螟蟲發生セルヲ以テ直ニ耕作者ヲシテ被害莖ヲ切り取ラシメ燒却シタル結果甚シキ被害ヲ見サリキ又北斗支廳下北斗庄ノ一部ニ名稱不明ノ金龜子蟲發生シタルヲ以テ二硫化炭素ノ地下注射ヲ行ヒ絶滅セシムルヲ得タリ

(丙)想思樹ノ害蟲 員林、北斗、東勢角、葫蘆墩各支廳下ノ想思樹ニ點々綿吹介殼蟲發生セシヲ以テ專ヲ敵蟲「へだりや」ノ放飼繁殖ニ努メタル結果殆ント全滅スルヲ得タリ

南投廳報告 害蟲驅除豫防ニ就テハ年々之レカ督勵ヲ怠ラス本年ニ於テモ害蟲巡視員三名ヲ直轄及埔里社、林地埔兩支廳ニ配置シ常ニ害蟲發生ノ有無ヲ巡視セシメ之レカ發生アルトキハ警察官吏ト共ニ之レカ驅除豫防ヲ監督勵行セシムルニ努メシモ本年中多大ノ害蟲發生ナクシテ經過シタリ

嘉義廳報告 害蟲驅除豫防巡視員ヲ廳及支廳ニ配置シ各擔當區域ヲ定メ常ニ其區域内農作物病蟲害發生ノ有無被害ノ狀況ヲ調査セシメ同時ニ之レカ驅除豫防法ノ指導獎勵ノ任ニ當ラシメタリ

(甲)稻作害蟲驅除豫防

第一編 農業 第七章 獸疫及病蟲害

第一期作ニ於テハ一點螟蟲發生セルモ大ナル被害ナカリシカ第二期作ニ於テハ浮塵子、一點螟蟲及稻縱葉卷蟲等發生シ恰モ七月中旬ノ浸水ノ害ヲ受ケタル稻田ハ少カラサル被害ヲ受ケタルモ直ニ驅除豫防ニ努メタル結果大ナル蔓延ナカリキ本年中ニ實行セシ面積左ノ如シ

一點螟蟲	四、二七一甲
浮塵子	九一六甲
稻縱葉卷蟲	五九甲
計	五、二四六甲

(乙)甘蔗害蟲驅除豫防

近來各種害蟲ノ漸次蔓延スルノ狀況ナルヲ以テ前年ト同一方法ニヨリ之レカ縣實驅除ヲ施行セリ其區域ハ廳下新式製糖會社原料採取區域内ヲ主トシ其種類ハ蔗龜、黃色螟蟲、二點螟蟲、條螟蟲トス

驅除期間ハ四月二十五日ヨリ七月三十一日迄トシ此面積二萬五千三百九十九甲採取害蟲數四千二百八十二萬五千九百八十七匹ニシテ一甲平均一千四百二十二匹ナリ

(丙)柑橘類害蟲驅除豫防

近來柑橘園ノ増加ニ伴ヒ之レカ病蟲害モ自然蔓延ノ狀況ニシテ就中各種介殼蟲天牛ヲ主トス故ニ此等ノ害蟲驅除豫防ニ關シテハ廳員及害蟲驅除豫防駐在員ヲ常ニ注意指導セシメツ、アリ

(丁)其他

嘉義街外二三地方ノ相思樹及柑橘類ニ於テ綿吹介殼蟲ノ發生ヲ認メ直ニ敵蟲「ベダリヤ」驅蟲ヲ放飼シタルニ其效顯著ニシテ何レモ被害僅少ニ過サリキ

臺南廳報告

(甲)甘蔗蔗菌病ノ防除ハ前年ニ始マリ大目降方面約三方里ノ地域ヲ劃シテ本病ノ撲滅ヲ圖リタル結果其效顯著ニシテ殆ント絶滅ニ歸シタルモ一地方ニ殘存セルモノ再ヒ蔓延シ病菌ノ飛散意外ノ地ニ及ヒ事態前年ニ讓ラサル狀況ヲ呈シタルヲ以テ廳令第二號ヲ發シテ十六堡里三十一街庄ニ於ケル七百九十五甲ノ蔗園ニ對シ之カ驅除豫防施行方ヲ示達シタリ即本年一月ヨリ三月末日迄ニ驅除施行ヲ終リタルカ本病發生地域ハ採苗ヲ禁シタル爲メ其耕作者ニ對シテハ特ニ蔗苗費一甲ニ付二十五圓ノ割合ニテ下附セラレ之ヲ救濟スルヲ得タリ以上ノ如ク第一次ノ計劃ヲ終リタルモ尙再發ヲ慮リ極要ノ地十三箇所ニ專務巡視員ヲ配置シ嚴重ニ監視警戒セルカ四月下旬ニ至リ果然二三地方ニ發病シ引續キ六月ノ豪雨ハ亦發病區域ヲ擴大シタルモノ、如ク十一月末ニハ遂ニ蔓延シテ二十堡里四十六街庄ニ亘リタルヲ以テ本廳ハ冬期甘蔗ノ收穫期時期シ一舉シテ之カ撲滅ヲ劃策シ更ニ廳令第四號ヲ發シテ嚴重ナル驅除ノ勵行ヲ示達シタリ

(乙)甘蔗害蟲驅除

總督府ノ計劃ニ基キ施行セルモノニシテ本廳ハ四月二十九日廳令第一號及告示第四十二號ヲ發シテ之カ施行ヲ示達セリ之カ實行ハ五、六、七ノ三箇月間蔗農ヲシテ採蟲セシメタルカ其數實ニ四千二百二十九萬餘匹ニ達シ最初豫定一甲當採蟲二千五百匹ナリシニ對シ二千七百七十餘匹ノ好成绩ヲ擧ケタリ採蟲五十四匹毎ニ抽籤票一枚ヲ發行シ九月一日抽籤施行賜賞金總額六千六百五圓ヲ夫々當籤蔗農者ヘ交付シタリ

(丙)稻作害蟲驅除

一點螟蟲主ナルモノニシテ浮塵子、縱葉卷蟲之ニ亞ク螟蟲ハ苗代期ニ採卵、捕蛾ノ驅除ヲ行ヒ本田ニ於テ更ニ採卵、捕蛾心枯及枯穂ノ採取驅除ヲ施行シ特ニ被害劇甚ナル地方ニ對シテハ被害跡株ノ掘取燒却ヲ行ハシメタリ

浮塵子ハ重ニ第二期作田ニ發生シ其ノ被害亦尠ナカラサルヲ以テ注油驅除ヲ行ハシメタルカ其ノ施行時期宜シカリシ爲メ

第一編 農業 第七章 獸疫及病蟲害

一 蠶ニシテ殆ント全滅スルヲ得タリ

稻稈葉卷蟲モ第二期作ノ初期ニ被害ヲ被リタル地方アリ竹橋其ノ他ノ方法ヲ以テ之カ驅除ヲ勵行シタリ

(丁) 害蟲講話

主トシテ警察官吏ニ對シ害蟲驅除執行上ノ智識ヲ與フル爲メ總督府派遣ノ講師ニ依リ二月十三日ヨリ十三日間各支廳ニ巡回講話ヲ開催セリ

(戊) ベダリヤ蠶蟲ノ放飼

臺東廳報告

臺南市附近ノ樹木ニ前年來綿吹介殼蟲ノ發生アリシ爲メ蠶蟲ベダリヤ蠶蟲ヲ放飼セルニ本年中ニ殆ント全滅スルヲ得タリ
設置以來時々病蟲被害物ニ付實地ニ驅除ノ方法ヲ指導スルト同時ニ之カ爲メ收穫上ニ及ホス利害關係ヲ説示セシメタル結果近時漸ク一般害蟲驅除豫防ノ必要ナルヲ會得シ本年度ニ於テハ水稻、甘蔗、柑橘、蔬菜其他病蟲被害ノ場合ハ其程度最寄警官ニ申告スルノ好運ニ向ヒ特ニ著シク驅除ノ效果ヲ奏シタルハ昨年一時甚シキ被害ヲ受ケタル綿吹介殼蟲ノ如キハ蠶放飼以來今日ニ至ルモ其發生ヲ見サルハ全ク驅除ノ結果ニ依ルモノナリトス

第八章 農會

第一節 農會ノ沿革

臺灣ノ農會ハ明治三十三年九月元臺北縣三角湧ニ設置シタルヲ嚆矢トシ三十四年三月新竹ニ同年

五月和尙洲ニ三十五年六月彰化ニ於テ之カ成立ヲ見ルニ至レリ然レトモ三角湧及和尙洲ノ兩農會ハ三十四年十一月ニ於ケル地方官々制改正以來殆ント自然ノ消滅ニ歸シタリ故ニ現今存在セル農會中起原ノ最モ古キモノハ新竹廳農會ナリトス亞テ三十六年以來本島農業界ノ趨勢ハ益々農業團體創設ノ必要ヲ訴フルニ至リ同年一月鳳山農會成立シ二月臺南廳下ニ於テハ安平、噍吧哖三月ニハ關帝廟、大年、灣里、大目降ノ六農業組合成立セシモ後チ此等ヲ合併シテ臺南廳農會ト稱シ同年三月阿緞ニ四月深坑、六月桃園、七月臺北、十二月臺中ノ五廳下ニ農會ノ設立ヲ見ルニ至レリ本島ノ農業界ハ茲ニ俄然トシテ一新生面ヲ開キ翌三十七年一月恒春、四月嘉義、五月宜蘭、八月斗六ノ四農會成立シ三十九年六月蕃薯寮及同年十二月苗栗ノ兩農會成リ四十年十月鹽水港農會新タニ成立シ四十一年十月南投農會ノ設置ヲ見ルニ至レリ當時各農會ハ經費ノ乏シキ爲メ事業ノ經營意ノ如クナラス殊ニ經費賦課ノ標準ニ至リテハ人頭又ハ地租及家畜ニ據リ區々一定スル所ナカリシカ明治四十一年一月ニ至リ彰化農會ハ一大改革ヲ行ヒ廳下ノ農業者ヲ悉ク網羅シテ之カ會員タラシメ會員中業主及典主ニ限り地租三十分ノ一ヲ徵收シ且ツ之カ徵收ヲ地方廳稅務課ニ委託シテ徵收上ノ便宜ヲ計リシニヨリ各農會又多クハ之ニ倣フニ至リ爲メニ農會ノ經費ハ非常ノ膨脹ヲ爲シ久シク抑制ヲ加ヘラレタル諸般ノ事業モ初メテ勃興スルニ至レリ更ニ四十一年度ニ於テ會費徵收率ヲ地租二十分ノ一ニ高メ且ツ地方ノ事情ニ依リテハ別ニ右標準以外家畜ニ賦課シテ費途ニ充ツルモノアリ斯クテ農會ハ茲ニ一段

各廳農會創立年次及其變更遷

在現年四正大	治明 年三十四	治明 年二十四	治明 年一十四	治明 年十四	治明 年九十三	治明 年七十三
北 臺	北 臺	隆 基				
蘭 宜	蘭 宜					蘭 宜
園 桃	園 桃					
竹 新	竹 新					
中 臺	中 臺				栗 苗	
投 南	投 南		投 南			
義 嘉	義 嘉					六 斗 義 嘉
南 臺	南 臺			港水鹽		
緜 阿	緜 阿				黎薯蕃	
東 臺	東 臺	東 臺				春 恒
港蓮花						
湖 澎	湖 澎	湖 澎				

第一編 農業 第八章 農會

第一編 農業 第八章 農會

ノ發展進步ヲ遂ケ其ノ面目ヲ一新スルニ至レリト雖當時ノ農會ハ何等法規ノ依ル所ナク爲ニ活動上不便ノ點勘カラサリシヲ以テ四十一年十二月ニハ臺灣農會規則及施行規則發布セラレ既設ノ農會ハ悉ク四十二年四月一日ヨリ同規則ニヨリ設立シタルモノト看做サレ更ニ同年四月基隆、七月臺東ノ二農會設立セラレタリ然ルニ同年十月ニ於ケル地方官々制ノ改革ト共ニ臺灣農會規則施行規則ニ改正ヲ加ヘ地方廳ノ廢合ニ伴ヒ廳農會モ亦併合セラレ既設十九農會ハ臺北、宜蘭、桃園、新竹、臺中、南投、嘉義、臺南、阿緜及臺東ノ十廳農會トナリ四十二年六月ニハ澎湖廳農會、大正四年一月ニハ花蓮港廳農會設立セラレ茲ニ全島各廳何レモ農會ノ設置ヲ見ルニ至レリ爾來各廳農會ノ基礎ハ益々鞏固トナリ今ヤ本島農會ハ總督府ノ施設經營ト相俟テ地方農政上ノ助長機關トシテ専ラ農林業改良上指導獎勵ノ任ニ當レリ左ニ參考トシテ各廳農會創立年次及其遷變ヲ表記セシ

治明 年六十三	治明 年五十三	治明 年四十三
北 臺		
坑 深		
園 桃		竹 新
中 臺	彰 彰	
南 臺		
山 鳳		
緜 阿		

第一編 農業 第八章 農會

第二節 農會ノ經費

農會ノ經費ハ地租二十分ノ一ヲ主ナルモノトシ地方ニヨリテハ更ニ家畜ヲ標準トシテ會費ヲ徵收シテ以テ之ヲ支辨ス今明治四十二年以降ノ經費ヲ記スレハ左ノ如シ

農會名	年度別				
	明治四十二年 度決算額	明治四十三年 度決算額	明治四十四年 度決算額	大正元年度 決算額	大正二年度 決算額
臺北廳農會	一五、六九二	一六、五四九	四五、四二六	四一、七二九	四七、二四四
宜蘭廳農會	九、六九二	一一、一三七	二一、八七八	二〇、六四五	二二、四三六
桃園廳農會	一八、二四二	二一、〇八四	二七、六〇〇	二八、九七八	二八、三三九
新竹廳農會	二八、二五五	二二、二〇五	三〇、九二四	三二、九六二	三九、四七〇
臺中廳農會	四三、九一六	六二、四〇五	七九、二八九	六九、六九二	五五、八〇五
南投廳農會	一〇、六四六	一八、一五	一八、三〇五	一七、八一	一九、四四三
嘉義廳農會	四四、八八〇	八四、九七四	九〇、六二二	七〇、四四三	七七、六三八
臺南廳農會	五七、八四〇	七〇、四一九	六八、五〇八	六九、五一一	六六、二三三
阿緞廳農會	三九、八三八	三三、一一五	四六、一〇七	三九、二四二	三六、七四〇
臺東廳農會	二、一一七	四、二四三	一三、一〇七	六、二九二	五、六七六
澎湖廳農會	二七、一八〇	一〇、七三三	一、八二〇	一、九七二	一、八四〇
計	二七、一八〇	三五四、三二九	四四三、六八六	三九九、二七八	四〇二、一六四

第三節 農場ノ經費

各廳農會ハ農場ヲ所有シ其地方ニ必要ナル農作物ノ試作種苗ノ養成及耕作上ノ模範ヲ示シツ、アリ而シテ大ナル農場ヲ有スルハ臺中、嘉義、臺南、阿緞ノ四農會ニシテ新竹及嘉義廳農會ニ於テハ模範柑橋園ヲ置キ臺北廳農會ハ他廳農會ニ於テ見サル桑園及養蠶室ノ大ナルモノアリ阿緞廳農會ニアリテハ主ニ稻ノ試作田ヲ所有ス今各廳農會ノ農場面積及農場ニ於ケル試作及作業ノ重ナル項目ヲ舉クレハ左ノ如シ

農會名 農場面積

臺北廳農會 七、六九七

宜蘭廳農會 五、一〇〇

新竹廳農會 一、九三七五

臺中廳農會 九、二〇〇

南投廳農會 四、七九八

重ナル試驗事項及栽培植物

内譯、柑苗養成二〇〇〇〇、桑園及桑苗養成五、二〇〇〇、作物試作〇。

試驗又ハ試作事項柑苗養成及桑苗養成ヲナシ傍ラ優良ナル作物ニ付試作ヲナシ其成績ヲ見ルト共ニ採種シテ優良種ノ普及ヲ圖ル

水稻(兩期作共) 品種試驗 肥料用料試驗、窒素肥料比較試驗、三要素試驗、苗本數試驗、選種方法比較試驗、耕種方法比較試驗、三要素試驗、肥料用品試驗、草蓆大豆粕肥効試驗、落花生木灰加用試驗、甘蔗肥料用量試驗、補付本數試驗、煙草、草蓆、內地蔬菜類試作、柑苗養成、柑橋母樹園、桑苗養成、桑園

附屬柑橋園、附屬桑園、附屬果苗養成園

柑橋類、桑樹ノ模範栽培、枇杷、柿及樹苗養成、苧蕉、鳳梨、牧草、葡萄ノ試作

水稻試作、特用作物試作、蔬菜試作、柑橋園、桑園、甘蔗試作、樹苗養成

重ナル試驗事項及栽培植物

水稻試驗及試作、柑苗養成、粘木養成及接木、桑苗養成、牧草試作、補試作、內地種蔬菜試作、黃麻試作、煙草試作、甘蔗試作、茶樹栽培、桑樹種類、試驗及試種、陸稻肥料試驗、糞肥試驗、柑橋肥料試驗及間作試驗

第一編 農業 第八章 農會

嘉義廳農會	一六、六四二五
臺南廳農會	一五、八五三五
阿緞廳農會	四、五三三〇
臺東廳農會	五、八〇〇〇
澎湖廳農會	一、一八〇〇

第四節 米作改良

米作改良ハ本島主要ナル事業ニシテ其主ナルモノハ米種改良事業、模範田設置、共同苗代獎勵等トス

第一米種改良事業 品質ヲ改良シ産額ヲ増加スル目的ヲ以テ明治四十三年度ヨリ實地ニ着手シタル本事業ハ各廳四箇年ヲ以テ之カ遂行ヲ圖リ大正二年中臺中ニ於テ其一部成績ヲ見ルニ至レリ今開始以來補助金トシテ下附シタル金額ヲ表記スレハ左ノ如シ

第一編 農業 第八章 農會

農會別	年別	明治四十三年	明治四十四年	大正元年	大正二年	計
臺北廳農會				八、五〇〇	九、〇〇〇	一七、〇〇〇
宜蘭廳農會					八、五〇〇	一七、〇〇〇
桃園廳農會					五、八〇〇	五、八〇〇
新竹廳農會				七、一七〇	一〇、八〇〇	一七、九七〇
臺中廳農會		一三、八七七	一〇、〇〇〇	一七、九三〇	一一、〇〇〇	六三、八〇七
南投廳農會			三、八一〇	五、二八二	五、四〇〇	一四、四九二
嘉義廳農會			六、二〇〇	八、七八三	一〇、五〇〇	二五、五八三
臺南廳農會			六、二〇〇	八、七八三	一〇、五〇〇	二五、五八三
總計		一三、八七七	三六、四一〇	五六、四四八	七二、五〇〇	一七九、二三五

大正元年年報ニ報告セシ以後限定セル臺北、宜蘭、桃園、新竹及阿緞ニ於ケル米ノ品種名左ノ如シ

一、臺北廳管内限定品種

應下ヲ通計シタル總品種ハ二十五種ニシテ内水稻第一期作十三種(粳米八種糯米五種)水稻第二期作十種(粳米八種、糯米二種)陸稻第二期作二種(粳米二種)ニシテ其種名次ノ如シ

(イ)第一期作水稻粳米

- 短廣花螺、 低脚花螺、 梗尾花螺、 小鳥殼、 白尾葱、 內地種、 高脚花螺、 大鳥殼、

試驗試作項目水稻品種試驗、内地種稻ノ試作、看天田裏作、綠肥、苦、麥試作、普通特用作物試作、蔬菜類試作、桑苗養成、造林用樹苗養成、有用樹苗養成
 棉花、サイザル、其他特用作物ノ試作、蔬菜、果樹、花卉ノ試作、水稻、備後
 蘭ノ試作、桑樹試作、桑苗養成、鳳梨試作、模範文目園、柑苗養成
 第一期作肥料配合試驗、綠肥鋤込期試驗、綠肥播種法試驗、過燻醱施用法
 試驗、稻密植試驗、内地播種期對鋤込期試驗、内地種品種試驗、三要素試驗
 三要素適量試驗、肥料分級試驗、第二期作肥料配合試驗、外アシアハラ草
 試作、桑樹栽培、桑葉試驗、桑樹栽培、草棉試作、牧草試作、甘蔗
 栽培、蔗苗選擇效果試驗
 稻作模範田、同試作田(合種、播種、除雜、肥料用量、耕動深淺ノ各試驗)柑
 苗養成、模範柑園、甘蔗栽培、模範蔗園、試驗蔗園、模範蔗園、模範蔗園、平植
 試驗、模範同穀、耕動深淺ノ各試驗(模範蔗園、模範蔗園、模範蔗園、模範蔗園)
 落花生、高粱、黍、玉蜀黍、粟、甘藷ノ品種試驗、綠肥牧草ノ適否試驗
 桑樹試驗、甘藷、黃麻ノ試作

- (ロ) 第一期作水稻糯米
 - 竹、絲、日本朮、赤殼、白朮、芒花、
 - (ハ) 第二期作水稻糯米
 - 下、縣、小格仔、大格仔、含葉格仔、清流、水、蛋、白殼金猴、
 - 花殼金猴、
 - (ニ) 第二期作水稻糯米
 - 鷺、蛋、赤殼、
 - (ホ) 第二期作陸稻糯米
 - 員、粒、蕃、種、
- 二、宜蘭廳管內限定品種
- 應下ヲ通計シタル總品種ハ二十二種ニシテ内水稻第一期作九種(粳米七種、糯米二種)水稻第二期作十種(粳米九種、糯米一種)水稻澁仔作(粳米三種)ニシテ其種名次ノ如シ

- (イ) 第一期作水稻粳米
- 高脚柳粉、下脚柳粉、白殼軟枝、烏殼軟枝、烏種、尾、張、花、螺、
- (ロ) 第一期作水稻糯米
- 束脚朮、芒花朮、
- (ハ) 第二期作水稻粳米
- 青稿岸、白粉、黃尖、菊仔、青稿堅、三貂、青稿尖、
- 下脚岸、高山、
- (ニ) 第二期作水稻糯米
- 烏殼朮、

- (ホ) 澁仔作水稻粳米
 - 白米金猴、青稿岸、大伯姆、
- 三、桃園廳管內限定品種
- 應下ヲ通計シタル總品種ハ三十三種ニシテ内水稻第一期作十七種(粳米十一種、糯米六種)水稻第二期作十六種(粳米十一種、糯米五種)ニシテ其種名次ノ如シ
- (イ) 第一期作水稻粳米
 - 清油、烏殼花螺、火燒烏尖、赤骨、烏尖、粳尾、低脚花螺、
 - 低脚烏尖、白殼花螺、胞粟花螺、中脚花螺、
 - (ロ) 第一期作水稻糯米
 - 白殼、紅脚、芒花、暹羅、竹絲、金包銀、
 - (ハ) 第二期作水稻粳米
 - 高脚格仔、蕃仔、霜降早、金猴、低脚格仔、柳草格、朮仔變、
 - 下、縣、岸、仔、晚三杯、唐山、
 - (ニ) 第二期作水稻糯米
 - 鷺、卵、軟枝鷺卵、火燒、烏殼、青稿、
- 四、新竹廳管內限定品種
- 應下ヲ通計シタル總品種ハ七十三種ニシテ内水稻第一期作三十一種(粳米二十二種、糯米九種)水稻第二期作四十二種(粳米三十種、糯米十二種)ニシテ其種名次ノ如シ
- (イ) 第一期作水稻粳米

- 鳥 粘、火燒鳥粘、半高矮鳥粘、清油、白米粘種、紅脚鳥粘、花螺、白米粉、下脚鳥粘、正鳥粘、蟻公包、青脚清油、高脚鳥粘、下脚花螺、白殼耳、雷糰、赤米粘種、低脚花螺、軟枝鳥粘、紅早、高脚花螺、南路早、
- (イ) 第一期作水稻糯米
芒花、白糯、日本糯、紅脚、紅殼、鈕花、矮脚、馬尾西、莖花、
- (ハ) 第二期作水稻糯米
包心糰、蕃仔、晚清油、糰仔、清油菊、大葉糰、晚仔、烏踏、合葉清油、菁種、天來、青果粘、細葉糰、田缺、矮脚蕃仔、齊仔、霜降早、早清油、紅毛糰、撐仔、圓粒、金猴、大粒糰、合葉格仔、田唇早、糯擇、圓葉、五枝齊、黃菓仔、潤種、
- (ニ) 第二期作水稻糯米
赤殼、牛麻叫、青葉、虎頭、青稿、軟葉、烏鼠牙、蕃麥花、紅花、葉下桃、含胎、埔社、
- 五、阿嶺應管內限定品種
應下ヲ通計シタル總品種ハ二十六種ニシテ内水稻第一期作十一種(粳米十種、糯米一種)水稻第二期作十二種(粳米十一種、糯米一種)ニシテ其種名次ノ如シ

廳別	一期作		二期作		中間作		陸一期作		陸二期作		漁仔作		計	
	粳	糯	粳	糯	粳	糯	粳	糯	粳	糯	粳	糯	計	計
臺北	八	五	九	一	一〇	一〇							一八	七
宜蘭	七	二	九	一	九	一〇							一八	七
桃園	二	二	一	一	一	一							三	一
新竹	三	三	三	一	三	三							五	二
臺中	六	一	七	三	三	三							九	五
計	二二	一三	二七	六	二二	二二							五〇	二二

此方法ニテ限定セラレタル品種數ハ全島ヲシ通シテ四百六十二種ニシテ廳別トシテ記スレハ次ノ如シ

米種改良品種數調

(イ) 第一期作水稻粳米
清油、紅脚、虎皮花、菁果占、楠仔仙、瑯瑤、員粒、通關、烏粒、紅脚變、烏殼白葉、

(ハ) 第二期作水稻糯米
水柳、烏占、朮變、白殼埔占、朮舊、白殼、菁果占、員粒、烏咬來、大朮變、烏殼埔占、

(ニ) 第二期作水稻糯米
白朮、白殼埔占、早仔、烏殼埔占、

(ホ) 第二期作陸稻粳米
白殼埔占、

計	南		嘉		臺		阿	
	投	義	南	南	南	南	南	南
一六三	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
五二	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二二四	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
一七五	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
八五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二〇	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
陸水	陸水	陸水	陸水	陸水	陸水	陸水	陸水	陸水
二二	六	六	六	六	六	六	六	六
三〇	四	四	四	四	四	四	四	四
二	九	九	九	九	九	九	九	九
二	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二	三	三	三	三	三	三	三	三
二	五	五	五	五	五	五	五	五
三	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	四	四	四	四	四	四	四	四
三	五	五	五	五	五	五	五	五
三	六	六	六	六	六	六	六	六
三	七	七	七	七	七	七	七	七
三	八	八	八	八	八	八	八	八
三	九	九	九	九	九	九	九	九
三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
三	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
三	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
三	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
三	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
三	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
三	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
三	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
三	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
三	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
三	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三
三	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
三	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
三	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
三	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
三	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
三	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
三	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一	三一
三	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
三	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四
三	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
三	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
三	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
三	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八
三	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
三	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇

此米種改良標準米ト在來米トヲ比較スル爲メ南投農會ニテ生産シタル大正三年第一期作米ノ評價ヲ臺北米穀商ニ依頼セシニ臺北渡シ新袋入百五十斤ニシテ評價左ノ如シ

種別	三井物産株式會社臺北支店調		津阪商行調	
	百五十斤入	一石トシテ	百五十斤入	一石トシテ
在來米	六・一〇〇	九・四二〇	六・一〇〇	五・二七〇
改良米	六・五五〇	九・九五〇	六・三五〇	九・六五〇
改良ニヨル利益	〇・四五〇	〇・五三〇	〇・二五〇	〇・三八〇

斯クノ如ク改良米ノ較差アルハ在來米ニ比シ赤米不熟米ノ混入無ク粒形揃ヒ碎米ナク精白ニ搗滅少ナキノ利アルカ故ニシテ全島産米約五百萬石ノ改良後ニ於ケル利益ヲ算スルトキハ實ニ驚クヘキモノアラン

第二模範田 臺北、桃園、新竹廳農會ニ見ル處ニシテ廳農會ニ於テ必要ナル地點ヲ選定シテ之カ栽

培ヲ監督シ特ニ肥料ノ増施ニヨリテ隣接普通田ニ比シ利益ノ大ナルモノアルヲ示シツ、アリ特ニ桃園廳ノ如キハ其效顯著ナルモノアリ同地ニ於ケル米作改良上農業者ノ注意ヲ惹キツ、アリ第三共同苗代 害蟲其他苗床ノ管理上獎勵シツ、アル共同苗代ハ鹽水選種ノ獎勵ト相俟チテ各地ニ實行セラレ第一期作ニアリテハ中部以南ノ地方ニ特ニ其盛ナルモノアルヲ見ル

主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ
臺北廳報告 米作模範田ハ前數箇年ニ亘レル試作田ノ成績ニ基キ耕作法ノ改良ヲ誘導セン爲メ十九箇所面積九甲五分ヲ施設セシニ其成績ハ地方ニ依リ差異アリト雖其大部分ハ附近在來水田ニ比シ非常ニ好成績ヲ擧ケ約三割ノ增收ヲ示シタリ而シテ本事業ハ既ニ三箇年ヲ經過シ略其目的ヲ達シタルノミナラス本期ヨリ米種改良事業ニ著手スルコト、ナリタルニ依リ本年第二期作ヨリ之ヲ廢止シタリ

宜蘭廳報告 (一)米種改良 繼續事業ニシテ本年ハ各農區共ニ限定セル原種ノ育成ニ任ス其期作別育成量左表ノ通

第一期作	三・四四・二三
遊仔作	九八・三七
第二期作	一七〇・三七
陸稻	一・五二

(二)地方試作田
(イ)肥料試驗 兩期作ヲ通シテ廳下各所ニ計二十箇所ノ試作田ヲ設置シ分當二圓五十錢内外ノ見當ヲ以テ慣用肥料ニ大豆粕及過燐酸石灰ヲ加用セシムヘク之ヲ配與試作セシメタルカ其成績隣接田ニ比シ甲當平均第一期作ニ於テ二石四斗七升第一編 農業 第八章 農會

第一編 農業 第八章 農會

二期作ニ於テ三石六斗八升ノ増收ニシテ當業者亦其ノ肥効アルヲ驗シ本年ニ入りテハ本田施肥ノ習慣ナカリシニ拘ハラズ
進メテ之ヲ行ハントスルモノアルニ至レリ

又廳下四圍墾ノ一部ハ鹽基性土質ニシテ年々作柄不瓦ナルモアリシヲ以テ過燐酸石灰ノ單用試驗ヲ二箇年繼續實施セル
カ其ノ成績普通田ニ比シ試驗田ハ甲當増收前年六石四斗本年三石一斗ニシテ種實ノ重量亦重シ之レ土性緩和ノ効アルニ依
ル而シテ本年ノ收量前年ニ及ハサルモノアルハ本年ハ雨水潤澤ニシテ土壤洗淨ニ依リ被害ヲ輕カラシメタルニ依ルナラン
(ロ)赤米試驗 廳下一部ノ地ハ海水浸入シテ赤米ニアラサレハ栽培シ能ハストスルモノアリサレハ之カ適種ヲ發見シ赤米
ヲ根絶セシムヘク本年亦高山種水蛋種ヲ試作シタルニ概シテ成績良好ナリシモ尙ホ試驗ヲ重ムルニアラサレハ未ダ以テ適
種トナシ難キモノアレハ繼續實施ノ答

(三)鹽水選種 實施ノ方法等凡テ前年ニ同シ而シテ其ノ成績左ノ如シ

農 區 別	選種場數	選種石數	浮合歩合	使用食鹽量	參集人員
宜 蘭	三七	1,010.99石	0.81	八九三三	二三七五
頭 東	一六	403.13	0.81	四四五五	一一一五
羅 園	一四	1,633.33	0.64	一四〇二	五八〇
叭 哩	10	310.39	0.55	二二九一	六七一
計	七七	1,977.84	平均 0.61	一七、七七一	四、七三九

(四)集合苗代試設 前年度同様ノ方法ニ依リ各支廳下ニ二箇所宛試設シ以テ集合ノ場合ニ於ケル稀植ノ早晚苗代供用地
ノ地代等ニ付調査スル處アリシ

新竹廳報告 米作改良

(甲)第一期作 基本調査トシテ一月中旬旬水稻種兩種ニ付農家各戸ノ所要播種量ヲ調査シ最良品種ノ限定ヲ爲セリ即限定品
種數及播種所要量左ノ如シ

種 別	限定品種數	播 種 量
粳	七一	六四八九・三四石
糯	二九	三、四九六・七九
計	100	六八三八・一三

品種ノ限定ニ就テハ充分ノ考覆ヲ遂ケ可成内地種ニ近似セル優良ノモノヲ選定セリ
播種ハ各種毎ニ嚴密ナル播種ヲ實行セリ

(乙)第二期作 第一回蕃殖收穫及播種ヲ終了セシヨリ本同ノ播種ハ最後ノモノナルヲ以テ充分正確時期シ嚴重ナル監督
ヲナシ赤米種ノ發見ニ對シテハ一種一錢宛ノ獎勵金ヲ下付セシニ成績甚タ良好ニシテ所期ノ播種ヲ實行シ得タリト信ス
鹽水選種 本事業ハ數年來元苗栗廳下ニ於テ實行シ來リシカ本期ヨリ全廳下ニ獎勵實施セリ其成績左ノ如シ

第一期作播種數量 一、八六六・四〇二
第二期作播種數量 二、五五三・三七五

臺中廳報告

米種改良事業 本事業ハ明治四十三年六月ヨリ著手シ爾來何等ノ支障ナク一般農民ノ歡迎ヲ受ケ著々進行シツ
アルカ今其成績時期別ニ示セハ左ノ如シ

第一期作 本期作ニ對シ施行シタル事項ハ前年ニ於テ採收シタル原種ハ其數最多量ニシテ從來ノ管理入ノミニテハ播種不
第一期編 農業 第八章 農會

第一編 農業 第八章 農會

可能ナルヲ以テ更ニ適當ナル管理人ヲ増員シ技術員並ニ各囑託員立會ノ上在來ノ方法ニ依リ播種セシメタルカ地方ニ依リ前年内ニ播種ニ著手シタルモ大抵一、二月ノ候ニ於テ行ヒ三月中ニ全部ノ結了ヲ見タリ而シテ苗代ハ一般苗代ノ所要ノ一區劃ヲ拵ヘ播種セシモノアリ亦原種共同苗代ヲ設置シ原種ノミヲ播種シタルモノ等アリテ一定セスト雖モ何レモ苗床ト苗床トノ間ニハ境界ヲ設ケ異品種ノ混淆ヲ防止スルニ努メタリ播種後ニアリテハ周到ナル手入管理ニ怠リナカリシト天候順調ナリシニ依リ苗ノ發育佳良ニシテ一月下旬ヨリ播種ニ著手シ四月初旬ヲ以テ終了セリ而シテ爾後ハ時々技術員ヲ派遣シ肥培管理ニ努メタルモ七月ノ候暴風水害ノ襲來ヲ受ケ幾分ノ被害アリシモ豫定ノ通り原種ヲ採收スルヲ得タリ右採收シタル原種ハ事業ノ閑散ヲ見計ヒ十月下旬ヨリ交換ニ著手シ警察官及保正ノ職ニアル各囑託員ノ援助ヲ得テ十二月下旬遺算ナク終了スルヲ得タリ

原種交換ノ方法ハ前年ニ於テ調査シ置キタル第一期作々付面積並ニ品種別種別所望數量ニ對シ交付スルコト、シ更ニ交換料トシテ一般農家ヨリ二割ノ増歩ヲ出サシメシカ何レモ進ンテ原種ノ交換ヲ希望シ豫期以上ノ成績ヲ收メ終了スルヲ得タリ

第二期作 本期作用種類ハ第一期作ノ交換ト同様ノ方法ニ依リ前年ニ於テ交換セシメ置キシカ本年七月ニ於テ技術員並ニ囑託員立會ノ上全部之ヲ共同苗代ニ播種セシメ第二期作ニ對スル事業ハ殆ント遺憾ナク終結スルヲ得タリ播種即チ共同苗代ノ成績ハ別項ニ於テ記スルコト、シ本事業ノ實施ニ依リ第二期作米カ如何ニ改良セラレタルカニ付少シク叙セン

抑モ本事業ハ去ル明治四十三年第二期作ヨリ著手シタル前述ノ如クニシテ第一期作ノ成績ハ大正三年ニ至ラサレハ之ヲ知ル能ハサルモ第二期作ハ恰モ本年第二期作ヲ以テ事業ヲ完結シタルニ依リ其成績ヲ調査スルニ難敷ナル米ハ全ク統一セラレテ比較的純良トナリ就中本事業ノ主眼トスル赤米ノ除去ハ一部海岸地方ノ産米ニ多少之ヲ認ムト謂ヘトモ他ハ殆ント全ク除去セラレ品質ノ向上ト增收トハ疑フノ餘地ナキ事實トナレリ

共同苗代及共同苗代品評會 短冊形共同苗代ハ害蟲驅除ヲ完全ニ施行スル目的ヲ以テ廳下一圓ニ亘リ第二期作ニ對シ設置スルコト、ナシ第一期作水稻播種前位置ノ選定ヲナシ七月中ニ於テ播種ヲ了セリ其成績ヲ示セハ左表ノ如シ

共同苗代成績表

第一編 農業 第八章 農會

直轄及支應別	苗代數	苗代面積	共同者人員	播種石數	一箇所當リ平均	
					面積	播種石數
直轄	四八六	一、五三四三	五、五〇一	一、六五八、八六四	〇・二三八	三、四一三
彰化支應	二九三	七〇、三五〇	六〇、六五	一、二五九、八一〇	〇・二四〇	四、三〇〇
大甲支應	一四六	六八、四一八	二九、二七	八五、六〇〇	〇・四六九	五、八六三
北斗支應	一三三	三四、六七五	四、二二二	五三、八、七九六	〇・二六三	四、〇八二
鹿港支應	二三五	五〇、八二九	四、二九七	六五、三、四七二	〇・二一六	二、七八一
沙轆支應	一三二	六九、四三九	三五、九七	一、〇八二、九二六	〇・六三〇	八、二六七
員林支應	一七六	六六、三〇〇	五、三二一	七、八七、二五五	〇・三七七	四、四七三
葫蘆墩支應	四〇六	九二、九〇〇	二五、九四	一、二〇七、九〇〇	〇・二二九	二、九七五
二林支應	一三四	四二、六〇〇	一、九一九	四、八四、三八七	〇・三一一	三、六一五
東勢角支應	一八五	四一、八九九	一、七六五	四、六七、八一九	〇・二二七	二、五二九
平均	二、三二四	六五、二八五二	三八、二二六	八、九、九七、三三〇	〇・三三三	四、二三〇

共同苗代品評會ハ苗代ヲ完全ニスル目的ヲ以テ毎年第二期作ニ對シ施行シ來レリ本年ハ其第七回ヲ廳下一圓ニ亘リ二百二十三點ヲ選出出品セシムルコトヲ施行シタリシカ成績最良好ナリ

嘉義廳報告

稻作栽培 面積二町歩ヲ以テ之ニ宛テ米種改良事業ニ於テ限定セル數十種ヲ第一期作ト第二期作トニ分テ品種試驗ヲ行ヒ又第一期作内地種八種ヲ三回播種試作シ更ニ眞作試驗トシテ吾類ヲ試作ス内第二期作品種試驗ハ害蟲ノ爲メ目的ヲ達スルニ至ラザリシモ他ハ何レモ成績佳良ナリキ

鹽水澆種試驗 前年ニ繼續シテ施行セシニ漸次良好ナル成績ヲ收ムルニ至レリ即チ左表ノ如シ

期別	本年		前年	
	數量	人員	數量	人員
第一期	二、二五三石	一、三八八人	一、九四一石	一、三八四五人
第二期	二、六八五石	一、五三二九人	二、五三三石	一、四八七八人
計	四、九三八石	二、九二一三人	四、四七四石	二、八七三三人

共同苗代獎勵 米種改良事業ノ完成時期センカ爲メ嘉義廳ニ於テハ害蟲驅除ノ獎勵ヲ實行シツツアルヲ以テ其内優秀ナルモノヲ撰拔シテ一箇所平均十五圓ヲ標準トシテ獎勵金ヲ交附セリ其區域ハ中埔、竹頭崎、打貓、斗六、四螺、土庫、店仔口ノ七支廳下ニシテ第一期及第二期作ヲ通シテ計五十六箇所ナリキ

米種改良事業 普府廳米改良方針ニ基キ明治四十四年度ヨリ五箇年繼續ニテ施行ス本年第一期及中間作ノ一部ニ對スル第一回播種ヲ行ヒ又中間作ノ一部第二期作ニ對スル第二回播種ヲ了リ之ヲ一般農民ニ配付シ事業ノ一中ヲ完成セリ其次第左ノ如シ

(一) 中間作ノ一部 第二期作第二回播種耕作人ヲ選定シ第一回當時ト共ニ下種移植收穫ヲ嚴密ニセリ此收穫數量一萬三千石ナリ

(二) 稻種配布 第二回播種ヲ了リタル稻種ハ豫メ農民各自ノ所要數量ニ對シ交換法ニ依リ配付ヲ行ヒ各自ニ貯蓄保管セシメ技術員ヲシテ嚴密ナル監督ヲナサシメタリ

阿緞廳報告

阿緞廳下第二次米種改良ハ經費ノ都合上部分改良トナシ明治四十二年ヨリ四十四年ニ亘リ直轄及東港枋寮ノ兩支廳下ヲ結了シ明治四十四年ヨリ本年ニ亘リ阿里港潮州ノ兩支廳下ヲ結了シ改良區域ノ產米並ニ豫期ノ目的ヲ達シタリト雖

モ舊恒春廳及舊蕃薯寮廳ノ一圓ハ未改良區域ナルニ依リ廳下產米統一ノ目的ヲ以テ本年第一期作ヨリ著手セリ

第二次改良區域タル阿里港、潮州兩支廳下ニ設置セル種作田ハ九十四甲ニシテ之ヨリ千八百九十一石一斗ノ配付種採採取ノ豫定ナリシカ本年八月下旬ヨリ害蟲各地ニ發生シ頗ル猖獗ヲ極メ被害激甚ニシテ約二割一分強四百九十五斗ノ減收ヲ來シ豫定ノ種採得ル能ハス之カ不足額ハ第一次改良ノ種採中優秀ナルモノヲ代用シ配付種採ニ充ツルコトヲナシタリ

舊恒春廳下ニ於ケル第一期作ノ原々種採取ハ密粒外五種六斗五合ニシテ第二期作ノ原種ハ二十八石七斗ヲ採取シ之レニ要シタル種作田ハ四甲五分九厘ナリ舊蕃薯寮廳下ニ於ケル第一期作ノ原種採取ハ鳥殼外二種一石一斗七升二合ニシテ第二期作ノ原種ハ鳥殼外八種三十四石六斗ヲ採取シ之レニ要シタル種作田ハ二甲四分五厘ナリ而シテ陸稻ハ埔占外二種ニシテ種作田一甲二分ヨリ六石七斗六升ヲ採取シタリ

現行米種改良方法ハ主要米產地ニ對シ既ニ二回ヲ反覆シ赤米ノ除去及品種ノ統一畧其目的ヲ達シ得タルヲ以テ本年ヨリ更ニ歩ヲ進メ五箇年計畫ニ依リ廳下限定品種ニ就キ異種分離ノ法ヲ行ヒ收量多ク品質優良ナルモノヲ見出し改良普及計ヲシトス

共同苗代設置 從來設置セラレタル集合的共同苗代ハ一部人民ニ於テ共同苗代作業又ハ苗代設置方法ニ服從セス或ハ一時的事業ト思惟スルモノアルヲ以テ此等ノ惡風ヲ打破シ永遠ニ言實共ニ共同苗代タル美風ヲ馴知セシメンカ爲メ二十六條ヨリ成ル共同苗代組合ノ模範規約ヲ示シ二百四十五組合ノ設置ヲ見タリ來期ヨリ純然タル共同苗代ヲ現出シ作業其他ニ關シテハ農會ノ指導承認ヲ受ケシムルニ依リ米種改良並ニ害蟲驅除上ニ及ホス便宜一層大ナルヘシ

臺東廳報告 管内ヲ通シテ第二期作ノ植付少キ地方即チ巴聖衛支廳管内ニ於テ第一着手トシテ米作ノ主産地ヨリ稻種ヲ購入シ會員希望者ニ無償配付チ行ヒ植付ヲ獎勵シ收穫ノ際拔穂法ニ依リ健全ナル稻種ヲ精選シテ米種ノ統一ヲ計リ原種子トシテ一般管内ニ普及シツ、アリ

第五節 麥作改良

嘉義廳農會ニ於テ同廳下主ナル耕作地ニ模範園ヲ設置シ從來極メテ粗笨ナル栽培法ヲ集約的ニ改良スル範ヲ示サントシ其耕作ハ地方篤農家ニ依託シ種子及肥料ハ現品ヲ人夫賃ノ一部ハ現金ヲ以テ之ヲ補助シ其收穫物ハ耕作人ノ所得タラシメツ、アリ依託試作地一箇所ノ面積ハ大麥及小麥各一分宛ニシテ西螺、土庫、下湖口、樸仔脚、東石港、鹽水港ノ各支廳下ニ一箇所宛ヲ設置シテ之カ栽培ヲ指導シツ、アリ從來ノ耕作法ニ比シ成績良好ニシテ相當其效果ヲ奏シツ、アリ

第六節 蔗作改良

糖業獎勵方針ニ基キテ甘蔗種苗ノ撰擇栽培法ノ改良ヲ圖リ就中施肥ニ獎勵ヲナシ地方ニ依リテハ

模範園ヲ設ケ以テ一般蔗作者ヲ指導シツ、アリ

主ナル廳ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

宜蘭廳報告 製糖業者ヨリ蔗作ニ金肥施用獎勵ノ目的ヲ以テ費用ノ一部ノ寄附ヲ受ケテ蔗作地方ニ約二分當ノ試驗園ヲ設置シ

甲當基肥トシテ大豆粕七十五貫、糞灰百貫ヲ在來綠肥ニ加用セシメ追肥トシテ乙種調合肥料百貫、大豆粕七十五貫、過燐酸石灰三十五貫ヲ二回ニ分施セシメタルカ其成績平均收穫甲當十一萬三千餘斤ニシテ普通蔗園ニ比シ五萬餘斤ノ增收ナリトス而シテ金肥價額甲當八十餘圓ヲ算スルハ廳下ノ狀態ト懸隔甚シキノ據アルモ前數回當業者ノ標準タルヘキ價額ノ見當ヲ以テ同様設置シタルモノアルモ彼等ノ注意ヲ惹クコト淺カルヘキニ依リ設置箇所數ヲ減シテ斯クシタルモノニシテ金肥ノ効顯ヲ知悉セシメ漸次標準施用量ニ減量シタルモノヲ隨所ニ製糖場ヲシテ施設セシメントスルモノナリトス

新竹廳報告 金肥獎勵ノ目的ヲ兼テ施肥試驗ヲ行ヘリ其ノ成績左ノ如シ

試驗地方	一株本數	莖丈	一株斤量	甲當收量	施肥
中港	三五	六・三三	八	一五〇・六〇〇	面積二分ニ付大豆粕五玉過燐酸石灰一畝
後壠	四・四	八・二四	一四	一一三・一三〇	

臺東廳報告

近時糖業ノ勃興ニ伴ヒ集約的蔗作ノ必要ヲ認メ蔗園面積四甲步ヲ確定シ整地播種及施肥ニツキ模範的栽培ヲ行ヒ會員ニ其耕種法ヲ目撃セシメ以テ蔗作ノ方法ヲ指導啓發シツ、アリ

第七節 茶園改良

南投應以北ヲ以テ主ナル產地トナス茶業ハ總督府ノ肥料補助ト共ニ改良ノ機運ニ向ヒ應農會ハ其改良ニ著手シ臺中及南投應ニアリテハ特ニ巡回教師ヲ招聘シテ栽培上施肥手入ヲ獎勵シ茶葉摘採方法並ニ製茶方法ニ付當業者ノ指導ニ努メ新竹應ニアリテハ樹杞林外五箇區内ニ三十箇所ノ施肥園ヲ設置シテ之カ改良ヲ催シ又臺北應管內ニテハ茶園ノ大部分ヲ占ムル酸性土壤ヲ改良スルノ目的ヲ以テ石灰ヲ混入中和シ一面綠肥作付ノ試驗ヲ行ヒツ、アリ

臺北應報告 茶畑綠肥試驗 廳下八里坌堡ニ於ケル一帶ノ高臺地ハ地味瘠薄ナル特色粘質ノ土壤ニシテ茶樹以外殆ント他作物

ノ生育ニ適セス地方生産極メテ貧弱ナレハ之カ改良ヲ行ハントシ試驗地ヲ八里坌堡善埔庄ニ設ケ先ツ石灰ヲ混入シテ酸性

ヲ中和シ綠肥ヲ栽培シテ土壤ヲ肥沃ナラシムルノ方法ヲ講究シツ、アリ試驗地ハ一箇所一甲五箇所計五甲ヲ設置シ之カ試

驗ヲ行ヒタリ其成蹟ハ未タ發表スルノ時機ニ達セサルモ石灰施用ノ効果ハ多少曙光ヲ認メタルモアリ本試驗ハ地方農事

改良上緊要ト認メタルニ依リ今後連續各種ノ方法ヲ以テ之カ改良ヲ講スル計畫ナリ

新竹應報告 從來當業者ハ茶園ニ施肥セサル習慣アルヲ以テ之カ矯正ノ目的ヲ以テ督府ヨリ肥料ノ補助ヲ仰キ廳下茶主產地

ル樹杞林外五箇區内ニ三十五箇所ノ施肥園ヲ設ケ農會指導ノ下ニ茶樹一株ニ對シ二十匁宛施肥セシメタルニ葉色及發芽ノ

伸長良好ニシテ其ノ收量ハ何レモ三割以上ノ増收ヲ示シ當業者亦一般ニ其ノ有効ナルヲ認ムルニ至レリ蓋シ施肥ノ獎勵ハ

將來茶園ノ整理及増設ト共ニ最モ緊要ナル事項ト認メラル、ヲ以テ自今益々之カ獎勵ニ努力セントス

節八節 園藝改良

現今農會ノ主ナル園藝事業ハ柑橘栽培獎勵及蔬菜ノ栽培獎勵トス

一、柑橘栽培獎勵 宜蘭、新竹、嘉義及臺東廳農會ニ於テハ適當ナル地點ニ柑橘模範園ヲ設置シテ以テ優良ナル種類ノ栽培ニ付模範ヲ示シツ、アリ今ヤ結實期ニ達シ成績良好ナルモノアリ爲メニ附近農家ニ於テハ之カ栽培ニ從事スルモノヲ出スニ至レリ然ルニ柑橘栽培希望者多キニ拘ラス優良ナル種苗ヲ得ルコト困難ナルヲ以テ各廳農會ニ於テ之ヲ養成配布シツ、アリ

二、蔬菜栽培 農會ノ農場ニ於テハ内外良種ノ蔬菜ヲ取寄セ播種期節其ノ他ノ試作ヲ實行シ今ヤ優良ナル結果ヲ得タル地方アリ此等ノ地方ニ於テハ一般ニ之ヲ示スト共ニ種子ヲ配布シテ栽培ヲ獎勵シ又阿緬廳及澎湖廳農會ニアリテハ蔬菜ノ缺乏ヲ償ヒ且ツ試作ヲ兼ヌル爲メ會員ニ補助金ヲ下付シテ以テ栽培ヲ獎勵シツ、アリ

主ナル應ノ報告ヲ摘録スレハ左ノ如シ

臺北應報告 柑橘苗木養成八年々對岸ヨリ輸入セラル、不買苗木ヲ防遏シ一面優良種普及ノ目的ヲ以テ着手シタル事業ニシテ

其ノ養成シタル成苗四萬九千餘本ノ内本年無償配布ヲナシタル數二萬四千餘本トス本業ハ繼續事業トシテ來年度ニ於テハ

十八萬餘本ヲ養成配布スル豫定ナリ

宜蘭應報告 (一)模範柑橘園 既設柑橘園ハ本年漸ク開花ヲ始ムルニ至リシモ樹勢ノ急速ナル成長ヲ遂クシムヘク摘花セシメ

第一編 農業 第八章 農會

タリ而シテ尙ホ本年モ施用金肥ノ半額即チ大豆粕二十塊ヲ給與セリ

(二)柑苗養成及配付 本年二月嘉義廳下西螺ニ朱蘗苗木ヲ購入シ前年同様ノ方法ニ依リ頭圍壁ニ配付栽植セシム又本會ニ於テハ粘木ノ養成ヲナシ種柑及雪柑ノ接穗ヲ購入シ接木セシメタルカ前年養成ノ分ト合セテ八千八百餘本ヲ大正三年一、二月ノ候配付セシ答尙ホ次年用トシテ枳殼種子ヲ購入シ土地ヲ借入レ粘木養成中ニ屬ス

新竹廳報告 甲 苗木養成

(イ)柑苗養成 當期ニ於テハ大正四年春配付スヘキ苗木ノ接木及大正三年春配付スヘキ苗木ノ肥培及以後接木ニ要スル粘木ノ養成ヲ爲セリ

接木ハ斯業ニ堪能ナル人夫ヲ雇入レ大正二年二月二十八日迄ニ之ヲ完了セリ使役人夫ノ延人員三百六十五名ニシテ接木本數左ノ如シ

金柑	一三〇本
柚仔	六、一八本
種柑	七三、七七五本
年柑	一、一七〇本
ネーヅル	二三、七一一本
計	一〇四、九〇四本
粘木ノ養成數左ノ如シ	
枳殼	一四五、〇〇〇本
種柑	一五五、〇〇〇本
柚仔	九、〇〇〇本

前期養成苗木ノ肥培セルモノ左ノ如シ

種柑外三種ヲ合セ

四九、五二五本

(ロ)果苗養成 柑苗養成ノ餘力ヲ以テ適當ナル他ノ果苗桑及相思樹苗ヲ養成セリ其本數左ノ如シ

枇杷	三、五〇〇本
柿	七〇〇本
栗	一六〇本
桑	三〇、〇〇〇本
相思樹	一〇〇、〇〇〇本
計	一三四、三六〇本

乙苗木配布 柑橘苗ハ從來一年生ヲ配布セシモ當期ヨリ二年苗配布ニ變更セシヲ以テ當期ハ農會養成苗ハ配布ヲ中止シ總督府下付苗木ノミヲ配付セシニ依リ其數甚少ナシ左ニ各果苗ノ配布數ヲ掲ク

雪柑	三、二五〇本
温州	三〇〇本
レイトヅアレンシヤ	六〇〇本
種柑	四、八〇〇本
年柑	三、〇〇〇本
ネーヅル	一、七〇〇本
柿	二、〇〇〇本